

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会 アンケート調査報告書

～知的障がいのある方が「輝いて生きる」ために～

目次

1	調査方法	4
(1)	ご親族調査仕様	4
(2)	事業所調査仕様	5
2	調査結果（親族アンケートについて）	6
(1)	親族について	6
(2)	会員について	7
(3)	余暇活動について	12
(4)	成年後見制度の利用について	15
(5)	財産を残すことについて	17
(6)	困り度について	20
(7)	当協会、ならびに提供している商品・サービスについて	37
3	調査結果（事業所アンケートについて）	45
(1)	支部（事業所）について	45
(2)	当協会、ならびに提供している商品・サービスについて	52
(3)	その他	70
4	考察	72
5	おわりに	73
	<参考資料>アンケート調査票	74

(注) 「会員」……「生活サポート総合補償制度」に加入する障がい者（知的障がい児者・自閉症児者）

「支部」……会員の利用する施設・事業所等

「親族」……会員の親族等

「入所」……入所施設

「GH」……グループホーム（共同生活援助）

「日中」「日中サービス」……日中活動系サービス

自由記述回答の表現は、編集方針により一部変更しています。

はじめに

<大阪知的障害児者生活サポート協会の活動開始>

2006(平成 18)年の保険業法の改正により、「おおさか福祉互助会の存続が困難となり、2008(平成 20)年 4 月 1 日に A I U 損害保険株式会社(現・A I G 損害保険株式会社)による「生活サポート総合補償制度」が開始することになった。

新たな「生活サポート総合補償制度」の開始と同時に、保険事業に加えて知的障がい児者・自閉症児者(以下、知的障がい者)の安心・安全な生活を支援する事業実施が必要であるとの認識の下、新たな事業体として「大阪知的障害児者生活サポート協会」(以下、大阪生活サポート協会)がスタートした。

<これまでの事業の実施状況>

- ① 「大阪生活サポート協会」発足当時の事業の実施状況は、大阪知的障害者福祉協会(以下、大阪福祉協会)が既に行っていた事業に助成金を出し、共催することからスタートした。例として、大阪福祉協会会員事業所(施設)を利用する知的障がい児者が参加する年 1 回のソフトボール大会や大阪福祉協会・大阪手をつなぐ育成会・支援学校等の関係 6 団体で構成する大阪知的障がい者スポーツ協会主催「スポーツフェスタ」の協賛などである。
- ② これらの他、大阪生活サポート協会と大阪福祉協会との協働事業として「虐待防止マニュアル」「支援のありようで利用者が変わる」などの企画・発行、研修会の企画・実施である。
- ③ 独自事業としては、平成 22 年度から実施している大阪生活サポート協会の支部(事業所等)が実施する事業への助成である。毎年、報告書を発行し全支部に配布し、支部活動の促進を図ってきた。
- ④ 平成 27 年 3 月に再開・第 1 回「集まれグループホーム」を、大阪福祉協会の協力を得て開催する。その後、毎年度内容等の工夫を凝らし実施している。
- ⑤ 表現活動支援
ホームページの開設に伴い、知的障がい者の表現活動を支援することを目的に、ホームページ上に作品展示コーナーを設置。既に多くの方からご応募をいただいている。

<アンケート調査の企画・実施>

平成 20 年 4 月 1 日にスタートした「大阪生活サポート協会」は、平成 28 年 4 月 13 日に一般社団法人化し、これまで大阪福祉協会と同居してきた事務局を平成 28 年 10 月 1 日大阪府社会福祉会館内に設置・独立することになった。これを契機に、会員及び支部(会員の所属する事業所等)の実態及びニーズの把握、これらの分析を通して今後の事業のありようを考えたいと、平成 29 年度の事業計画の一つに実態調査の実施を挙げた。平成 29 年度末に事業運営委員の選任を行い、今年度のアンケート調査実施が具体化することになった。

＜アンケート調査から今後の方向性を探る＞

アンケート調査の主たる目的は、「①事業の充実を図るためのニーズ把握、②会員及び支部(事業所等)の実態把握、③「大阪生活サポート協会」の認知度の向上」等である。

会員の個別的な保険「生活サポート総合補償制度」も含め、権利の主体者として知的障がい者一人ひとりがその人らしく安心、安全に、かつ豊かな生活の実現できる仕組みを地域の中に構築しなければならない。

今回の調査結果から、以下の事項を来年度の事業として実施する方向で検討を進めていく考えである。

① なんでも相談対応

ホームページ上において、各分野の専門相談員による「Q & A」方式で相談対応する。

② 研修会等の実施（例：成年後見制度について）

もっと気軽に、身近に、情報提供できる勉強会や研修会等を会員の家族や事業所の職員等を対象に実施する。このような営みの継続が親亡き後の不安軽減に繋がると考える。

③ ネットワークの構築

一法人での事業実施には限界性があり、一法人完結から地域完結の事業実施を考える必要性が高い。特に防災に関しては、身近な地域での各機関・団体との連携・協働が必須である。当大阪生活サポート協会として、既に実施している支部活動等助成事業の活用を図り、事業所間の連携・協働を推進する。

④ 上記②③の事業実施に関しては、参加しやすい、身近な地域で実施することが重要である。現在、大阪府下を7ブロック（北摂・北河内・中河内・南河内・泉北・泉南・大阪市）に分けているが、ブロック単位の活動は機能していない状況であり、今後ブロック単位の事業実施を推進していく。

「大阪生活サポート協会」は、『権利の主体者である知的障がい者が「地域」という舞台で「輝いて生きる」ことのできる』環境づくりに努めていく所存である。

今回のアンケート調査報告書を皆様方にご高覧いただき、お気づきのご意見等を賜れば幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回のアンケート調査にご協力いただきました会員及びご家族、支部（事業所等）の皆様方に深く感謝申し上げます。

また、大阪生活サポート協会役員及び事業運営委員の皆様、ご協力いただいた株式会社インサイトの関原様、アンケート調査実施に際しましては貴重なご意見をいただくなど、多くのご支援ありごとうございました。

平成30年12月6日

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
理事長 安本 伊佐子

1 調査方法

(1) ご親族調査仕様

- ・ 調査対象：当協会に入会している会員（障がい者ご本人）の年齢より抽出
→20代・30代・40代・50代・60代
- ・ 配布サンプル数：500 サンプル（各年代 100 サンプルずつ）
→地域別に按分し配布
- ・ 回収数：147 サンプル（紙 140、Web7）、回収率：29.4%
- ・ 調査方法：郵送調査法
→親族へ直接郵送
→アンケート記入用紙の送付先は、(株)インサイトへ
→親族宛挨拶状に QR コード+URL を記載し、PC・スマホ回答の希望者を誘導
- ・ 調査期間：平成 30 年 7 月 9 日(月)～27 日(金)（3 週間）

【表-1 会員（年代×ブロック）と配布数】

【サンプル】

※有効回答のみ

年代	ブロック							総計	(構成比)	区分計	サンプル
	泉南	泉北	大阪市	中河内	南河内	北河内	北摂				
0	3	2	11		5	9	6	36	0.5%	23.6%	100
10	40	29	104	10	21	46	44	294	3.9%		
20	142	145	520	54	98	258	234	1,451	19.3%		
30	192	98	504	41	167	205	255	1,462	19.4%	19.4%	100
40	329	198	748	72	243	335	348	2,273	30.2%	30.2%	100
50	186	145	312	21	198	115	159	1,136	15.1%	15.1%	100
60	122	51	104	8	195	32	104	616	8.2%	11.7%	100
70	40	13	37		65	13	59	227	3.0%		
80	2		3		19		12	36	0.5%		
90							1	1	0.0%		
総計	1,056	681	2,343	206	1,011	1,013	1,222	7,532	※有効データ数（全8,552件中）		
(構成比)	14.0%	9.0%	31.1%	2.7%	13.4%	13.4%	16.2%				
区分計	23.1%		31.1%	29.6%			16.2%				
サンプル	100		150	150			100				

↓

【配布数】

年代	ブロック							サンプル
	泉南	泉北	大阪市	中河内	南河内	北河内	北摂	
0								
10	10	10	30	10	10	10	20	100
20								
30	10	10	30	10	10	10	20	100
40	10	10	30	10	10	10	20	100
50	10	10	30	10	10	10	20	100
60								
70	10	10	30	10	10	10	20	100
80								
90								
総計	50	50	150	50	50	50	100	500
サンプル	100		150	150			100	

(2) 事業所調査仕様

- 1 調査対象：当協会の支部（事業所等）
- 2 配布サンプル数：711 サンプル
- 3 回収数：233 サンプル（紙 200、Web33）、回収率：32.8%
- 4 調査方法：郵送調査法
 - 支部へ直接郵送
 - アンケート記入用紙の送付先は、(株)インサイトへ
 - 親族宛挨拶状に QR コード+URL を記載し、PC・スマホ回答の希望者を誘導
- 5 調査期間：平成 30 年 7 月 9 日(月)～27 日(金)（3 週間）

【表-2 ブロック別事業所数】

ID	ブロック	事業所数
1	北摂	115
2	北河内	87
3	中河内	31
4	南河内	51
5	泉北	93
6	泉南	67
7	大阪市	267
	合計	711

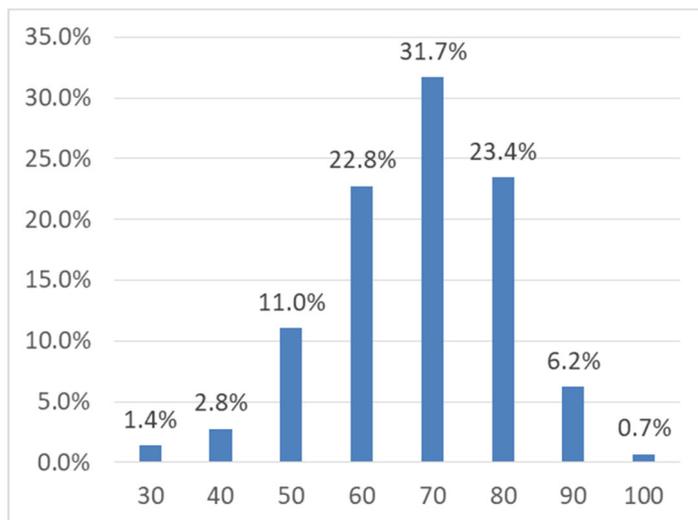
2 調査結果（親族アンケートについて）

(1) 親族について

① 回答者の年齢

回答者の年齢は、70歳代が31.7%と最も多く、80歳代23.4%、60歳代22.8%と続いている。

【表-3 あなたの年齢を教えてください】

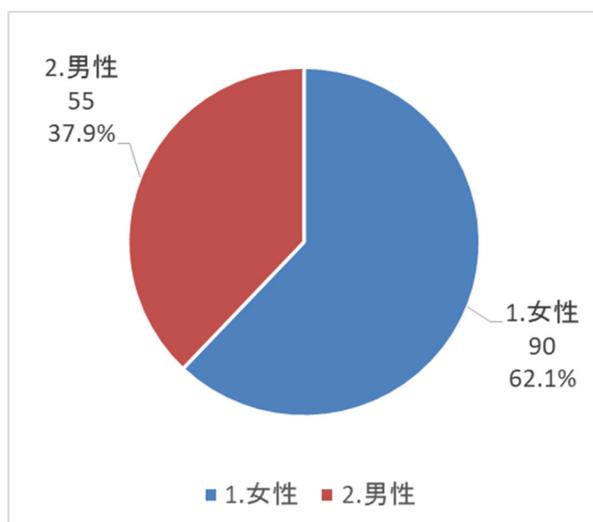


回答	件数	構成比
30代	2	1.4%
40代	4	2.8%
50代	16	11.0%
60代	33	22.8%
70代	46	31.7%
80代	34	23.4%
90代	9	6.2%
100代	1	0.7%

② 回答者の性別

回答者の性別は、女性が90人（62.1%）、男性が55人（37.9%）となっている。

【表-4 あなたの性別を教えてください】



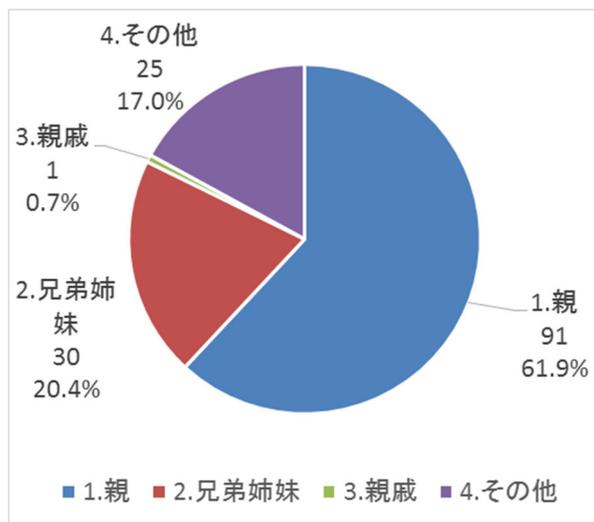
回答	件数	構成比
1.女性	90	62.1%
2.男性	55	37.9%
計	145	100.0%

(2) 会員について

① 回答者と会員との関係

回答者と本人との関係は、親が 91 人（61.9%）と約 6 割強となっている。次いで、兄弟姉妹 30 人（20.4%）となっている。

【表-5 あなたと障がいのある方ご本人との関係を教えてください】



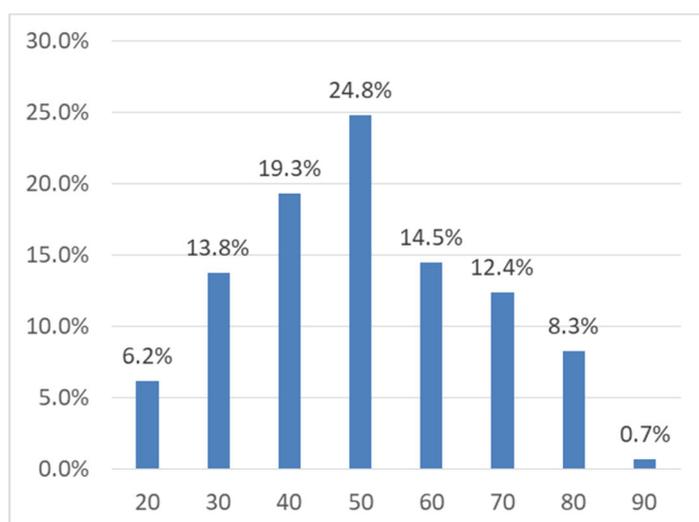
回答	件数	構成比
1.親	91	61.9%
2.兄弟姉妹	30	20.4%
3.親戚	1	0.7%
4.その他	25	17.0%
計	147	100.0%

※その他：職員 14、後見人 8、保佐人 3

② 会員の年齢

会員の年齢は 50 代が 24.8%と最も多く、40 代 19.3%と続く。

【表-6 障がいのある方ご本人の年齢を教えてください】

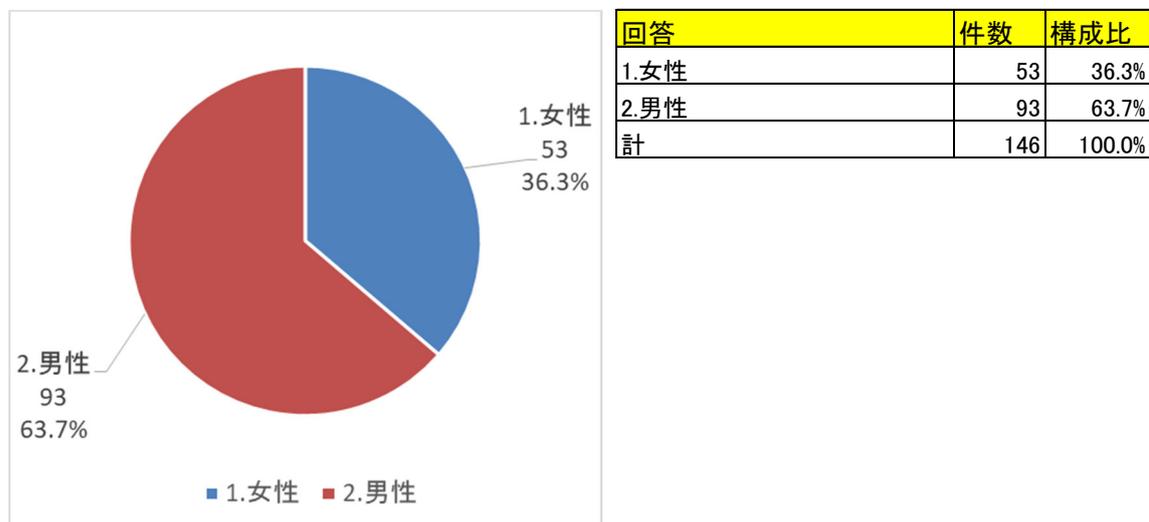


回答	件数	構成比
1.20代	9	6.2%
2.30代	20	13.8%
3.40代	28	19.3%
4.50代	36	24.8%
5.60代	21	14.5%
6.70代	18	12.4%
7.80代	12	8.3%
8.90代	1	0.7%

③ 会員の性別

会員の性別は、女性が 53 人（36.3%）、男性が 93 人（63.7%）となっている。

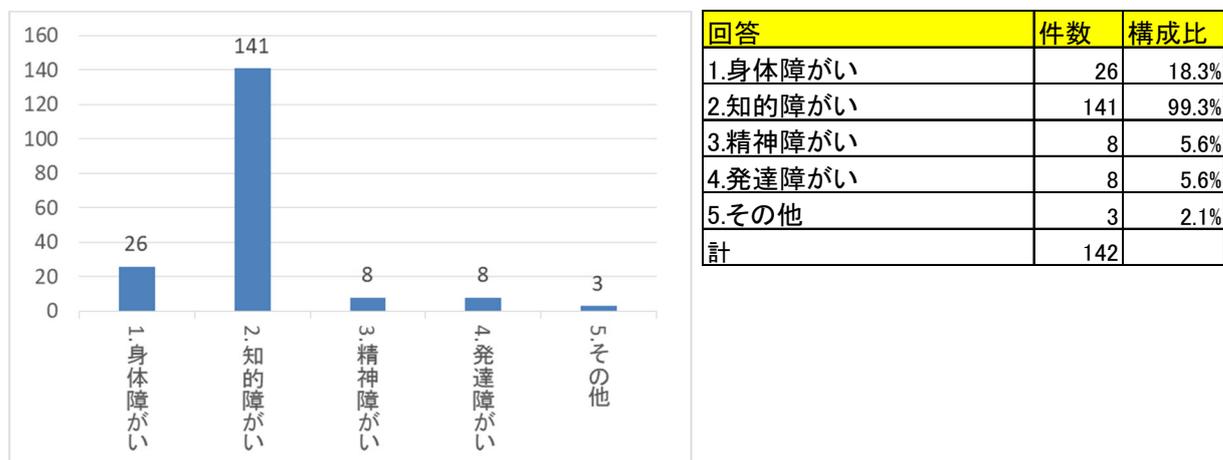
【表-7 障がいのある方ご本人の性別を教えてください】



④ 会員の障がい種別

障がい種別については、知的障がい者が 141 人（99.3%）とほぼ全員となっている。

【表-8 障がいのある方ご本人の障がい種別を教えてください】（複数回答）

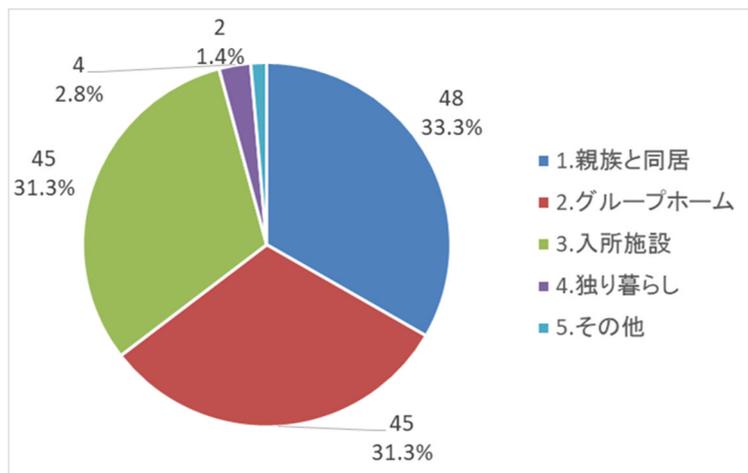


⑤ 会員の住まいについて

主な住まいは、親族と同居 48 人（33.3%）、グループホームおよび入所がいずれも 45 人（31.3%）とほぼ三分の二の結果となっている。

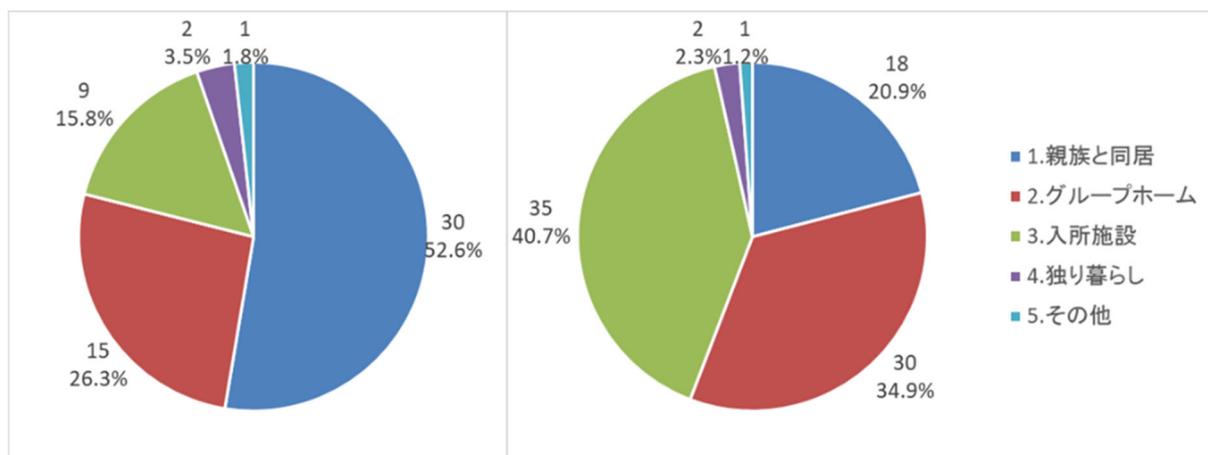
年代別に見ると、40 歳迄は親族と同居が 30 人（52.6%）と半数を超えるが、41 歳以上になると、同居は 18 人（20.9%）と約 3 割減少し、その分、入所 35 人（40.7%）、GH30 人（34.9%）の構成比増加に繋がっている。

【表－9 障がいのある方ご本人の主な住まいはどこですか？】



回答	件数	構成比
1.親族と同居	48	33.3%
2.グループホーム	45	31.3%
3.入所施設	45	31.3%
4.独り暮らし	4	2.8%
5.その他	2	1.4%
計	144	100.0%

【表－10 主な住まい（～40歳・41歳～）】

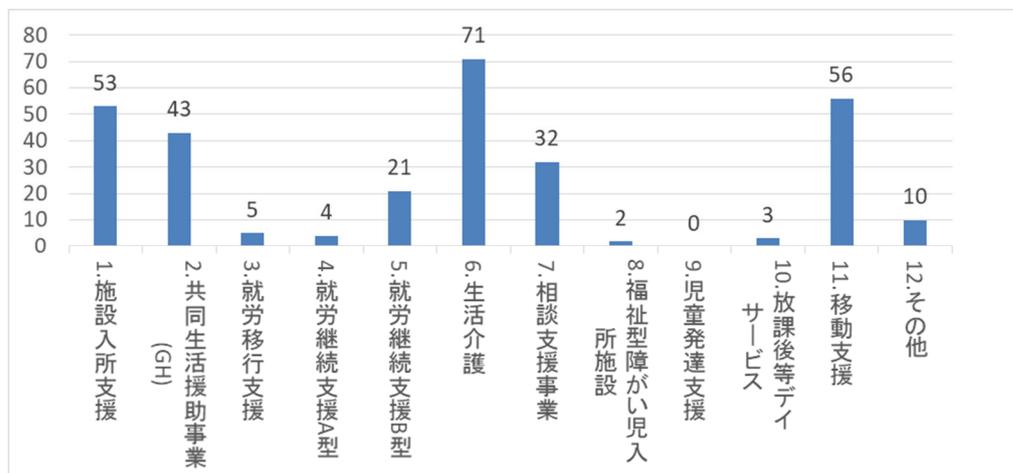


回答	～40歳	41歳～
1.親族と同居	30 (52.6%)	18 (20.9%)
2.グループホーム	15 (26.3%)	30 (34.9%)
3.入所施設	9 (15.8%)	35 (40.7%)
4.独り暮らし	2 (3.5%)	2 (2.3%)
5.その他	1 (1.8%)	1 (1.2%)
計	57 (100.0%)	86 (100.0%)

⑥ 会員の利用しているサービス

現在利用されているサービスについては、生活介護が 71 人と最も多く、次いで移動支援 56 人、施設入所支援 53 人となっている。

【表-11 障がいのある方ご本人が、利用しているサービス内容を教えてください】（複数回答）



回答	件数	構成比
1.施設入所支援	53	37.3%
2.共同生活援助事業(GH)	43	30.3%
3.就労移行支援	5	3.5%
4.就労継続支援A型	4	2.8%
5.就労継続支援B型	21	14.8%
6.生活介護	71	50.0%
7.相談支援事業	32	22.5%
8.福祉型障がい児入所施設	2	1.4%
9.児童発達支援	0	0.0%
10.放課後等デイサービス	3	2.1%
11.移動支援	56	39.4%
12.その他	10	7.0%
計	142	

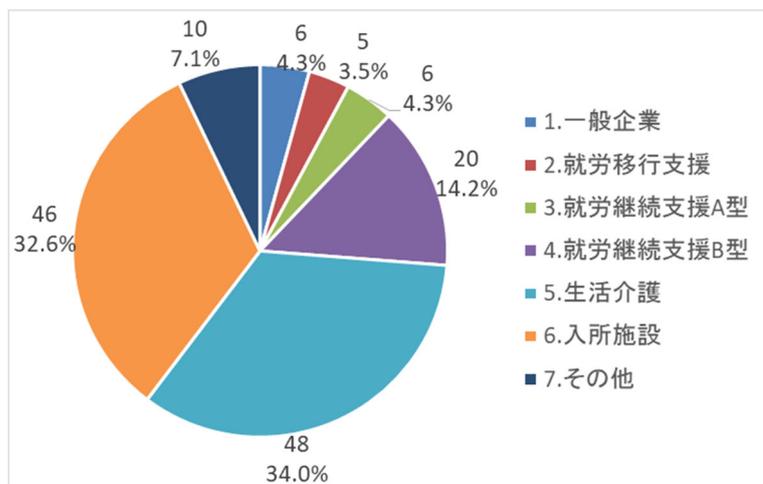
※その他：居宅 3、自費 2、行動援護 1 等

⑦ 主な日中活動場所について

主な日中活動の場所は、生活介護 48 人（34.0%）と入所施設 46 人（32.6%）が 3 割強と多くなっている。

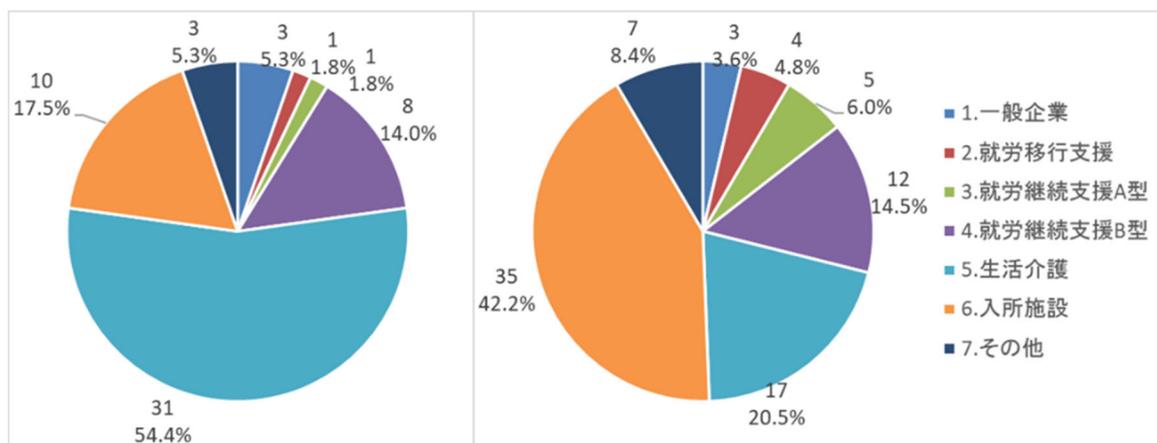
なお、会員の年代別に見ると、40 歳迄は、生活介護が 31 人（54.4%）を占めており、入所施設は 10 人（17.5%）となっているが、41 歳以上になると、入所施設が 35 人（42.2%）と約 25pt も割合が増加する。

【表－12 障がいのある方ご本人が、主に日中過ごしている場所はどこですか？】



回答	件数	構成比
1.一般企業	6	4.3%
2.就労移行支援	5	3.5%
3.就労継続支援A型	6	4.3%
4.就労継続支援B型	20	14.2%
5.生活介護	48	34.0%
6.入所施設	46	32.6%
7.その他	10	7.1%
計	141	100.0%

【表－13 主に日中過ごす場所（～40歳・41歳～）】



回答	～40歳	41歳～
1.一般企業	3 (5.3%)	3 (3.6%)
2.就労移行支援	1 (1.8%)	4 (4.8%)
3.就労継続支援A型	1 (1.8%)	5 (6.0%)
4.就労継続支援B型	8 (14.0%)	12 (14.5%)
5.生活介護	31 (54.4%)	17 (20.5%)
6.入所施設	10 (17.5%)	35 (42.2%)
7.その他	3 (5.3%)	7 (8.4%)
計	57 (100.0%)	83 (100.0%)

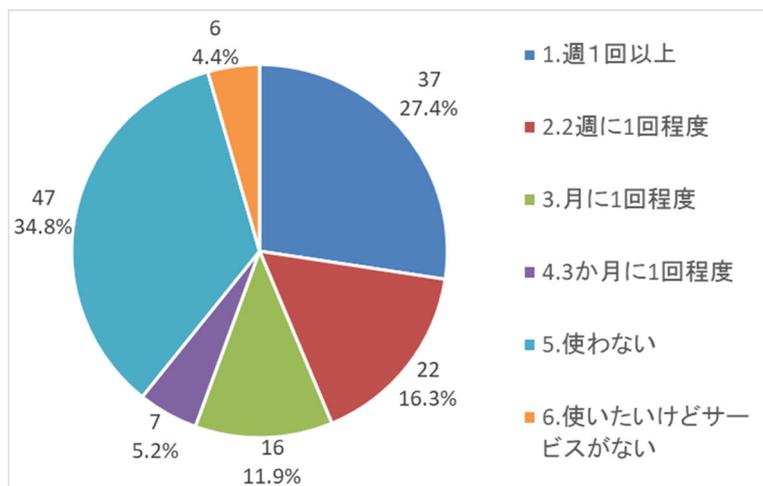
(3) 余暇活動について

① ガイドヘルパーの利用

ガイドヘルパーの利用については、使わない方が 47 人（34.8%）であり、週 1 回以上が 37 人（27.4%）と使う／使わないで大きく異なる。

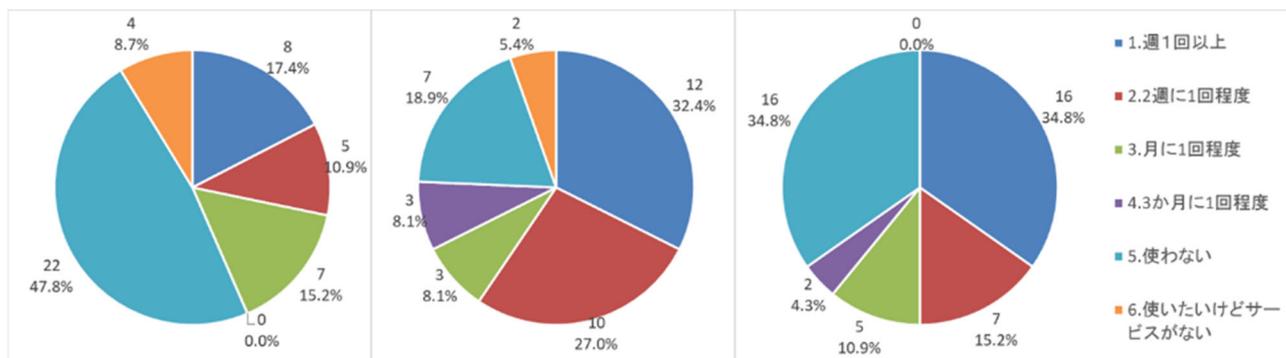
なお、利用サービスによる違いを見ると、入所の場合は約半数が使わないのに対し、GH や日中活動を利用している方は GH で 32.4%、日中で 34.8%と約 1/3 の方が高い頻度で利用していることが分かる。

【表-14 障がいのある方ご本人が、余暇活動としてガイドヘルパーをどの程度利用していますか？】



回答	件数	構成比
1. 週1回以上	37	27.4%
2. 2週に1回程度	22	16.3%
3. 月に1回程度	16	11.9%
4. 3か月に1回程度	7	5.2%
5. 使わない	47	34.8%
6. 使いたいけどサービスがない	6	4.4%
計	135	100.0%

【表-15 ガイドヘルパー利用（入所・GH・日中）】

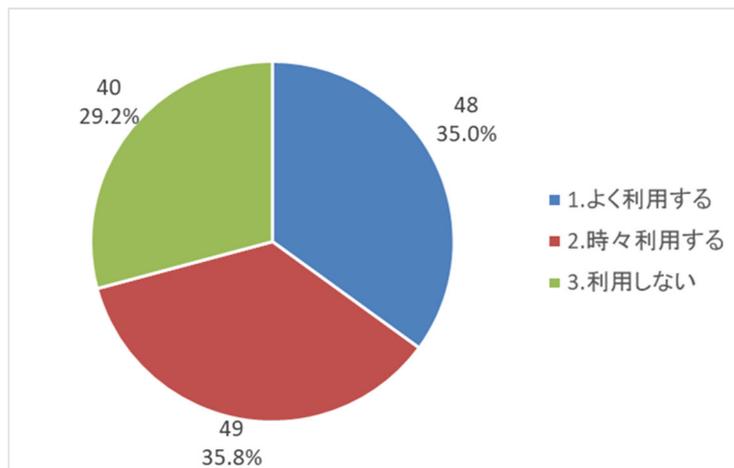


回答	入所	GH	日中
1.週1回以上	8 (17.4%)	12 (32.4%)	16 (34.8%)
2.2週に1回程度	5 (10.9%)	10 (27.0%)	7 (15.2%)
3.月に1回程度	7 (15.2%)	3 (8.1%)	5 (10.9%)
4.3か月に1回程度	0 (0.0%)	3 (8.1%)	2 (4.3%)
5.使わない	22 (47.8%)	7 (18.9%)	16 (34.8%)
6.使いたいけどサービスがない	4 (8.7%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)
計	46 (100.0%)	37 (100.0%)	46 (100.0%)

② 事業所等の実施するイベント利用

事業所が実施するイベントの利用状況はほぼ三等分の結果となり、よく利用する 48 人 (35.0%)、時々利用する 49 人 (35.8%)、利用しない 40 人 (29.2%) となっている。

【表-16 障がいのある方ご本人が、今までに余暇活動として、通所している障がい福祉事業所のイベント企画をどの程度利用していますか？】



回答	件数	構成比
1.よく利用する	48	35.0%
2.時々利用する	49	35.8%
3.利用しない	40	29.2%
計	137	100.0%

③ その他余暇活動内容

「ガイドヘルパー利用による余暇活動」と「通所事業所のイベント利用による余暇活動」について尋ねたあと「その他の余暇活動」を自由記述で尋ねたが、ガイドヘルパー利用による余暇活動や事業所のイベント利用による余暇活動の記載もあった。

比較的多い回答は、20代以下で「教室や習い事」と推測される回答が5件あり、30代以下でスポーツ関連の回答が8件あった。

【その他、障がいのある方ご本人が、余暇として活動されていることがあればご記入ください。（ガイドヘルパー利用、事業所イベント企画以外）（自由記述） ※末尾の（ ）は本人年齢、以下同

〈20代以下〉

- ・ ガイドヘルパー利用（月2～3回、もっと利用したいが、人手が足りないと言われる）（19歳）
- ・ 音楽療法、プール教室、OT（作業療法士）さんの教室（20歳）
- ・ 障がい者の仲間作り教室（20歳）
- ・ ファインブラザ大阪や堺健康福祉プラザのプール等の教室（21歳）
- ・ 同窓会（月1日）、プールボランティア（NPO法人）（月4回）（22歳）
- ・ ガイドヘルパー利用（24歳）
- ・ 習い事（ドラム）（24歳）
- ・ サッカー（28歳）

〈30代〉

- ・ 家族（父親）の伴走でジョギング、マラソン大会、参加をしている（30歳）
- ・ 音楽療法、動作法の企画、教育会行事、私的同好会のお楽しみ会（32歳）
- ・ 肢体不自由児者父母の会イベント（市、府）（32歳）
- ・ スペシャルオリンピックスでのスポーツ（33歳）
- ・ 自費ヘルパーによる外出支援（34歳）
- ・ 親と街歩き（35歳）
- ・ 障害者スポーツセンター（36歳）
- ・ 移動支援を利用（37歳）
- ・ ガイドヘルパー利用（38歳）
- ・ 障がい者スポーツセンター（38歳）

〈40代〉

- ・ デイサービス（40歳）
- ・ 月1回ボランティアグループとの余暇活動（42歳）
- ・ 花の会の組織の中で就労をしている方を対象とした余暇活動です（高槻）（43歳）
- ・ ボウリング（44歳）
- ・ カラオケ、映画、プール（45歳）
- ・ スポセン、長居ラブラブ（47歳）

〈50代〉

- ・ 大阪障がい者復興会行事の成人教室（50歳）
- ・ 太鼓教室（50歳）
- ・ 2週間に一度自宅帰宅（54歳）
- ・ 実家に帰って休養（57歳）

〈60代以上〉

- ・ G.Hの年1回の1泊旅行とか作業所の日帰り旅行に参加してます（63歳）
- ・ 地域の行事、祭りに参加する（64歳）
- ・ 土日デイサービス利用（71歳）
- ・ 月に1～2回兄妹宅に外泊（73歳）
- ・ 地元の祭、法人行事（74歳）
- ・ 太鼓クラブ（75歳）
- ・ 施設にお任せしている（82歳）

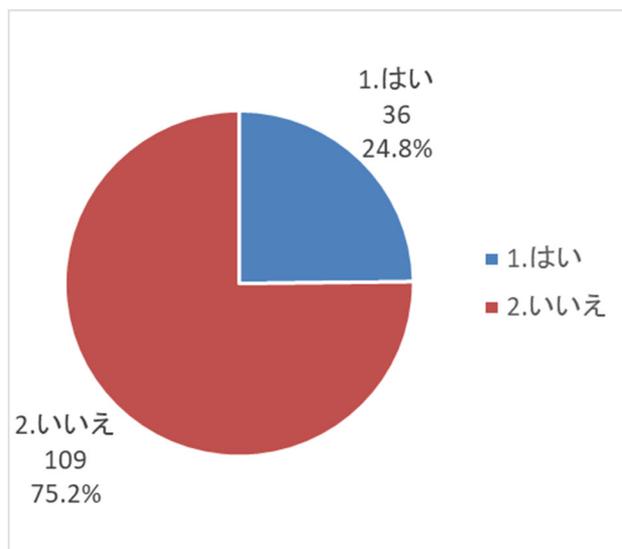
(4) 成年後見制度の利用について

成年後見制度の利用については、「利用」が 36 人（24.8%）となっている。

また、成年後見人は親族後見 24 人、第三者後見 18 人となっており、法人後見は 1 人のみ、となっている。

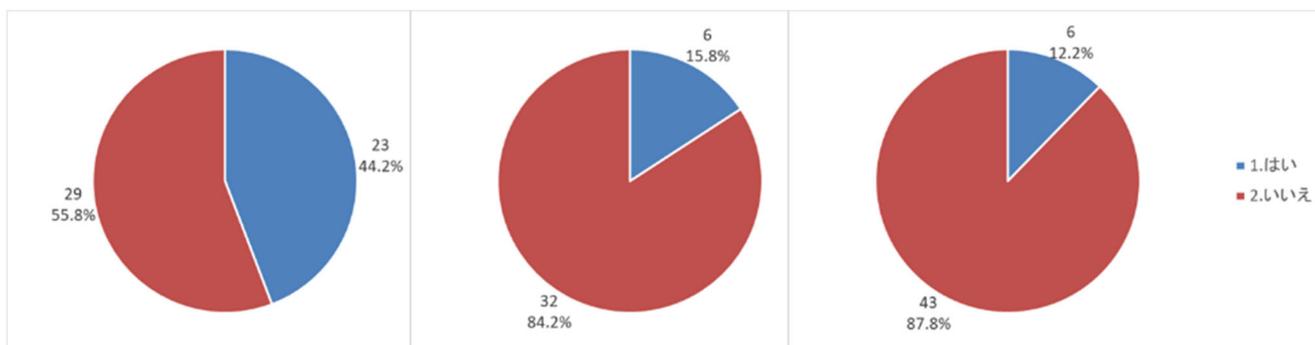
また、利用サービス別に見ると、入所は成年後見制度の利用が 23 件（44.2%）と半数近くが利用しているのに対し、GH や日中ではそれぞれ 6 人（15.8%、12.2%）と 1 割強の方しか利用していない。

【表-17 成年後見制度を利用していますか？】



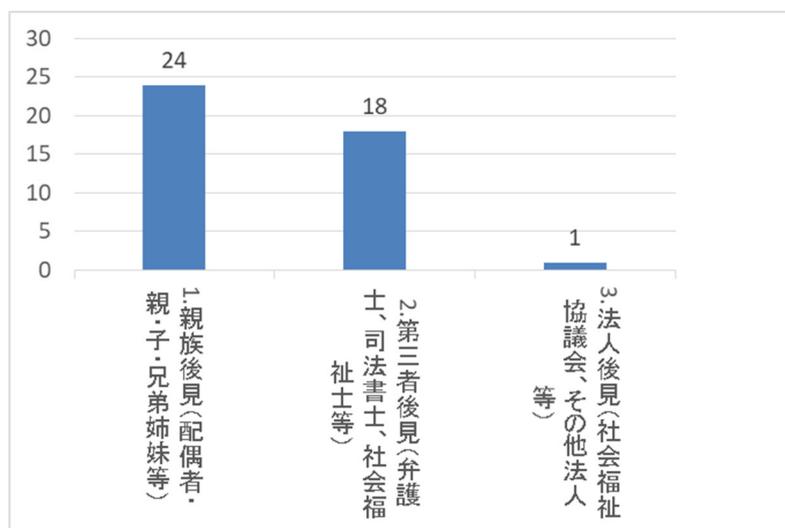
回答	件数	構成比
1.はい	36	24.8%
2.いいえ	109	75.2%
計	145	100.0%

【表-18 成年後見制度の利用（入所・GH・日中）】



回答	入所	GH	日中
1.はい	23 (44.2%)	6 (15.8%)	6 (12.2%)
2.いいえ	29 (55.8%)	32 (84.2%)	43 (87.8%)
計	52 (100.0%)	38 (100.0%)	49 (100.0%)

【表－19 成年後見人等は誰ですか？】（複数回答）



回答	件数	構成比
1. 親族後見（配偶者・親・子・兄弟姉妹等）	24	68.6%
2. 第三者後見（弁護士、司法書士、社会福祉士等）	18	51.4%
3. 法人後見（社会福祉協議会、その他法人等）	1	2.9%
計	35	

親族後見を選んだ理由としては、「親族だから」という理由が多い。また第三者後見や法人後見を選んだ理由としては、適当な親族がないことを理由に挙げる人が多い。

【後見人を選んだ理由を教えてください。】（自由記述）

〈「1. 親族後見（配偶者・親・子・兄弟姉妹等）」を選んだ方〉

- ・ 障害年金の管理のため（26歳）
- ・ 第三者後見と法人後見は信用不安と費用面（28歳）
- ・ 母子家庭であるため（34歳）
- ・ 親が今元気だから（38歳）
- ・ 兄妹だから（43歳）
- ・ 元後見人の父親が亡くなったため（47歳）
- ・ 姉が責任を持つてみるとの事で遺言書を司法書士の方を通じ公正証書作成済み（51歳）
- ・ 兄だから（52歳）
- ・ 財産管理のため（52歳）
- ・ 兄弟が頼りになる（54歳）
- ・ 弟が福祉関係で仕事をしている為（54歳）
- ・ 世話する親が死去した為、唯一私が親族として残ったため（55歳）
- ・ 親族が私以外にいない（55歳）
- ・ 両親が亡くなりました（63歳）
- ・ 実弟が後見人（65歳）

- ・ 成年後見人になる以前より本人の面倒を見ていたので（66歳）
- ・ 本人の尊厳や諸権利が社会的に保障されえるために家族で相談し母親と姉が適任ということになった（71歳）
- ・ お金の管理等が難しいので（73歳）
- ・ 今後の生活設計その他全般（73歳）

〈「2. 第三者後見（弁護士、司法書士、社会福祉士等）」を選んだ方〉

- ・ 親と連絡がつかないため弁護士に任せてる（31歳）
- ・ 市民後見人（34歳）
- ・ お金に対する観念が“不足している”将来的に不安がある。親族が老いていく心配がある（35歳）
- ・ 市町村長申立、本人親族の所在不明の為（43歳）
- ・ 身内の方が誰もおらず市長町申し立てにより、選定されました（45歳）
- ・ 親が死亡した際の遺産相続の手続きのため（56歳）
- ・ 判断能力の低下や財産管理のため（57歳）
- ・ 仕事が忙しく、施設とは遠方に居住しているため（61歳）
- ・ 自分以外に身寄りがなく、健康不安もあるため（62歳）
- ・ 判断能力の低下、財産管理のため（64歳）
- ・ 家族は兄1人で高齢の為見れる者がいない（70歳）
- ・ 安心だから。親族後見だと何かと大変だから（71歳）
- ・ 家族、兄弟が高齢の為（80歳）
- ・ 親族で後見人になる人がいない（年齢不明）

〈「3. 法人後見（社会福祉協議会、その他法人等）」を選んだ方〉

- ・ 信頼をしているから（19歳）

〈その他の方〉

- ・ まだ解りませんのでもう少し見守っています（43歳）
- ・ 利用を検討中（50歳）
- ・ 現在後見人制度を利用の書類作成中です。色々な書類で手間がかかっている（52歳）

(5) 財産を残すことについて

財産を残すことについては、かなり考えている方が28人（22.4%）、少し考えている方が56人（44.8%）と7割近くの方が考えている、という回答であった。

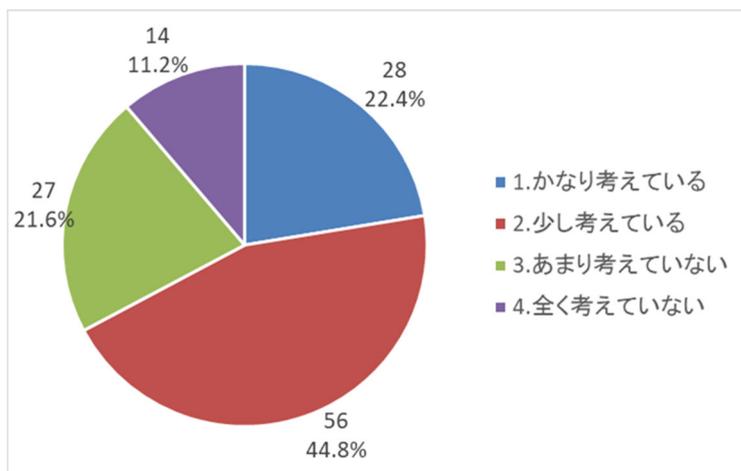
その金額については、5百万円相当を考えている方が多い。

また、年代別に聞くと、41歳以上の方がかなり考えている割合が1割近く多くなる（それぞれ17.6%（～40歳）、26.4%（41歳～））。

また、利用サービス別に聞くと、日中の方が考えている割合が8割近くと、入所・GHと比して1割以上高くなっている。

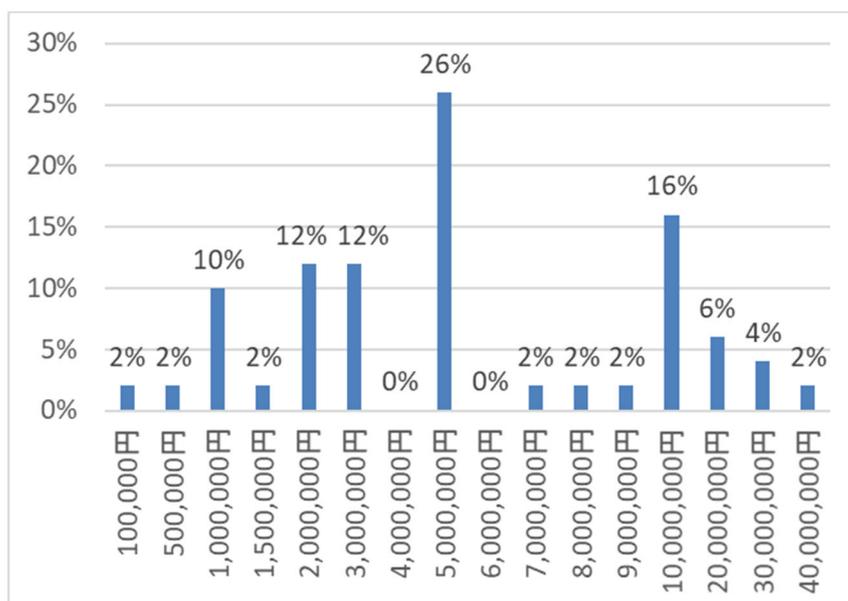
なお、考えている金額が1,000万円以上の方は、主に日中が4割、GHが3割となっているが、入所では1割とかなり少ない。

【表-20 ご本人のためにどの程度財産を残すことについて考えていますか？】

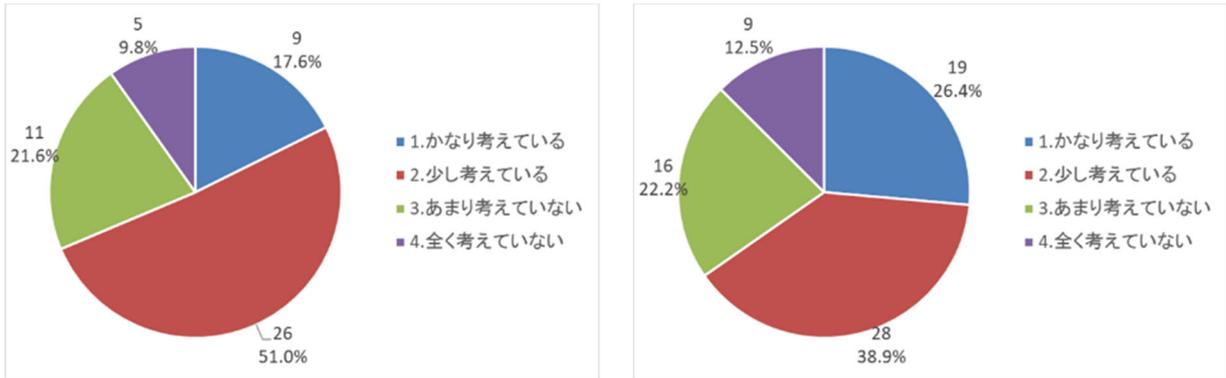


回答	件数	構成比
1. かなり考えている	28	22.4%
2. 少し考えている	56	44.8%
3. あまり考えていない	27	21.6%
4. 全く考えていない	14	11.2%
計	125	100.0%

【表-21 また、その金額は？】

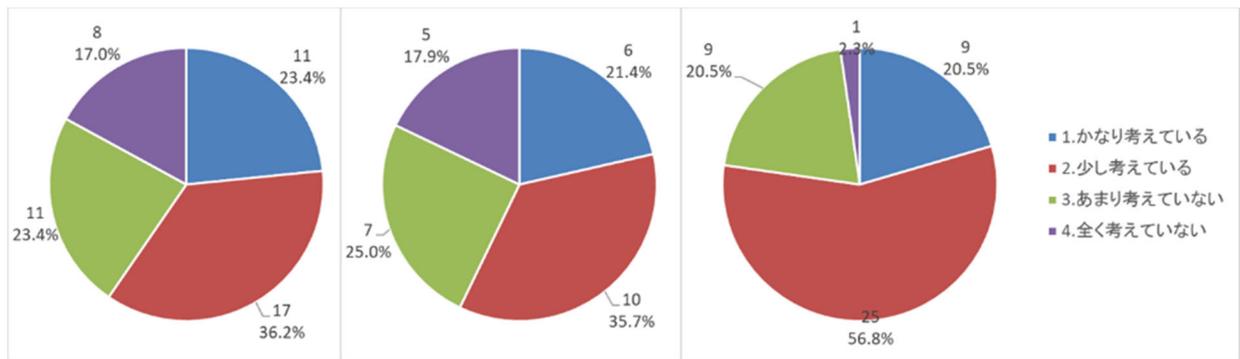


【表-22 財産を残すことについて（～40歳・41歳～）】



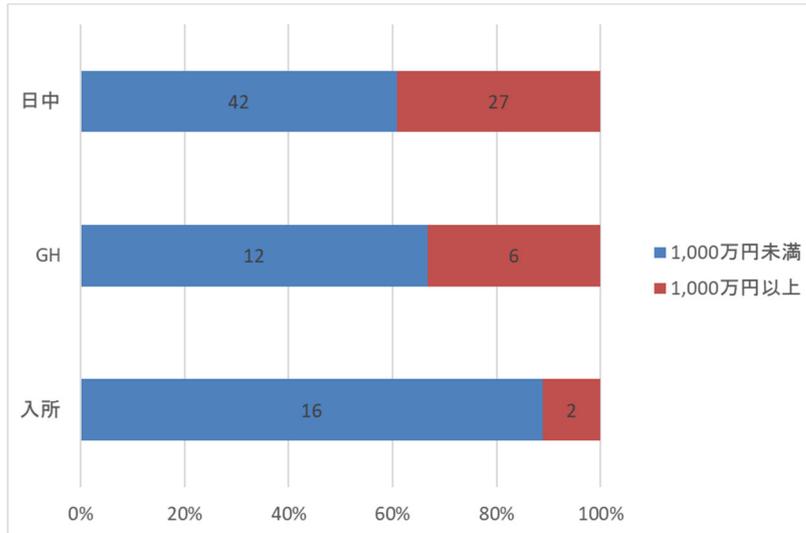
回答	～40歳	41歳～
1.かなり考えている	9 (17.6%)	19 (26.4%)
2.少し考えている	26 (51.0%)	28 (38.9%)
3.あまり考えていない	11 (21.6%)	16 (22.2%)
4.全く考えていない	5 (9.8%)	9 (12.5%)
計	51 (100.0%)	72 (100.0%)

【表-23 財産を残すことについて（入所・GH・日中）】



回答	入所	GH	日中
1.かなり考えている	11 (23.4%)	6 (21.4%)	9 (20.5%)
2.少し考えている	17 (36.2%)	10 (35.7%)	25 (56.8%)
3.あまり考えていない	11 (23.4%)	7 (25.0%)	9 (20.5%)
4.全く考えていない	8 (17.0%)	5 (17.9%)	1 (2.3%)
計	47 (100.0%)	28 (100.0%)	44 (100.0%)

【表-24 その金額（利用サービス別）】



(6) 困り度について

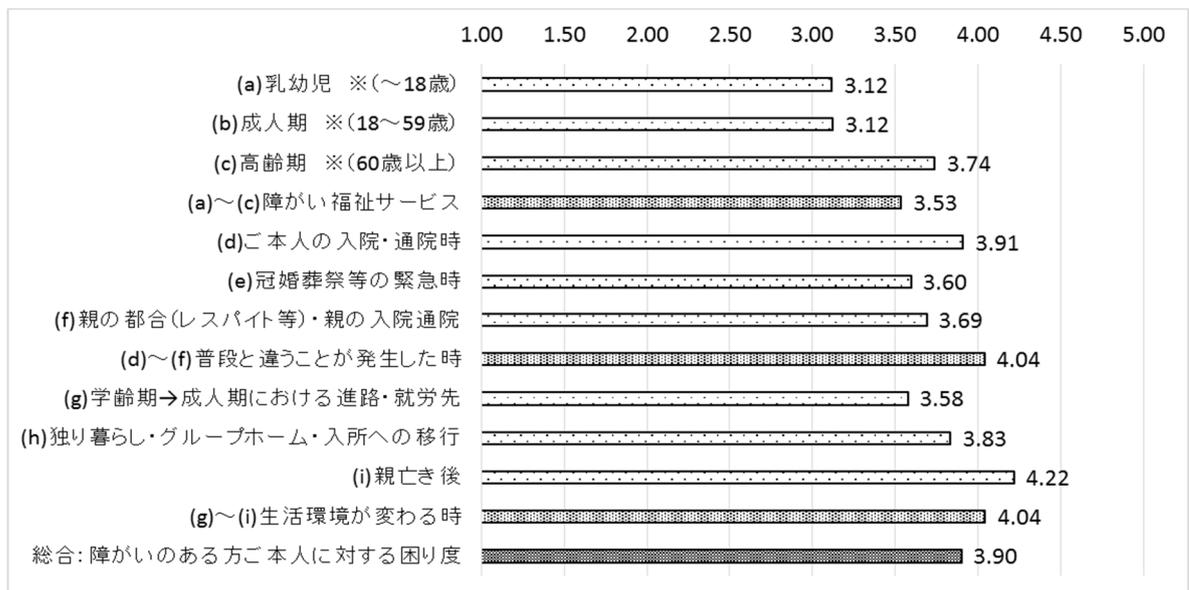
① 困り度

5段階評価でライフステージ別に困り度（今後の予測も含めて）を聞いた（最高5点、最低1点）。全体的には3.90ptとかなり高い困り度を感じている。また、中項目については、(g)～(i)生活環境が変わる時が4.04ptと高く、その中でも(i)親亡き後は4.22ptと相当困っておられる様子が伺える。

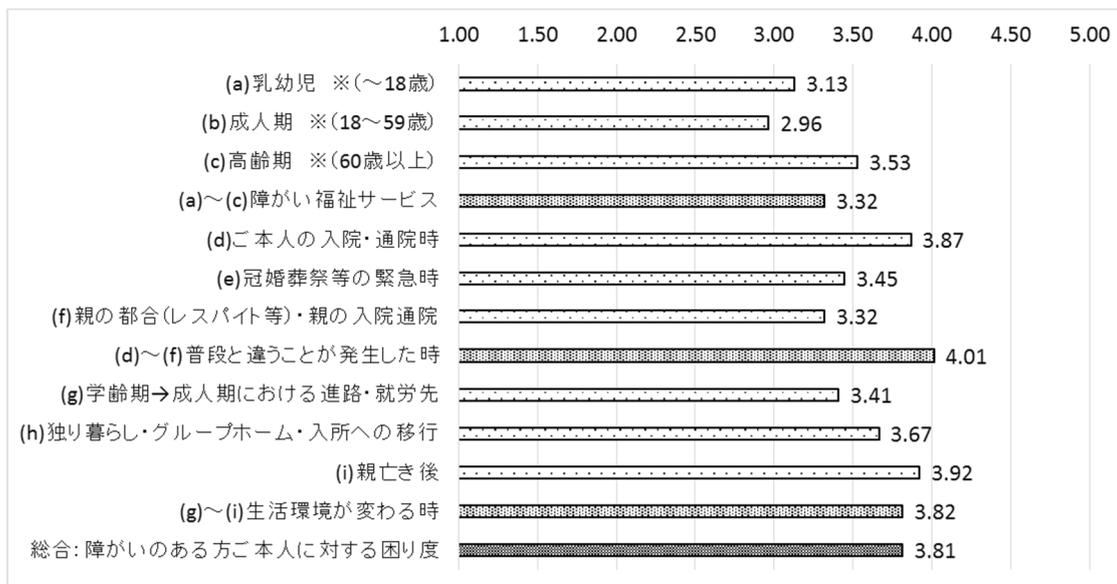
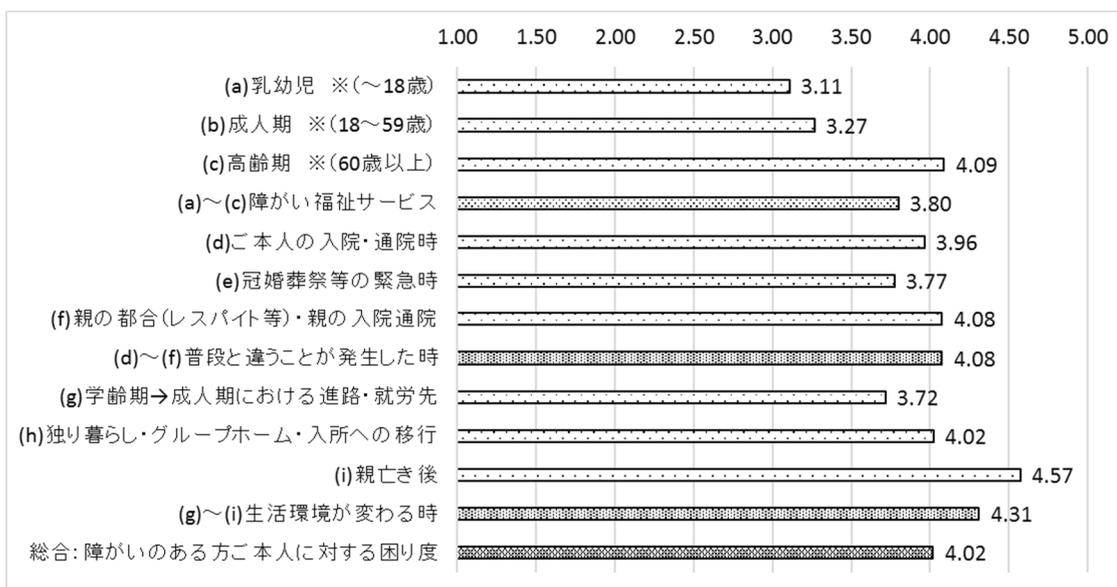
また、年代別に見ると、～40歳の若い時の方が困り度は高く（4.02pt）、特に(i)親亡き後については4.57ptとほとんどの方が相当困っている様子が伺える。

また、利用サービス別に見ると、日中活動を利用している方が相対的に困り度は高く（4.09pt）、(h)住まいの移行（4.34pt）と(i)親亡き後4.60pt）に対する困り度が高い。

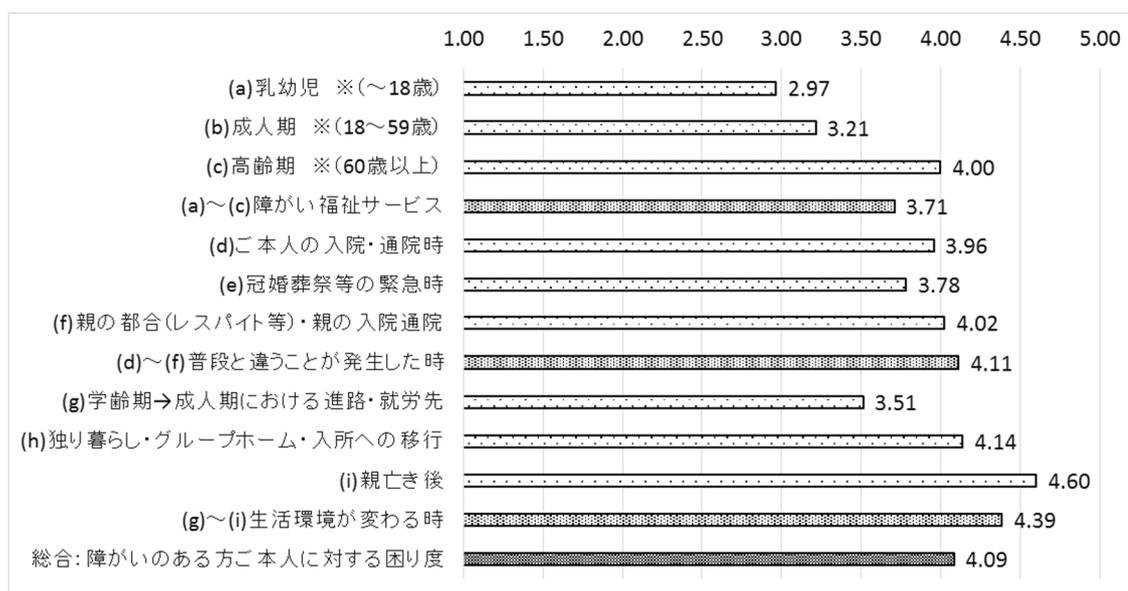
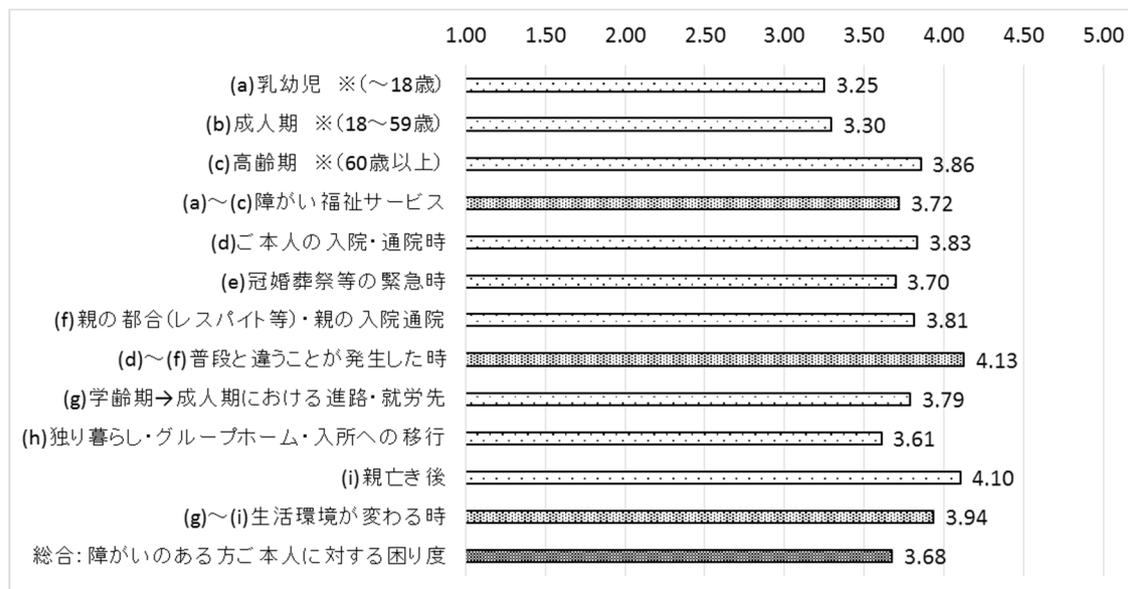
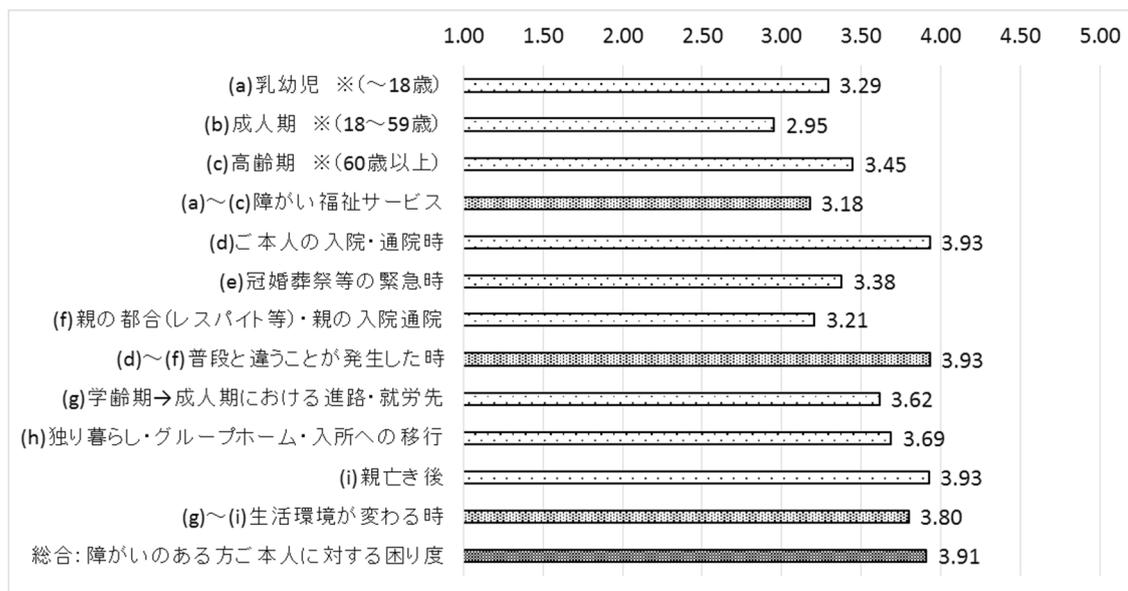
【表-25 あなたの困り度について5段階から1つ選んでください】



【表-26 困り度（～40歳・41歳～）】



【表-27 困り度（入所・GH・日中）】



② 障害福祉サービスに対する困り度の理由

障がい福祉サービスに対する「困り度」を5段階から1つ選んだ理由を、困り度の段階ごとに分けて掲載した。困り度の段階は、「乳幼児期」「成人期」「高齢期」を「総合的にみたとき」の回答を優先し、「総合的にみたとき」の回答がない場合は、各時期の回答の中で最も困り度が高い段階にした。

【障がい福祉サービスに対する困り度について】（自由記述）

〈全く困らない〉

- ・ 現在の入所施設がよくサポートして頂いており不安がない（53歳）
- ・ 親が死亡後に保佐人に選任されたため過去の状況は不明。現在は入所施設入所中で日常的支援は任せている。（56歳）

〈あまり困らない〉

- ・ 十分に利用しているので（20歳）
- ・ 施設のサービスが良いため（40歳）
- ・ 週1回の休みにはガイドと外に出かけている（47歳）
- ・ 施設がよくやってくれている（50歳）
- ・ 障害者施策の進展で親も子も安心して暮らせる時代に感謝しています（63歳）
- ・ 入所施設が信頼できる所なので安心してまかせられるから（71歳）
- ・ 本人のサービスに対する理解が難しい（74歳）

〈普通〉

- ・ どんなサービスがあって、どれが利用できるかわからない（20歳）
- ・ 今のところ、うまくいっていると思います（28歳）
- ・ 通所施設の給食が自前から業者委託になろうとしている。食事支援が必要でありすぐに対応してもらっていたのにできなくなるのではと不安である（例：十二指腸潰瘍のため、繊維質の食品の除去、ミキサー食、キザミ食など）（32歳）
- ・ 何とかなる（35歳）
- ・ 人見知りする方なので細かいサービスを受け安心する（35歳）
- ・ 入所しているから（38歳）
- ・ 高齢になって体や心が衰えて来た時に、このままの生活ができるのかが不安（45歳）
- ・ サービスを受ける事ができている為（50歳）
- ・ 日中は作業所その後はグループホームで過ごしてる。本人が希望してお友達と楽しく過ごしているので私達は安心してます（51歳）
- ・ 公的交通を利用できないので、困っています。タクシーの料金補助があれば助かります。外出することが少ないので、施設の外での楽しみを多くしたいと思います（52歳）
- ・ 1ヶ月の大半はショートステイを利用。在宅中はヘルパーとの外出など（55歳）
- ・ 障がいや体の具合が大きく変わった時に、今まで通りのサービスがうけられるのか不安（73歳）
- ・ 入所施設・グループホームと連絡を密にしている私自身も世話、その他をしている（73歳）
- ・ 施設におまかせしている（82歳）

〈やや困る〉

- ・ 成人になってから、OT（作業療法）やST（言語聴覚療法）の訓練が受けれる機関が無い（21歳）
- ・ 親亡き後の生活が不安（22歳）
- ・ グループホーム等が少ない（24歳）

- ・ 自分は働きたいが施設の利用時間などから常勤で働けない。子どもはエネルギー有り、家でも疲れる。自分が年老いた時の事を考えると怖い（26歳）
- ・ 自分が年齢を重ねて異性の親子では難しいことも増えてきているから（28歳）
- ・ 終業時間が早い（4時には帰宅）あと1時間でも延ばして欲しい（28歳）
- ・ 重度なので、それに対応できる支援者が少ない（32歳）
- ・ 本人の特性に合う所が見つからない（34歳）
- ・ 土、日の日中支援、お金の管理、こまかい身体のケア（耳そうじ、爪切り等）長期の入院が出来ない（父）（36歳）
- ・ GHの利用料+生活費が、年金だけではまかないきれず、毎月の負担額が大きすぎる（38歳）
- ・ 言葉が話せないので施設内でのコミュニケーション不足（38歳）
- ・ 外出ニーズへの支援策の量的確保がむずかしい（43歳）
- ・ 付添人の人がいないと難しいから（43歳）
- ・ 平穏で心安らかに平和に楽しく暮らしてほしいといつも願っています（52歳）
- ・ 障がい者の高齢者向け施設（日中活動、グループホーム）がなく、将来不安であり是非開設する必要あり（56歳）
- ・ 母親が亡くなっている所以他の家族より何をするにもやや困難であると思います（57歳）
- ・ 兄妹で大阪へ出てきたときの、日中活動場所が有期限であったこと。住まい（GH）はバリアフリー化もあり少し安心。住まい（GH）の消防設備などの規制が厳しくなり、移転などの場合、貸してもらえるところがなくなる（62歳）
- ・ 高齢や疾病で医療介護が必要になった時の体制整備（62歳）
- ・ 親が生存中は親が関わっていたため、以前の状況はよく分からない（76歳）

〈かなり困る〉

- ・ ガイドヘルパーは週末や休日しか利用出来ない。リハビリなどの通院等にも利用したいが人手が確保出来ないと断られる。今はまだ親がカバー出来るが、親がカバー出来なくなる近い将来に不安をおぼえる（19歳）
- ・ サービスに対して自発的に色々な希望、計画を伝える事が出来ないので、将来利用をどのように進めていけば良いかわからない（現状は親がすべて手配しているが…）（21歳）
- ・ 土地柄、障がい者に対するサービスを提供する施設や業者が少ない（21歳）
- ・ 重度心身障がい者のためのグループホームは居住地にまだ作られていない（26歳）
- ・ 重度の知的障がいがあるため、親に経済的援助がない（32歳）
- ・ 親亡き後の受け入れ施設が少ない（32歳）
- ・ 放課後デイサービスが当時はなかったので困りました（35歳）
- ・ 同居している娘夫婦に迷惑かけることがある（39歳）
- ・ 土日にデイサービスを利用するのに希望日がとれない（40歳）
- ・ 月3回の余暇でガイド利用。GHは4月より始めたばかりで月4~5回利用ですが、諸々の費用を合計すると、365日に考えると、とても障害者年金では足りません。サービスを受けるにあたって、現在は親が窓口になって利用している現状です、親亡きあとのサポートが心配です（43歳）
- ・ サービスの種類、量の不足（45歳）
- ・ 親が元気な内は本人の意志が解るが、親亡き後、本人の意思決定に不安がある。高齢化した場合さらに重度化するのでは？（45歳）
- ・ 自分も障がいがあるから（52歳）
- ・ 現在母親（85歳）と二人暮らしです。母親がいなくなったら、私（妹）はグループホームを希望したいのですが、本人は一人暮らしを希望し、他人との共同生活を受け入れられそうにない困っています。生活能力的にも経済的にも一人暮らしは不可能なため困る（60歳）
- ・ 困らない理由がない（61歳）
- ・ 今は親がいるのでいなくなったら一人では何もできなくなる（65歳）

- ・ 乳幼児期から受診、相談を繰り返して来たが受け入れられる所も、サービスもなく在宅で途方に暮れていたが、59歳で入所が出来た（71歳）
- ・ 自分自身では判断できない為（80歳）

③ 普段と違うことが発生した時の困り度の理由

普段と違うことが発生した時の「困り度」を5段階から1つ選んだ理由を、困り度の段階ごとに分けて掲載した。困り度の段階は、「ご本人の入院・通院時」「冠婚葬祭等の緊急時」「親の都合（レスパイト等）・親の入院通院」を「総合的にみたとき」の回答を優先し、「総合的にみたとき」の回答がない場合は、各出来事の回答の中で最も困り度が高い段階にした。

【「普段と違うことが発生した時」の困り度について】（自由記述）

〈全く困らない〉

- ・ G.Hでの対応が365日体制です。時々帰宅してますが、それ以外はよく見ていただいています（63歳）

〈あまり困らない〉

- ・ 小さい頃から色々な福祉、事業所、サービスを受け、関わってきているので、回りの事業所の方々が子供の状態や家庭の事情をわかって下さっています（19歳）
- ・ 1人で自宅で過ごせる為（20歳）
- ・ 急な用件でショートステイ等をお願いしても、だいたい対応してもらっている（24歳）
- ・ 何とかなる（35歳）
- ・ 本人入院時、病院によっては付添不可の所があり、施設側職員不足や親の付添が夜間出来ないことがある（53歳）
- ・ 入所施設に身上監護は任せている（56歳）
- ・ 兄として、妹の住まい（GH）の近くに転居して毎日でも顔が見れることで安心している。GHは365日利用している（62歳）

〈普通〉

- ・ 家族の協力やヘルパーさんのおかげで今までも助けてもらい何度か乗り切った（26歳）
- ・ 昨年ケガした時に職員さんに一緒に通院して頂き助かりました。幼児期に薬を拒否した時もありましたが今はちゃんと飲んでくれる（35歳）
- ・ 施設入所支援を受けているから（38歳）
- ・ 自分が入院した時に、誰が面倒を見てくれるのが不安（45歳）
- ・ 本人が作業所の職員さんGHの世話人さん達が大好きで慕っているので（51歳）
- ・ 学校卒業後、入所施設で長年暮らす。10年前地域移行でグループホーム利用（62歳）
- ・ GH入居しており、その都度、本人の事に関しては支援できている（72歳）
- ・ 親は現存しておりません（73歳）
- ・ 入所施設に入所しているため（76歳）

〈やや困る〉

- ・ 自分で判断し行動することが苦手。出来ることも多いので成長と共に困り度も少なくなると期待はしています（13歳）
- ・ 今まで経験ないので大変困ると思います（20歳）

- ・成人したとは言え、親と離れる事がほとんど出来ない（21歳）
- ・急な事態に対応してもらえない。例えば親の入院となると作業所へ送っていくすべがなく、家に閉じこめておくことになり不安（28歳）
- ・入院付添が必要で、仕事等を休まないといけない。総合的にみて、移動支援やグループホームが利用できているのでなんとかなっているが利用できなければたちまち困る（32歳）
- ・親の入院時に一時帰宅が出来ない為、本人の不安が募ると思われず（38歳）
- ・親も体調不良で施設も遠方なのでその時になると困る。色々考える（手順）必要あり（38歳）
- ・入所施設の助けを頼りにしている（40歳）
- ・現在お世話になっている園でヘルプしていただけたらと思いますが、本人の意思が言えないので（43歳）
- ・主人が死去しました。近くに姉の家族がいますが、私が病気になり入院したときは困ります（43歳）
- ・通所している事業所でGHとショートステイを利用したいと思っているが、すでに数人の方が利用していて世話人が足りない（43歳）
- ・パニックをおこす（46歳）
- ・職員で判断が難しい場合がある（50歳）
- ・現状の理解が困難（50歳）
- ・コミュニケーションが取りにくいので困る（54歳）
- ・入院した場合の付添等長期に入院した場合施設入所がどうなるのか（56歳）
- ・読み書き事務処理に援助が必要なので状況説明がややむずかしい（57歳）
- ・本人の入院、通院時は私が付添っています。親の入院時1週間程度なら一人でも可能であったが長期になると、洗濯やできないことが多いので一人で生活できないので困る（60歳）
- ・姉2人は76歳73歳でこれから年をかさねるごとに上記の件が発生すると困ります（61歳）
- ・入院、通院のつきそいを誰がしてくれるのかが心配な時がある（73歳）

〈かなり困る〉

- ・主に母親の私がメインに面倒をみているので、突発的なことが起こった時にカバーしてくれる人間がいない（19歳）
- ・1人にさせられないので（21歳）
- ・近くに施設がない。発作があるので、直ぐには預けることができない（21歳）
- ・本人と生活が別なので（22歳）
- ・レスパイトはかなり前から予定を組めるようになった。葬式や入院は急に入るの、緊急に対応して頂けるところが少なく大変困っている（26歳）
- ・本人の緊張が強くなり落ち着いて過ごせないから（28歳）
- ・見てくれる人がいないと困る（28歳）
- ・日常生活が決まっている事が安定に繋がっているの、本人も周りも困る（32歳）
- ・変化に弱いから（32歳）
- ・あらかじめ予測できることが起きた時に困る（34歳）
- ・重度の人を預かってくれるところが当時は不足していた（35歳）
- ・一時的にショートステイするにも、専門の知識と設備のあるところが必要（心臓疾患を持っているため）（37歳）
- ・1人で何でもできないので、心配です（39歳）
- ・緊急時にショートステイが利用できない事がある（40歳）
- ・親兄弟以外の人とのつき合い方が不安（42歳）
- ・両親死亡、兄弟姉妹の所在不明のため（43歳）
- ・家族が協力できないので、入所施設職員ができない為（45歳）
- ・環境の変化についていけない。ショートステイ、ガイドヘルパーが急には手配しにくい（45歳）

- ・ 本人一人にしておけない（46 歳）
- ・ 今は入院した時等は親が付き添いをしています。両親が亡くなった場合かなり困ると思う（47 歳）
- ・ 本人とは遠く離れて生活している為、入院、通院となると継続的に世話をするのは困難（51 歳）
- ・ 親の入院が発生した時は帰宅できないので大変困る（本人の一番の楽しみがそがれる）（52 歳）
- ・ 親はいないが、自分に障がいがあるから（52 歳）
- ・ 困らない理由がない（61 歳）
- ・ 入所施設が遠いため、姉である私自身が高齢であるために困難になる（63 歳）
- ・ 親も高齢なので困る（65 歳）
- ・ 私が高齢になっているので（67 歳）
- ・ 本人の障がいや問題が重く家族以外のかかわりが難しかったり利用できる社会資源も無かった。親の日頃の通院も滞りがちで放置もあった（71 歳）
- ・ 単独での対応が難しい、家族の協力が必要なる（74 歳）
- ・ 直ぐに動けるスタッフが確保しにくい（75 歳）
- ・ 自分自身では判断する事ができない為（80 歳）
- ・ 入院時、世話ができない、差額ベッド代、付添い費の費用手当てできない（82 歳）

④ 生活環境が変わる時の困り度の理由

生活環境が変わる時の「困り度」を5段階から1つ選んだ理由を、困り度の段階ごとに分けて掲載した。困り度の段階は、「学齢期→成人期における進路・就労先」「親族との同居から独り暮らし・グループホーム・入所への移行」「親亡き後」を「総合的にみたとき」の回答を優先し、「総合的にみたとき」の回答がない場合は、各環境変化の回答の中で最も困り度が高い段階にした。どの項目でも困り度が選択されていないが、選んだ理由だけ記載された回答も、最後に掲載した。

【「生活環境が変わる時」の困り度について】（自由記述）

〈全く困らない〉

- ・ 現在の入所施設であれば、指導、管理が良く徹底されており不安がない（53 歳）

〈あまり困らない〉

- ・ 現在グループホームや入所先が決まっていなくて、ショートステイで色々な施設を回りに1・2日くらい自宅に帰ってきます。新しい入居先が決まっても慣れてるので入居先のスタッフの方がしっかりしたスキルを持って下さっていれば安心です（19 歳）
- ・ 入所施設に身上監護は任せている（56 歳）
- ・ 本人も親が亡くなればそれなりに理解できると思います。もうすでに親御さんの亡くなられた方々がG.Hにおられますが日常の生活は不自由なくそれを見て少し安心してます（63 歳）
- ・ 現在施設入所中のため（71 歳）
- ・ 母親は平成3年に死去しておりその後は兄妹で相談している（73 歳）

〈普通〉

- ・ 何とかなる（35 歳）
- ・ 現在お世話になっている園で引き続き暮らしてもらえらなら普通と思われれます（43 歳）
- ・ 現在は自己である程度は身の回りの事はできている為（50 歳）

- ・ 就労については選択肢が少なく、新しくできた作業所を利用、グループホーム利用時金銭的援助が難しく、生活保護を受けている（62歳）
- ・ 就労先が上手くみつからなかったり、新しい場所で住む時に不安が大きかった（73歳）
- ・ 施設でお世話全面的に頂き、有難い。自身がケア出来る能力ない（82歳）

〈やや困る〉

- ・ 1人で生活するためには支援が必要（20歳）
- ・ 親亡き後、自立していない子に対して大変不安です（20歳）
- ・ 親亡き後のことはまだ準備できていない（24歳）
- ・ グループホーム等が少なく、入所待ちなど多い（24歳）
- ・ 今はまだ側にずっといるので私が亡くなった時を考えると辛い。ただ兄妹がいるので頼るしかない（26歳）
- ・ 一度に生活環境が変わらないように少しずつ慣れるようにしていきたい（28歳）
- ・ 環境の変化をなかなか受け入れてくれない（32歳）
- ・ 普段の生活が変わると、リズムが狂いメンタル的に落ち着かなくなる（33歳）
- ・ 環境の変化への適応がむずかしい（34歳）
- ・ 生活が落ち着くまでの時間がかかる。今いる施設がずっと居られないか心配しています（35歳）
- ・ 親亡き後も施設の助けを切に願う（40歳）
- ・ 新しいことに不安が強く、つまづくトラウマになって慣れるまでに時間がかかる（43歳）
- ・ 乳児期よりずっと施設生活が続いている為（43歳）
- ・ 自分の居場所がわからなくパニックになると思う（46歳）
- ・ 親がいなくなると人間関係（意思疎通）が取りにくくなる（54歳）
- ・ 姉である私が亡くなった後、弟がどうなるか（56歳）
- ・ 変化に対する理解はできるのだけれど、どう振る舞えばいいのか方向づけが自力では不可能か（57歳）
- ・ 兄弟、叔父、叔母の代になっている（75歳）
- ・ 既に親は死亡。現在は入所施設で支援を受けている（76歳）

〈かなり困る〉

- ・ 本人の一人暮らしは難しく、グループホームも数が足りていないと感じるし、その質もとても気になる（19歳）
- ・ とにかく将来どうなるのか不安（21歳）
- ・ 施設が少ない（21歳）
- ・ 親から離れられない子の親が居ない状況を理解する事も出来ないのに生活していけるのか（21歳）
- ・ 親亡き後が不安（お金など）（22歳）
- ・ 重度心身障がい者のためのグループホームは、居住地にまだ作られていない（26歳）
- ・ グループホーム入所が待ち状態でなかなか独立させられない。親（私）がいつまで元気でいれるか不安です（28歳）
- ・ まだ先のことだと思っていますが、不安です（28歳）
- ・ 生活環境が変わることで本人としてはとても不安を感じるようである、たとえば姉の出産等で家に帰ってきた時、息子は姉が赤ちゃんにとっても気を使って十二指腸潰瘍になったり、その他のことでもすぐに体調をくずすようになったから（32歳）
- ・ 生活の質が落ちると予測される（親亡き後）、特に余暇内容で習い事や仲間と楽しむ事ができなくなる（32歳）
- ・ 言葉がしゃべれない何も訴える事ができない（34歳）
- ・ 環境が変わると精神的に不安定にならないか不安です（36歳）
- ・ 父子家庭の為（36歳）

- ・ 先天性心臓病という基礎疾患を持ち、かなり高度な知識を持って介護する必要がある（37歳）
- ・ 親亡き後の事がとても不安です、金銭面＋精神面において（38歳）
- ・ 言葉がないので難しいのではないかと不安です（38歳）
- ・ 自立できていないので心配です（39歳）
- ・ グループホームに入所させたいが、医療行為が必要なため入所できにくい（40歳）
- ・ 現在は薬で抑えているが、大声とか暴れ方がひどくなるのでは（42歳）
- ・ 親亡き後はどの様に生活が出来るか（43歳）
- ・ ショート（週に1泊2日とか2泊3日）利用しているので施設に慣れているが、入所施設がいっぱい（どこも）入所出来ずかなり困っている（45歳）
- ・ 入所施設→GH（家賃が高い）→地域（受け入れがない）（45歳）
- ・ 本人の一人暮らしは難しく、グループホームも数が足りていないと感じるし、その質もとても気になる。変化についていけない（45歳）
- ・ 親、兄弟、が少ないから。姉がいますが人工透析を受けているので（46歳）
- ・ 今は両親健在ですが亡き後がまだ決まってないので心配。後見人の事を考えていますがなかなかふみきれない（47歳）
- ・ 理解力が弱い、本人が糖尿病のためインシュリンを1日3回注射しているので医療ケアの今後も心配（50歳）
- ・ 今は施設入所支援を受けています。その施設になじんでそれなりに楽しく生活しています。（本人なりに）生活環境が変わるとなじめない（52歳）
- ・ 1人でどうしようもできない（52歳）
- ・ 共同生活が受け入れできるよう説得するのが、がんこな性格なので難しいのが困る（60歳）
- ・ 困らない理由がない（61歳）
- ・ 一人暮らしの経験がない為（61歳）
- ・ 入所前の2～3年ようやくデイサービスやショートステイなど利用できるようになり家や親の手を離れた。社会経験をすることが出来たのは貴重であった（71歳）
- ・ 自分自身では判断する事ができない（80歳）

〈その他〉

- ・ 親亡き後は施設と相談して決める（50歳）
- ・ 入所施設で30年になります親の入院などの時でも、安心してできました。親離れ、子離れは、長い年月がかかるので施設と家庭の交流で無理なくできたのではないかと思います。生活の中での楽しみにガイドヘルパー同伴の外出を現在は月1回ですが、数をふやして欲しいと思っています。帰省も親の加齢により月1回だけになってしまいました（52歳）

⑤ 総合的な困り度の理由

すべてを総合的にみたときの「困り度」を5段階から1つ選んだ理由を、困り度の段階ごとに分けて掲載した。困り度が選択されていないが、選んだ理由だけ記載された回答も、最後に掲載した。

【すべてを総合的にみたときの困り度について】（自由記述）

〈全く困らない〉

- ・ 現在入所中の施設の対応が良く、将来的に不安がない（53歳）

〈あまり困らない〉

- ・ 重度の知的障がいと身体が大きい為、最初は大変かもしれませんが、すぐに慣れると思います（19歳）
- ・ 現在お世話になっております園で引続き暮らせていただけるなら（43歳）
- ・ 30年以上この生活パターンで来ているので落ち着いている（51歳）
- ・ 入所施設に身上監護は任せている（56歳）
- ・ ある程度自立して生活しているため（57歳）
- ・ 親のいる間に充分できる事はしてあげたい。親亡き後思い出だけでも強く生きてほしいと思います（63歳）

〈普通〉

- ・ 本人は環境に順応すると思われる（単調でおもしろみのない生活でも）（32歳）
- ・ 何とかなる（35歳）
- ・ 生活介護施設、GHと事業者が同じで、信頼も深く、このままの平常生活を望んでいる（62歳）
- ・ 老化が進んでいくので今後の対応策を考えております（73歳）
- ・ 施設でお世話全面的に頂き、有難い。自身がケア出来る能力ない（82歳）

〈やや困る〉

- ・ 本人は成長してきているので、環境が整っている所では問題なくやっていけそうですが周りの理解の無さから本人の様子がガラリと変わることがある。バカにされいじめられたりする可能性が多いかと（13歳）
- ・ 今の時点では親が何とかカバー出来るが、それもいつまで可能かはわからないから。（19歳）
- ・ 親が高齢である。本人に1人で生活するという自覚がないのに新しいことをするのが苦手（20歳）
- ・ 本人が一人どこまで出来るか今後の課題です（20歳）
- ・ 将来的な生活が見えて来ない（21歳）
- ・ 将来的な生活の段取りができない（22歳）
- ・ まだまだ障がいを持った子を育てるのは大変な社会です（26歳）
- ・ はじめは、本人も不安だと思いますが、慣れるとは思いますが。（28歳）
- ・ 今は家族と一緒にだが親亡き後どうなるか不安があるから（28歳）
- ・ 親（私）の不測時の対処（28歳）
- ・ 障がいが重く、コミュニケーション不足なので適応しにくい。まわりに理解してもらい、適切な対応をとってもらえるように努力しなくてはならない（30歳）
- ・ 言葉の理解がどこまでできているか、分からないので痛い、苦しいの訴えもできない（34歳）
- ・ 本人の理解度が不足している場合が多い（34歳）
- ・ 親亡き後の事がすべて（今GH入所なので、土日の日中支援がない事）（36歳）
- ・ 親が高齢のため健康上の理由（40歳）
- ・ 自発的に言動が少ないので、家族でも本人の気持ちが解らなくて悩む時がある（43歳）
- ・ 自分の生活する場所がなかなか決まらなかったり、そこに住んでも思いどおりの所でない所が多く、落ち着かなかった（45歳）
- ・ 親亡き後の生活出来る所があるか否かが心配（50歳）
- ・ 言葉が言えないので自分の意志を伝えられない（54歳）
- ・ 両親が亡くなってからの他人との接触（意思疎通）に多少時間要す（54歳）
- ・ これからの本人の老後がどうなるか（56歳）
- ・ 経済的な基盤を支えてあげる人が常に必要なので（年金、国保の毎年の手続き等）（57歳）
- ・ 成年後見人が、高齢のため、負担が大きくなる（63歳）
- ・ 障がいを持った人が高齢化して行った時に今まで通りのサービスをしてもらえるのが不安（73歳）
- ・ 本人の緊急時の対応（74歳）

- ・ 直ぐに動けるスタッフ、親戚が確保しにくい（75 歳）
- ・ 親が生存中は親が関わっていたため、過去の状況はよく分からない。現在は入所施設で支援を受けているため日常の対応は任せている（76 歳）

〈かなり困る〉

- ・ 施設が少ないのと、本人の体調による（21 歳）
- ・ 週末は自宅に戻れているが、親がいなくなれば、週末どう過ごすのか、GH はスタッフが常駐していないので休日は必ず外へ出されるので居場所がなくなる。休みの日でもゆっくり過ごせない！（GH は自分の家のはずなのに…）（21 歳）
- ・ 将来の生活の場について見通しが立たないため（26 歳）
- ・ 施設にいつまで入所できるかわからないから（27 歳）
- ・ 一人で居ることができないので心配しています（35 歳）
- ・ 本人が知的障がいがあり、病気に対する自覚がないので、すべて周囲が状況を（心臓疾患）判断しながら介護する必要がある（37 歳）
- ・ 年齢が上がるにつれて、精神面がとても心配です（38 歳）
- ・ 病院の定期受診、日常的に医療行為が必要なので親亡き後の不安がある（40 歳）
- ・ 成年後見人として活動しているが、本人の意思決定をどの様に支えていくのか考えると悩むことも多い（43 歳）
- ・ 姉妹にゆだねる（44 歳）
- ・ 家の中がきらいで外ばかり出たがる（45 歳）
- ・ 高齢化、重度化していく場合、施設利用は難しい（45 歳）
- ・ 本人、一人になってしまうので（46 歳）
- ・ グループホーム利用考えています。年齢が高いため生活に慣れるか心配があります（47 歳）
- ・ 親が高齢化し病気死亡した時、後の生活を考える時とても心配であり大変困ります（52 歳）
- ・ 困らない理由がない（61 歳）
- ・ 入所施設で懇切なケアを受けているが、病気などにより継続出来なくなった時入院した病院でも適応出来るのかどうかその後はどうするのか等（71 歳）
- ・ 自分自身では判断ができない（80 歳）

〈その他〉

- ・ 年齢が上がってくると身体的にも障がいが増えてきて機能低下が進んでいる。体調も崩しやすい（32 歳）
- ・ 動作が鈍く時間の事については全く関心がない。寝るのが遅く朝はほっておけば午後 2 時位しか起きない（年齢不明）

⑥ 困り度（数量化 I 類による応用レンジ分析）

レンジ分析とは、多変量解析という方法を用いて、「困り度にどの程度影響を与えるのか、その強さ」を算出する方法である。そして、応用レンジ分析というのは、その影響の強さを 3 種類で整理し、「その項目がどのような影響を与えるタイプなのか？」を把握する方法である。

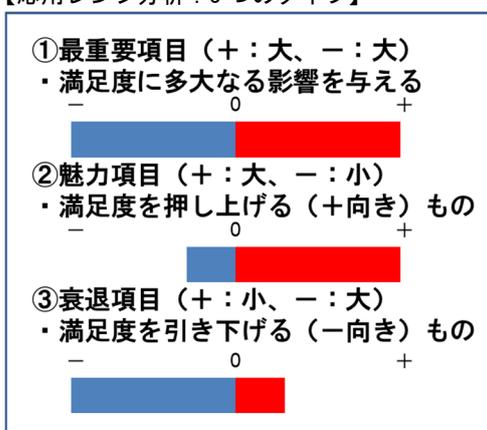
①は、困り度に対して、プラスの影響もマイナスの影響も大きい。よって、困り度を大きく左右する大切な「最重要項目」である。②はプラスの影響が大きく、マイナスの影響は小さい。よってこれは「困り項目」と呼ばれ、この項目の困り度が高まる

と、全体の困り度を押し上げる魅力的な項目である。③は②と逆で、プラスの影響が小さく、マイナスの影響が大きいもので「改善項目」と呼ばれ、この項目の困り度を下げると、全体の困り度を引き下げる取組み必須の項目である。

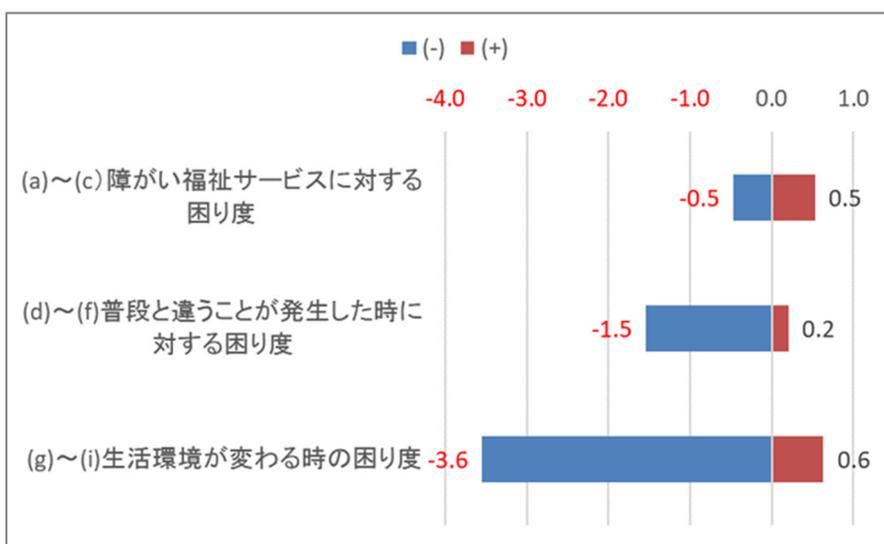
中項目では、(g)～(i)生活環境が変わる時の困り度が相対的に強く、また「③改善項目」タイプであることから、この課題が解決されると困り度は相当減る、と想定される。

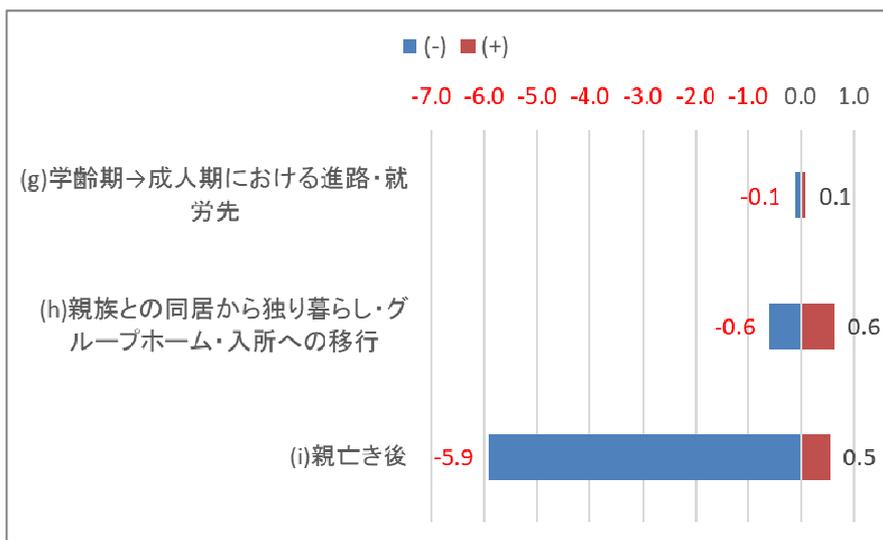
また、(g)～(i)の小項目について見ると、(i)親亡き後の困り度が最も影響が強く、また「③改善項目」タイプであることから、この課題が解決されると困り度は相当減る、と想定される。

【応用レンジ分析：3つのタイプ】



【数量化 I 類による応用レンジ分析】



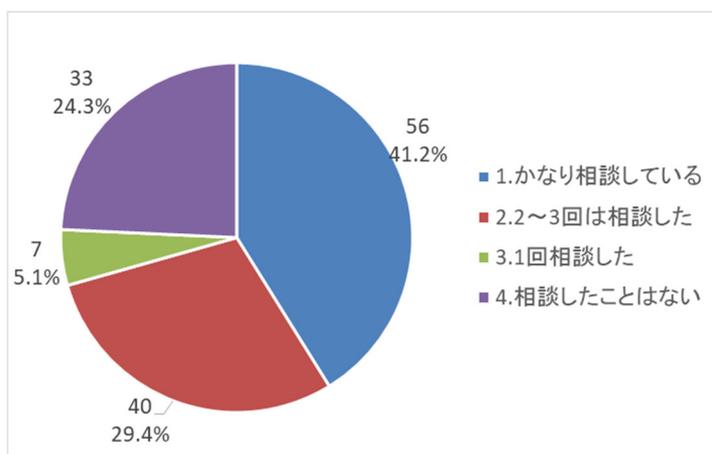


⑦ 一般生活についての相談経験

一般生活の相談経験は、かなり相談している 56 人（41.2%）となっており、2～3回は相談した方と合わせると約 7 割強が比較的相談を利用している。

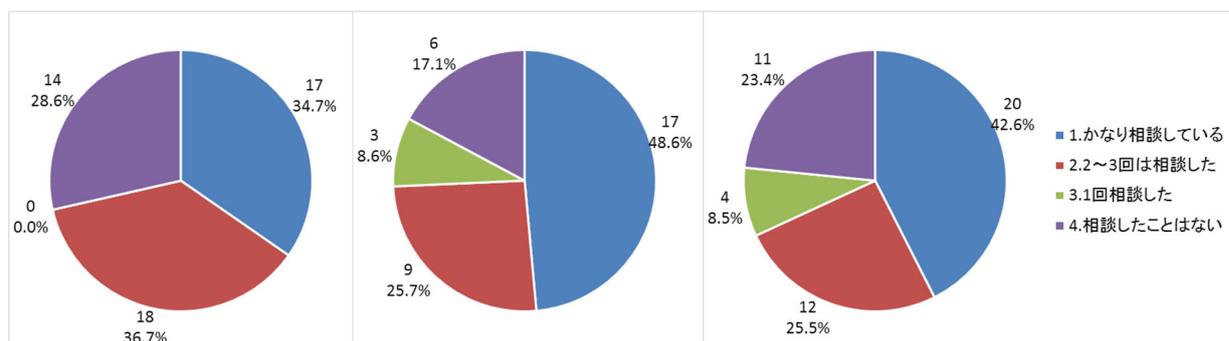
なお、利用サービス別に聞くと、GH および日中サービス利用者はかなり相談している割合が高い（それぞれ 48.6%、42.6%）。

【表－28 あなたは障がいのあるご本人の生活や進路等、一般生活について相談をしたことはありますか？】



回答	件数	構成比
1. かなり相談している	56	41.2%
2. 2～3回は相談した	40	29.4%
3. 3.1回相談した	7	5.1%
4. 相談したことはない	33	24.3%
計	136	100.0%

【表－29 相談経験（入所・GH・日中）】



回答	入所	GH	日中
1. かなり相談している	17 (34.7%)	17 (48.6%)	20 (42.6%)
2. 2～3回は相談した	18 (36.7%)	9 (25.7%)	12 (25.5%)
3. 1回相談した	0 (0.0%)	3 (8.6%)	4 (8.5%)
4. 相談したことはない	14 (28.6%)	6 (17.1%)	11 (23.4%)
計	49 (100.0%)	35 (100.0%)	47 (100.0%)

⑧ 親亡き後についての相談経験

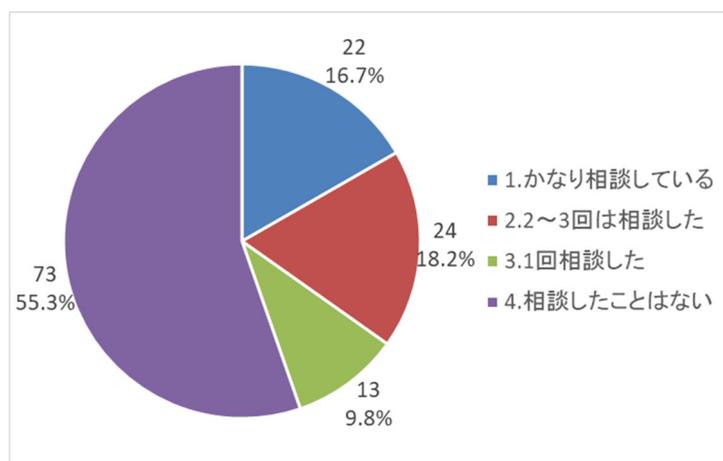
相談のうち、特に親亡き後についての相談経験は、先の一般生活の相談と比べてかなり少なくなっており、かなり相談しているのは22人（16.7%）となっている。

利用サービス別に聞くと、入所・GH利用者はほぼ構成は変わらないが、日中サービス利用者はかなり相談している割合が高い（23.4%）。

なお、誰に相談をしたかについては、親族が31人と最も多く、障がい福祉事業所24人、相談支援事業所21人と続く。

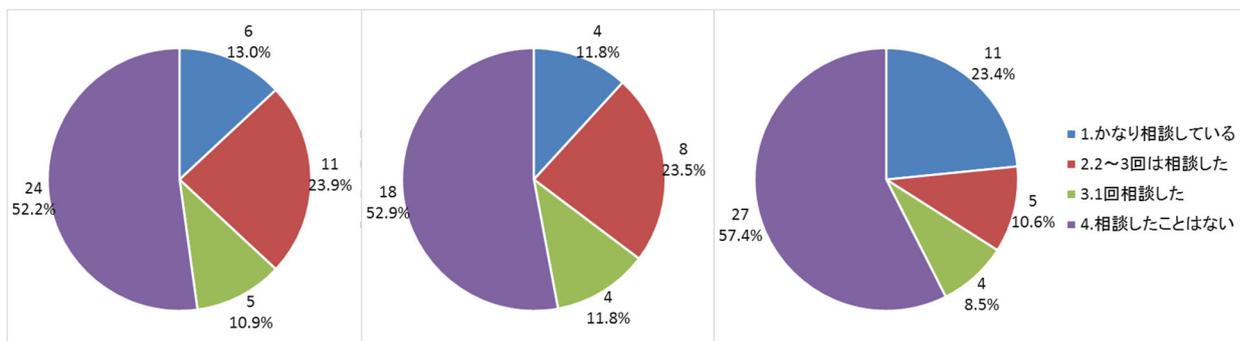
なお、年代別には、20代、30代が相談支援事業所を利用している割合が比較的高い（それぞれ44.4%、38.9%）。

【表－30 あなたは親亡き後について、相談をしたことはありますか？】



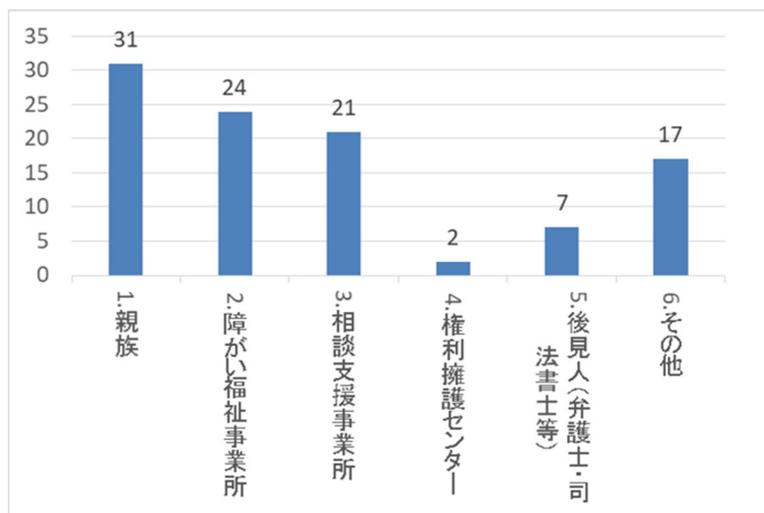
回答	件数	構成比
1.かなり相談している	22	16.7%
2.2～3回は相談した	24	18.2%
3.1回相談した	13	9.8%
4.相談したことはない	73	55.3%
計	132	100.0%

【表-31 親亡き後の相談経験（入所・GH・日中）】



回答	入所	GH	日中
1.かなり相談している	6 (13.0%)	4 (11.8%)	11 (23.4%)
2.2～3回は相談した	11 (23.9%)	8 (23.5%)	5 (10.6%)
3.1回相談した	5 (10.9%)	4 (11.8%)	4 (8.5%)
4.相談したことはない	24 (52.2%)	18 (52.9%)	27 (57.4%)
計	46 (100.0%)	34 (100.0%)	47 (100.0%)

【表-32 相談をしたことのある方、誰に相談をしましたか？】（複数回答）

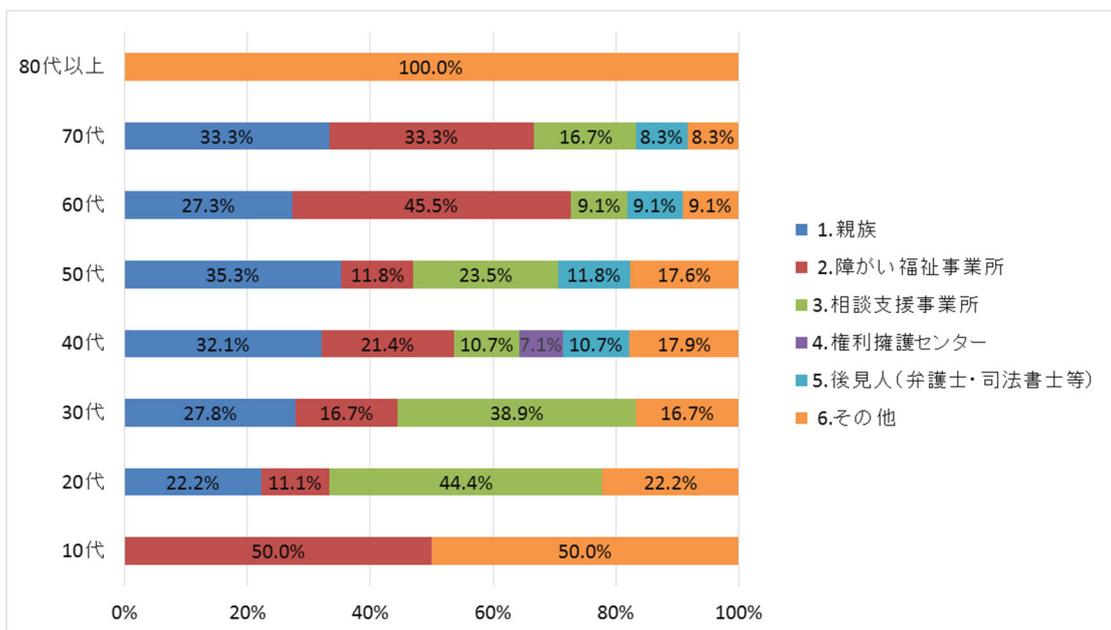


回答	件数	構成比
1.親族	31	54.4%
2.障がい福祉事業所	24	42.1%
3.相談支援事業所	21	36.8%
4.権利擁護センター	2	3.5%
5.後見人(弁護士・司法書士等)	7	12.3%
6.その他	17	29.8%
計	57	

【親亡き後について相談をしたことのある方、誰に相談をしましたか？（選択肢以外の「その他」の自由記述）】

- ・ 同じ障がい児の親たち（13 歳）
- ・ 作業所や事業所（24 歳）
- ・ 市役所（27 歳）
- ・ 育成会会員（32 歳）
- ・ 友人（32 歳）
- ・ 指導員（38 歳）
- ・ 入所施設（40 歳）
- ・ 入所施設の職員（42 歳）
- ・ 施設職員（43 歳）
- ・ 友達（46 歳）
- ・ 作業所の責任者（47 歳）
- ・ 入所施設（52 歳）
- ・ GH 世話人、職員（54 歳）
- ・ 作業所（55 歳）
- ・ 病院のケースワーカー（60 歳）
- ・ 公的機関（71 歳）
- ・ 施設（現在世話になっている）（82 歳）

【表-33 親亡き後の相談相手（年代別）】



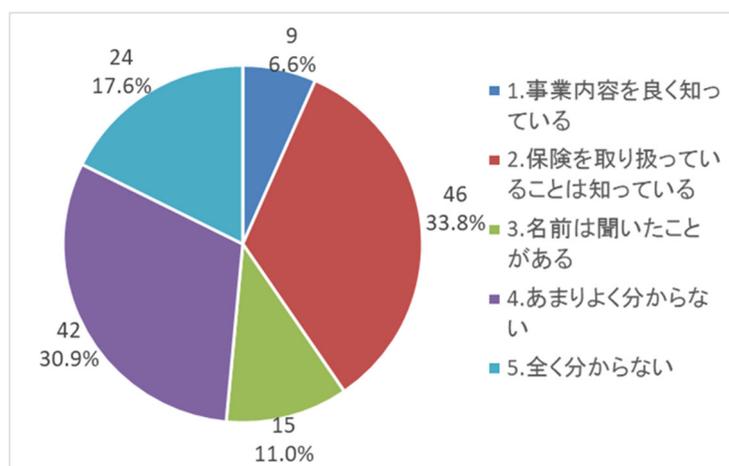
	1.親族	2.障がい福祉事業所	3.相談支援事業所	4.権利擁護センター	5.後見人(弁護士・司法書士等)	6.その他	総計
10代	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
20代	22.2%	11.1%	44.4%	0.0%	0.0%	22.2%	100.0%
30代	27.8%	16.7%	38.9%	0.0%	0.0%	16.7%	100.0%
40代	32.1%	21.4%	10.7%	7.1%	10.7%	17.9%	100.0%
50代	35.3%	11.8%	23.5%	0.0%	11.8%	17.6%	100.0%
60代	27.3%	45.5%	9.1%	0.0%	9.1%	9.1%	100.0%
70代	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	8.3%	8.3%	100.0%
80代以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
総計	29.3%	23.2%	21.2%	2.0%	7.1%	17.2%	100.0%

(7) 当協会、ならびに提供している商品・サービスについて

① 当協会の認知度

当協会の認知度については、事業内容を良く知っている 9 人（6.6%）、保険を取り扱っていることは知っている 46 人（33.8%）とある一定以上知っている方は約 4 割程度となっている。

【表-34 あなたは「一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会」をご存知ですか？】

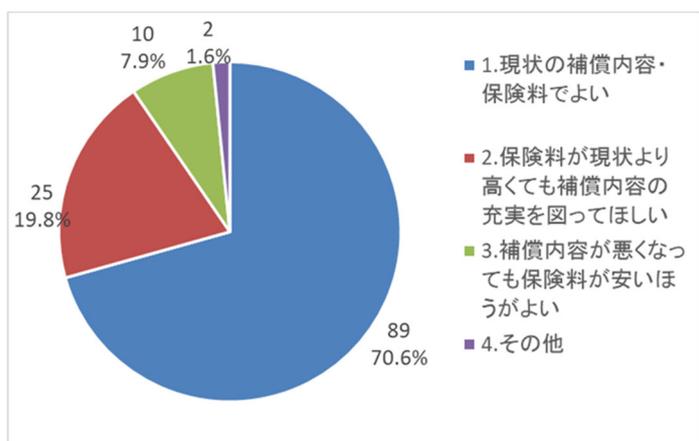


回答	件数	構成比
1. 事業内容を良く知っている	9	6.6%
2. 保険を取り扱っていることは知っている	46	33.8%
3. 名前は聞いたことがある	15	11.0%
4. あまりよく分からない	42	30.9%
5. 全く分からない	24	17.6%
計	136	100.0%

② 保険に対する要望

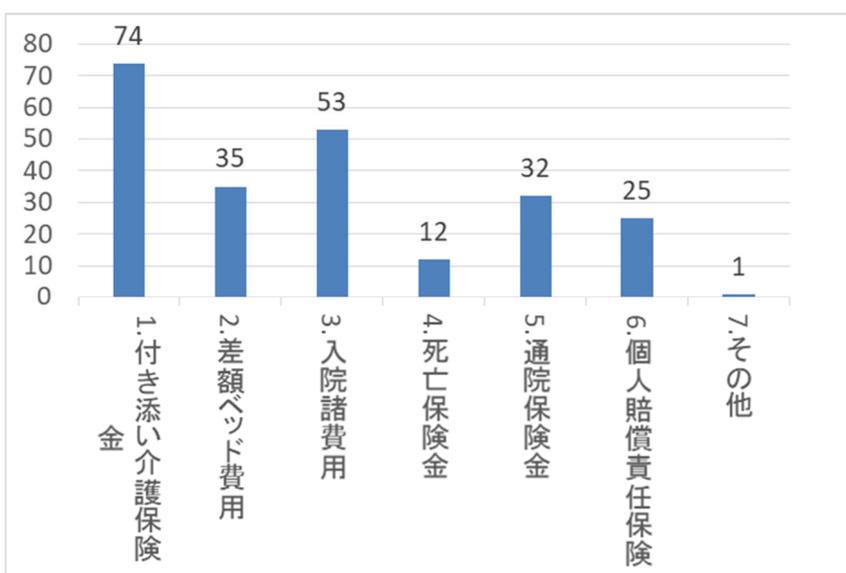
保険に対する要望は、現状のままで良い方が 89 人（70.6%）と好評いただいている。また、高くても補償内容の充実を図ってほしい 25 人（19.8%）となっている。

【表-35 生活サポート総合補償制度（AIG 普通傷害保険）に対する要望をお聞かせください】



回答	件数	構成比
1.現状の補償内容・保険料でよい	89	70.6%
2.保険料が現状より高くても補償内容の充実を図ってほしい	25	19.8%
3.補償内容が悪くなっても保険料が安いほうがよい	10	7.9%
4.その他	2	1.6%
計	126	100.0%

【表-36 どんな補償を充実してほしいですか？】



回答	件数	構成比
1.付き添い介護保険金	74	59.7%
2.差額ベッド費用	35	28.2%
3.入院諸費用	53	42.7%
4.死亡保険金	12	9.7%
5.通院保険金	32	25.8%
6.個人賠償責任保険	25	20.2%
7.その他	1	0.8%
計	124	

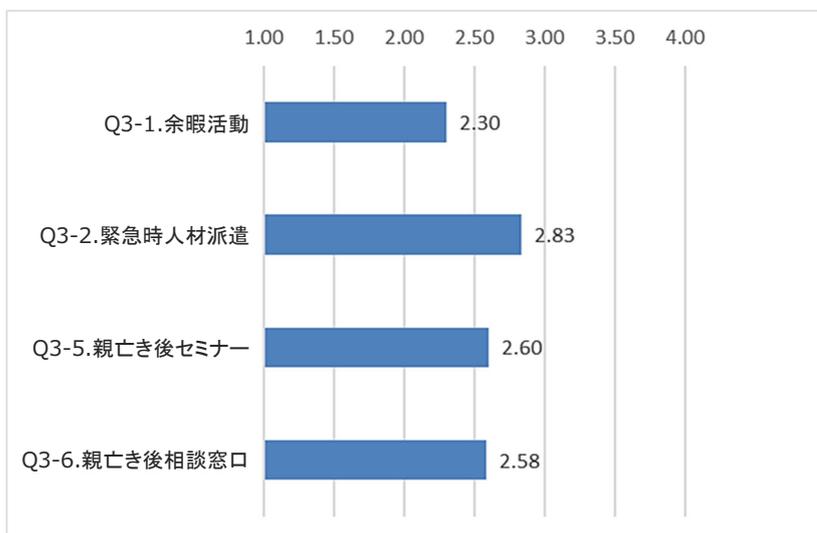
③ 各企画の参加（利用）意欲

現時点で想定される商品や新しいサービスについての参加意欲を4段階（最高：4点、最低：1点）で聞いたところ、緊急時の人材派遣が2.83ptと比較的ニーズが高い。次いで、親亡き後のセミナー2.60pt、親亡き後相談窓口2.58ptとなっている。

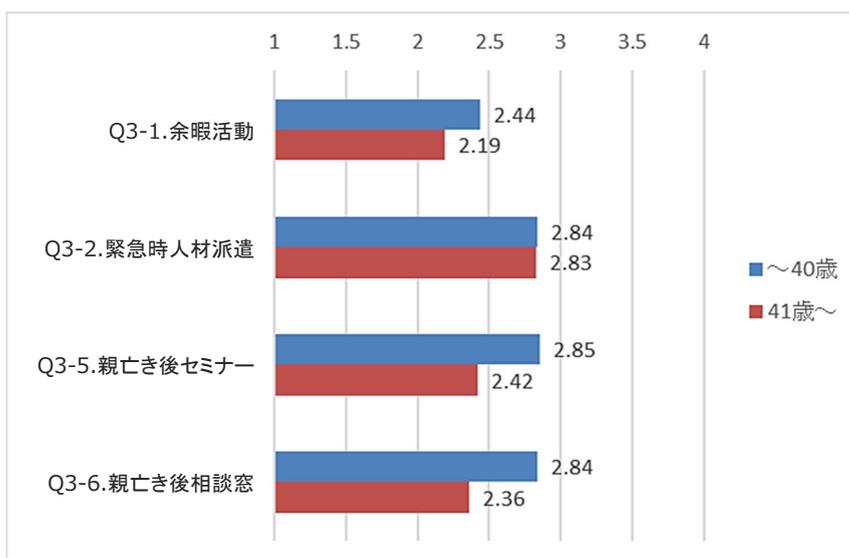
また年代別に聞いたところ、40歳までの方々が総じて商品・サービスに対するニーズは強く、緊急時人材派遣については、ほぼ差異はないものの、親亡き後セミナー（2.85pt）、および親亡き後相談窓口（2.84pt）については相当高いニーズとなっている。

また利用サービス別については、入所利用者においては緊急時人材派遣が2.94ptと高くなっている。一方日中については、親亡き後セミナー（2.78pt）、親亡き後相談窓口（2.77pt）と親亡き後へのサポートに対するニーズが強い。

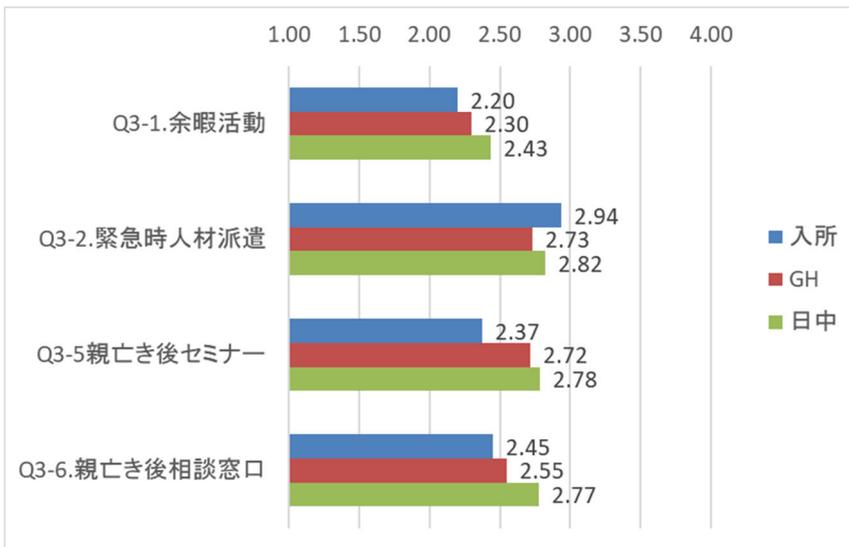
【表-37 商品・サービスに対する参加（利用）意欲（全体）】



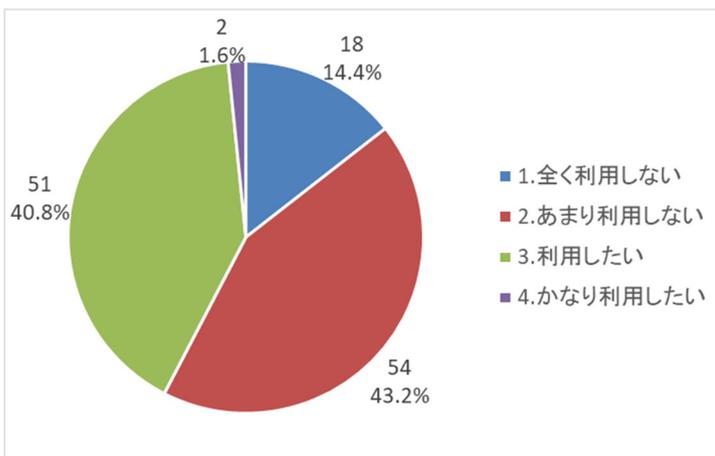
【表-38 商品・サービスに対する参加（利用）意欲（年代別）】



【表-39 商品・サービスに対する参加（利用）意欲 × 利用サービス】



【表-40 今後余暇活動で、他事業所で実施しているイベント等に参加できる等、メニューが増えたら、利用しますか？】



回答	件数	構成比
1.全く利用しない	18	14.4%
2.あまり利用しない	54	43.2%
3.利用したい	51	40.8%
4.かなり利用したい	2	1.6%
計	125	100.0%

希望するメニューについての自由記述は 34 件あり、内容によって分類した。同一回答にカテゴリーの異なる内容が混在するものは、回答を分けて掲載した。

【余暇活動について希望するメニュー】（自由記述）

<p>〈具体的な行事や内容の希望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行（19 歳） ・ スポーツ（20 歳）
--

- ・ 運動教室、料理教室（22 歳）
 - ・ 音楽イベント（26 歳）
 - ・ キャンプやスポーツなど（28 歳）
 - ・ コンサート、ライブ、のど自慢、キャンプ、BBQ、ゲーム大会、旅行、体験教室（健康体操、絵画、ゲーム）（32 歳）
 - ・ 就職の斡旋（32 歳）
 - ・ 余暇活動で、スポーツのイベント（33 歳）
 - ・ バイキング（35 歳）
 - ・ 街散策（35 歳）
 - ・ 心臓疾患があり、活動に制限があるため運動よりも文化的な活動（37 歳）
 - ・ 運動がたりないので体を動かすイベント（47 歳）
 - ・ 運動できるイベント（50 歳）
 - ・ 音楽が好きなのでコンサート等参加させたい（54 歳）
 - ・ 音楽活動、芝居やコンサートの鑑賞（62 歳）
- 〈環境や条件の希望〉**
- ・ 車いすでも参加しやすいもの（19 歳）
 - ・ 同じ趣味の仲間の集まり（20 歳）
 - ・ 余暇活動（クラブ活動など、定期的なもの）（22 歳）
 - ・ 知っている人がいない（24 歳）
 - ・ 体感でしか楽しめないので参加できるものも限られてくるかと思う（26 歳）
 - ・ 日帰り旅行や泊まり旅行など通常では実現が困難な活動支援（34 歳）
 - ・ ふれあい広場。1対1の付添がないと、イベントの参加はむづかしいので、人員配置がほしい（52 歳）
 - ・ 近場で利用できるサービスがほしい（75 歳）
- 〈その他〉**
- ・ どんなものを提供されているかさえ知らない（21 歳）
 - ・ なし（21 歳）
 - ・ 今具体的には思いつかない（28 歳）
 - ・ 予定された通りの時間に本人が対応できず、結局いつも不参加になってしまう（28 歳）
 - ・ 現在お世話になっている園での活動に参加させてもらっているから（43 歳）
 - ・ 本人が希望するもの（43 歳）
 - ・ 今後状況に応じて利用も考える（45 歳）
 - ・ 特になし（56 歳）
 - ・ 本人の希望による（57 歳）
 - ・ 本人の希望による（64 歳）
 - ・ メニューのレベルによって変わってくる（66 歳）
 - ・ 特になし（76 歳）

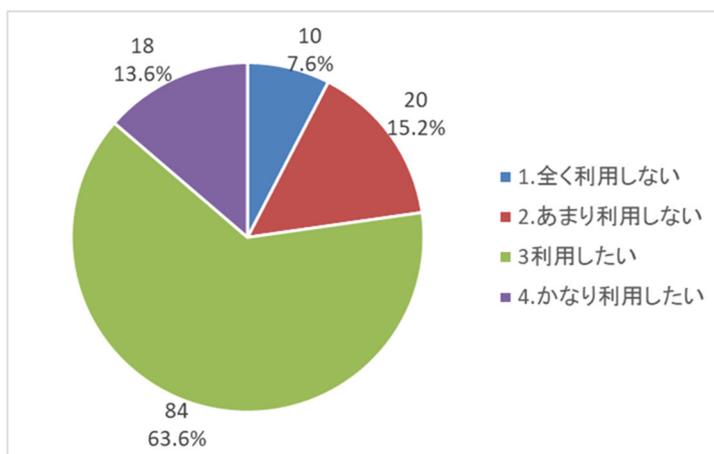
④ 緊急人材派遣サービスの利用意欲

また、そのサービスを利用する際の価格帯を聞き、PSM 分析を実施した。※PSM 分析：Price Sensitive Measurement（価格感度分析）

その結果、上限価格は 5,000 円、品質保証価格は 3,000 円となった。

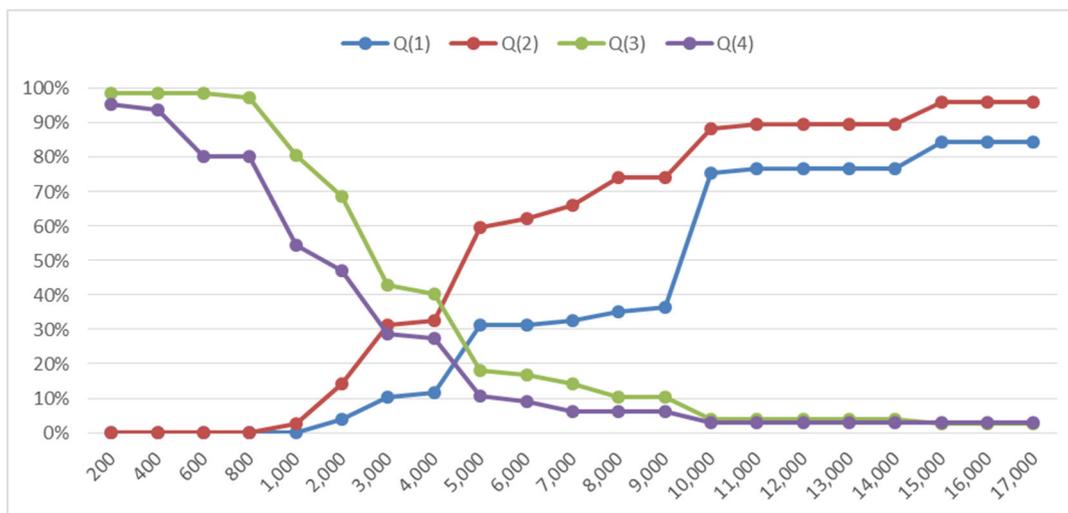
※ただし、当該サービスを想定される際の利用時間について条件設定していなかったため、回答が低めに出ていることには留意が必要である。

【表-41 万が一の入院時等誰も付き添えない場合に、人材派遣ができるサービスがあれば利用しますか？】



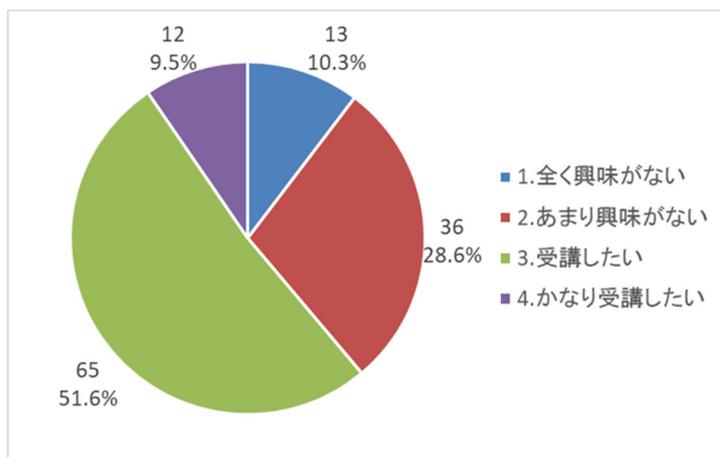
回答	件数	構成比
1.全く利用しない	10	7.6%
2.あまり利用しない	20	15.2%
3.利用したい	84	63.6%
4.かなり利用したい	18	13.6%
計	132	100.0%

【表-42 また、希望される1日あたりの価格帯は？（4つ全て記入）】



⑤ 親亡き後に関するセミナー受講意欲

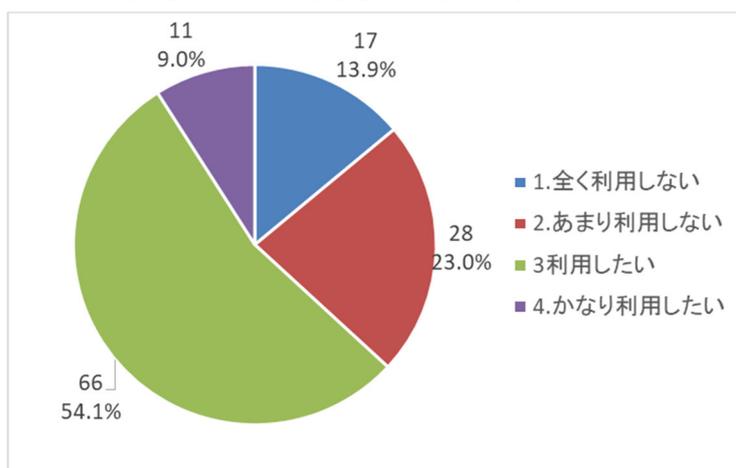
【表-43 親亡き後に関するセミナーがあれば受講したいですか？】



回答	件数	構成比
1. 全く興味がない	13	10.3%
2. あまり興味がない	36	28.6%
3. 受講したい	65	51.6%
4. かなり受講したい	12	9.5%
計	126	100.0%

⑥ 親亡き後に関する相談窓口利用意欲

【表-44 親亡き後に関する相談窓口があれば利用したいですか？】



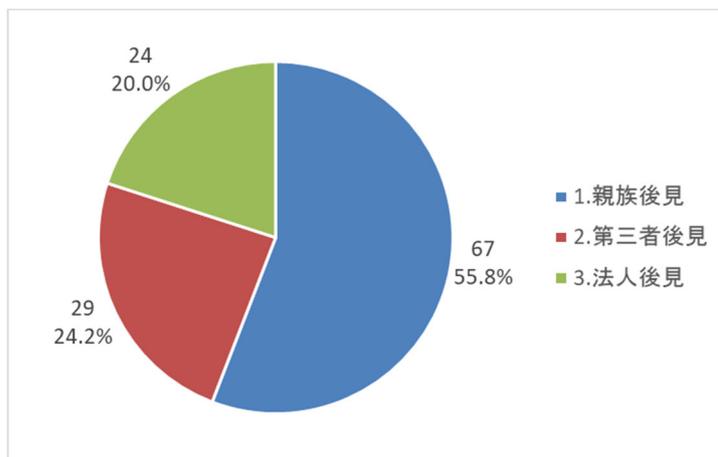
回答	件数	構成比
1. 全く利用しない	17	13.9%
2. あまり利用しない	28	23.0%
3. 利用したい	66	54.1%
4. かなり利用したい	11	9.0%
計	122	100.0%

⑦ 自分亡き後委ねる先

自分亡き後委ねる先として、①財産管理については、親族が67人（55.8%）となっている。

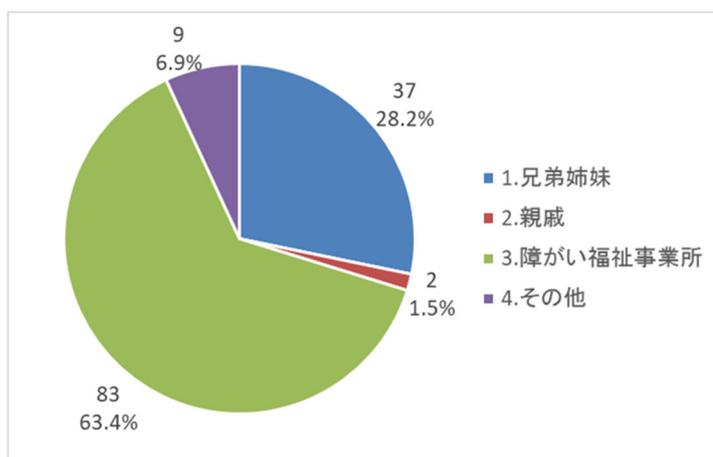
また普段の生活は、障害福祉事業所が83人（63.4%）と6割強となっている。

【表-45 自分亡き後、誰に委ねたいですか？（①財産管理）】



回答	件数	構成比
1.親族後見	67	55.8%
2.第三者後見	29	24.2%
3.法人後見	24	20.0%
計	120	100.0%

【表-46 自分亡き後、誰に委ねたいですか？（②普段の生活支援）】



回答	件数	構成比
1.兄弟姉妹	37	28.2%
2.親戚	2	1.5%
3.障がい福祉事業所	83	63.4%
4.その他	9	6.9%
計	131	100.0%

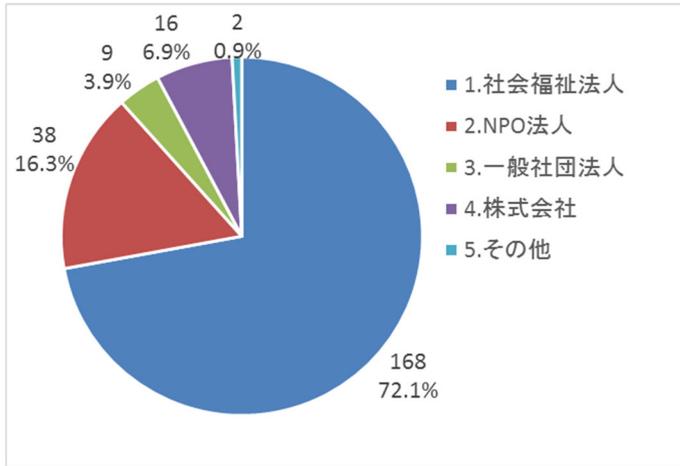
3 調査結果（事業所アンケートについて）

(1) 支部（事業所）について

① 法人形態

社会福祉法人が 168 件（72.1%）となっている。

【表-47 法人形態】

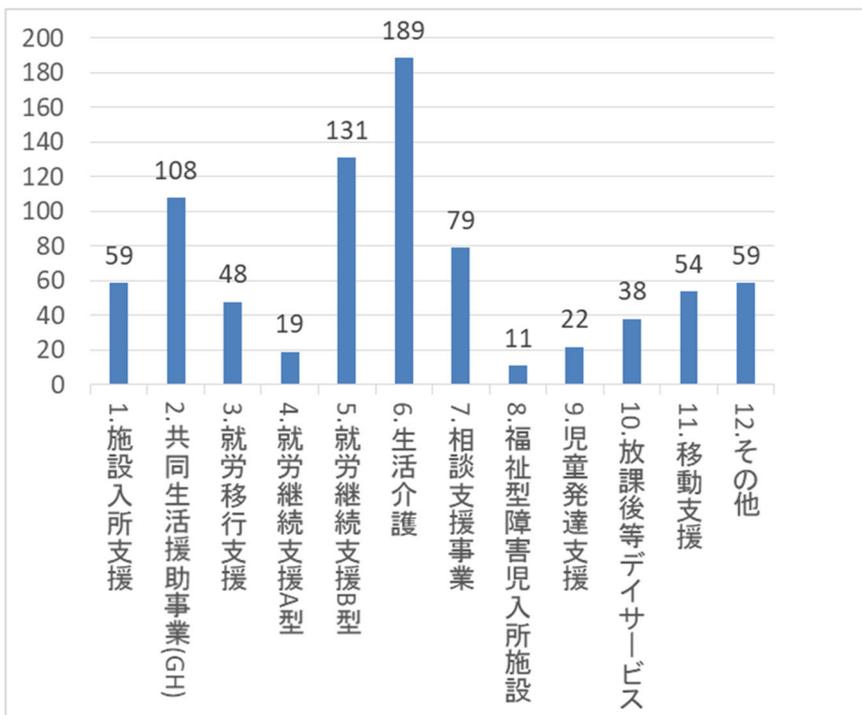


回答	件数	構成比
1.社会福祉法人	168	72.1%
2.NPO法人	38	16.3%
3.一般社団法人	9	3.9%
4.株式会社	16	6.9%
5.その他	2	0.9%
計	233	100.0%

② 実施事業

実施事業（複数回答）については、生活介護が 189 件、就労継続支援 B 型が 131 件となっている。

【表-48 実施事業】（複数回答）



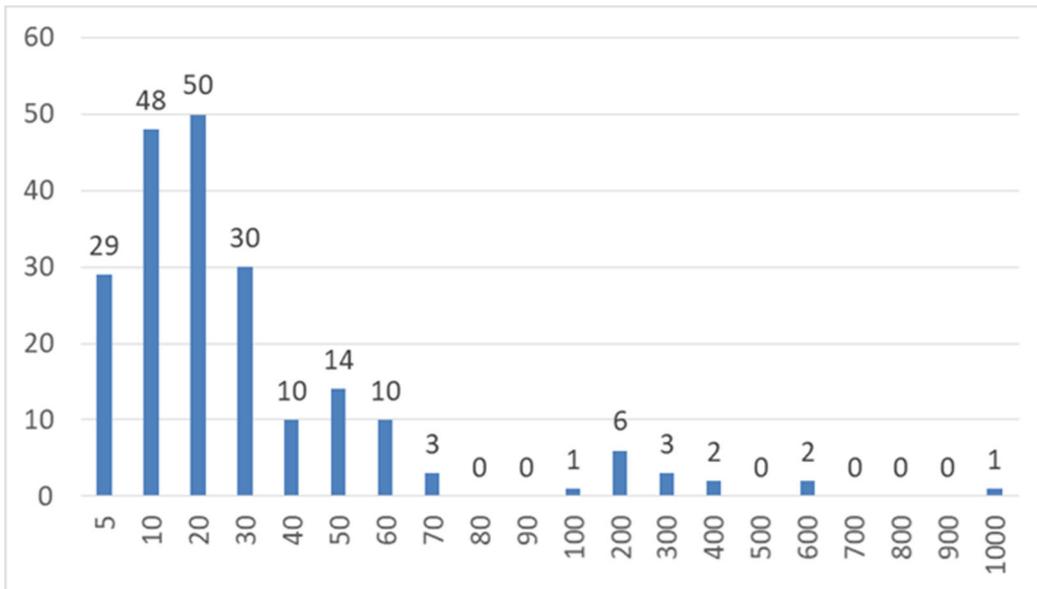
3 調査結果（事業所アンケートについて）

回答	件数	構成比
1.施設入所支援	59	7.2%
2.共同生活援助事業(GH)	108	13.2%
3.就労移行支援	48	5.9%
4.就労継続支援A型	19	2.3%
5.就労継続支援B型	131	16.0%
6.生活介護	189	23.1%
7.相談支援事業	79	9.7%
8.福祉型障害児入所施設	11	1.3%
9.児童発達支援	22	2.7%
10.放課後等デイサービス	38	4.7%
11.移動支援	54	6.6%
12.その他	59	7.2%
計	817	100.0%

③ 従業員数

従業員数は、11～20人が50件、6～10人が48件となっている。

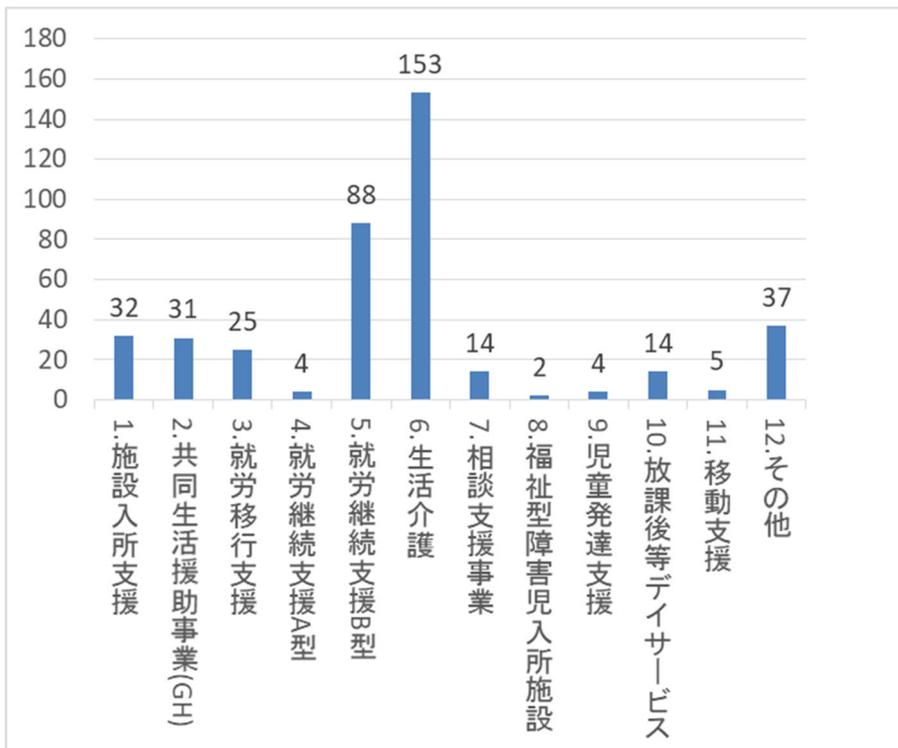
【表-49 従業員数（常勤換算）】



④ 回答者の所属

回答者の所属は生活介護153件、次いで就労継続支援B型88件となっている。

【表-50 回答者の所属】（複数回答）



回答	件数	構成比
1.施設入所支援	32	7.8%
2.共同生活援助事業(GH)	31	7.6%
3.就労移行支援	25	6.1%
4.就労継続支援A型	4	1.0%
5.就労継続支援B型	88	21.5%
6.生活介護	153	37.4%
7.相談支援事業	14	3.4%
8.福祉型障害児入所施設	2	0.5%
9.児童発達支援	4	1.0%
10.放課後等デイサービス	14	3.4%
11.移動支援	5	1.2%
12.その他	37	9.0%
計	409	100.0%

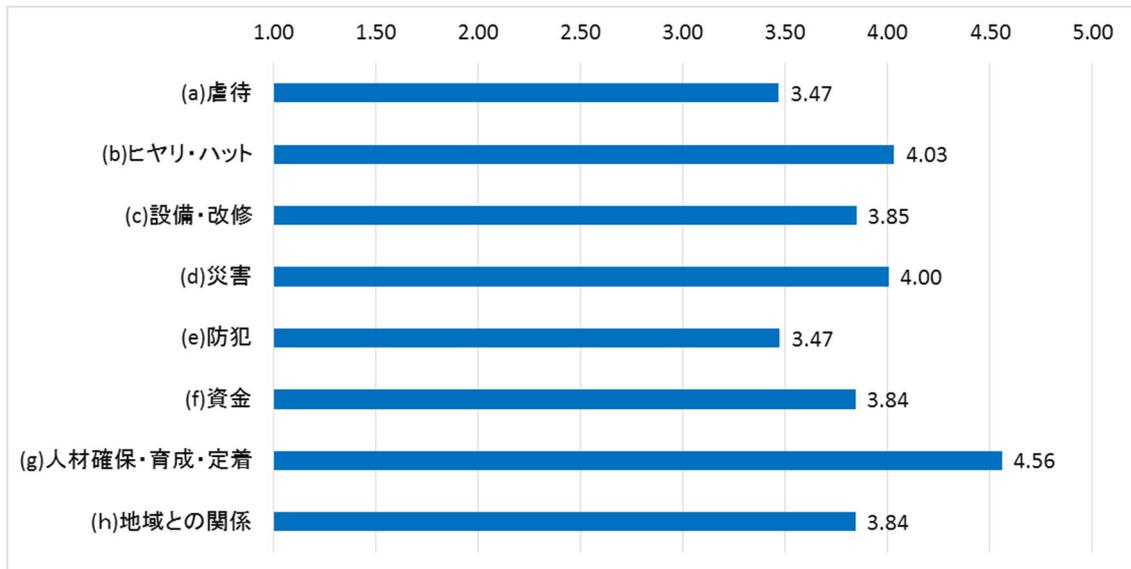
⑤ リスクと感ずること

障がい福祉事業に関する8つのリスクについて、5段階評価（最高：5点、最低：1点）で聞いたところ、(g)人材確保・育成・定着が4.56ptとかなりリスクを強く感じている。次いで、(b)ヒヤリ・ハット4.03pt、(d)災害4.00ptとなっている。

また、従業員数別に聞いたところ、規模が大きい事業所の方が総じてリスクを強く感じており、特に(g)人材確保・育成・定着4.78ptと突出して高くなっている。

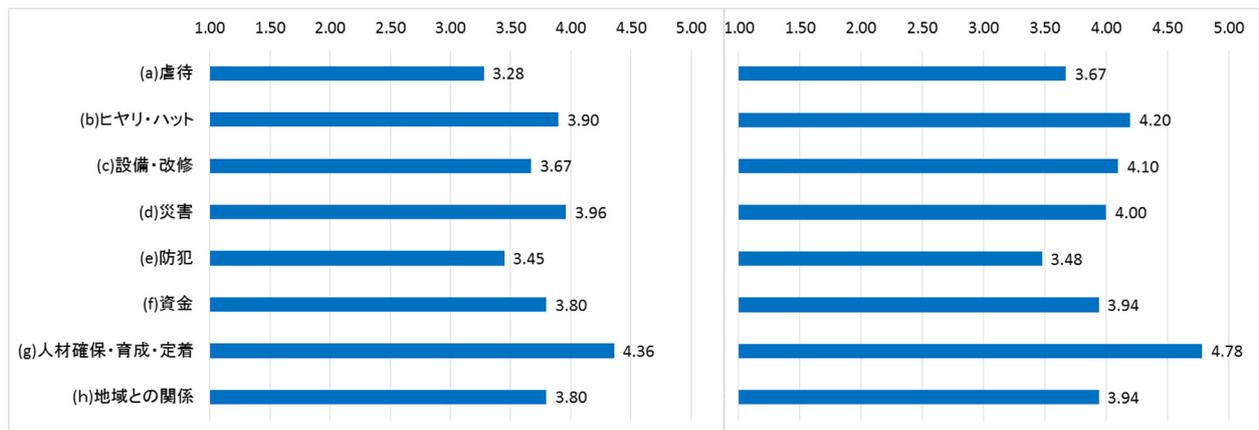
また主な事業別では、(g)人材確保・育成・定着はGH(4.64pt)、入所(4.63pt)が高い。

【表－51 障害福祉事業を実施するにあたって、以下のリスクをどの程度感じますか？】



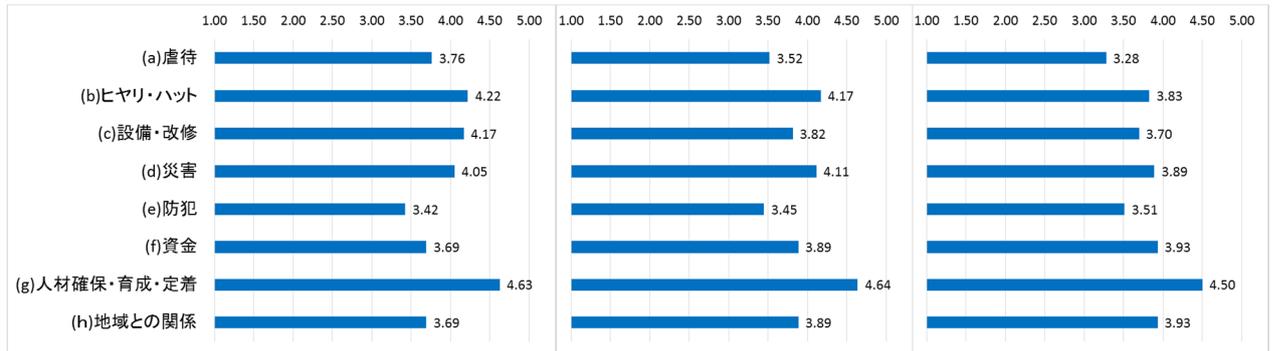
項目	ポイント
(a)虐待	3.47
(b)ヒヤリ・ハット	4.03
(c)設備・改修	3.85
(d)災害	4.00
(e)防犯	3.47
(f)資金	3.84
(g)人材確保・育成・定着	4.56
(h)地域との関係	3.84

【表－52 障害福祉事業を実施するにあたってのリスク（～20人・21人～）】



項目	～20人	21人～
(a)虐待	3.28	3.67
(b)ヒヤリ・ハット	3.90	4.20
(c)設備・改修	3.67	4.10
(d)災害	3.96	4.00
(e)防犯	3.45	3.48
(f)資金	3.80	3.94
(g)人材確保・育成・定着	4.36	4.78
(h)地域との関係	3.80	3.94

【表-53 障害福祉事業を実施するにあたってのリスク（入所・GH・日中）】



項目	入所	GH	日中
(a)虐待	3.76	3.52	3.28
(b)ヒヤリ・ハット	4.22	4.17	3.83
(c)設備・改修	4.17	3.82	3.70
(d)災害	4.05	4.11	3.89
(e)防犯	3.42	3.45	3.51
(f)資金	3.69	3.89	3.93
(g)人材確保・育成・定着	4.63	4.64	4.50
(h)地域との関係	3.69	3.89	3.93

リスクについて感じるものの自由記述は 80 件あり、内容によって分類した。同一回答にカテゴリーの異なる内容が混在するものは、回答を分けて掲載した。

【障害福祉事業を実施するにあたって、リスクについてお感じのことがあればご記入ください。】

（自由記述） ※末尾の（ ）は法人形態、以下同

<p>〈虐待に関するリスク〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心理的虐待（年配者→若年者）や経済的虐待についての認識の甘さ（NPO 法人） ・ 虐待なんかは以前は感じてなかったが、働き方の多様性で今はすごくリスクを感じる（社会福祉法人） <p>〈ヒヤリ・ハットに関するリスク〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “虐待やヒヤリハット→身近で起こりうること（特に言葉かけ）相手と自分の理解について常に話しあうことが大切（NPO 法人）” ・ 利用者、職員ともに支援中の怪我、事故、送迎中の事故（NPO 法人） ・ グループホームの夜間（社会福祉法人） ・ 入所利用者の高齢化（社会福祉法人） ・ 建物が新しいので、災害等のリスクはそれ程でもないがケガ等の事故のリスクは常にあると感じています（その為人員増も必要ですが、資金面及び人材確保が難しい）（社会福祉法人） ・ ご利用者の高齢化に伴い病気や事故（転倒など）ケガなどヒヤリ、ハットの場面が増えてきている（社会福祉法人） ・ 高齢化におけるけがや事故など増加していると感じます（社会福祉法人） <p>〈設備・改修のリスク〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワンフロアなので自閉的な人が増えると設備面での限界を感じる（一般社団法人） ・ バリアフリーなどへの改修なども適時、行っていかねばと思います（社会福祉法人） ・ 建物の老朽化、耐震（社会福祉法人）
--

〈災害のリスク〉

- ・ 災害→備蓄やシミュレーション、防災計画が必要（NPO 法人）
- ・ 虐待に関しては、研修、介護などを通し周知、指導しているので問題なく運営されているが、災害に関しては二つの河川に囲まれている土地なのでより対策が必要と考えています（NPO 法人）
- ・ 利用者の居住地域が広いので送迎時に災害などが不安（NPO 法人）
- ・ 地震とか先月水害のとき（株式会社）
- ・ 特に居住系事業（GH）の運営に際して大規模災害を想定すると、我々職員も被災者となる可能性が高く、何ができるか想像もつかない。緊急的課題と考える（社会福祉法人）
- ・ 大雨等による災害への対応（社会福祉法人）
- ・ 最近の天災において、マニュアル通りにいかない実態がありました。情報交換の必要性を強く感じます（社会福祉法人）
- ・ 災害が起きた時、水道といったライフラインが止まってしまったら致命的である。利用者のトイレの使用率が高い為、排泄処理で困るのと、避難場所で過ごせるかも正直不安、6月の地震、先日の大雨と頭を悩ませている（社会福祉法人）
- ・ 災害に関しては障がいをもっている人達への配慮が出来るだけの資源がなく、非常に不安に感じます（社会福祉法人）
- ・ 先日おきた地震や大雨で災害対策が急務であると感じました（社会福祉法人）
- ・ 災害については、十数年大きな被害は受けていないが、大きな災害が起きた際には職員だけでは対処できないであろうということに不安がある。特に夜間は配置職員が少ないため対応が難しい（社会福祉法人）
- ・ 災害時の対応は事業所として整備が必要（社会福祉法人）
- ・ 地震大雨の災害身近に感じます。対応策が早急に準備・用意が必要ですが難しい現状です（社会福祉法人）
- ・ 立地が、-1.2m 地域、津波、洪水のリスク（社会福祉法人）
- ・ 先日の地震等、予期しづらいものへの対応が不十分であった（社会福祉法人）
- ・ 土地（立地場所）が土砂くずれが予想されるところに建っている点（社会福祉法人）
- ・ 災害、防犯等は訓練等の準備をしっかり行い備えることが大事（社会福祉法人）

〈防犯のリスク〉

- ・ 開かれた施設作りと防犯が隣合わせとなっている不安（社会福祉法人）

〈資金・経営のリスク〉

- ・ リスクについては、多くの事柄について資金面での課題の影響が大きいに思う（社会福祉法人）
- ・ 求めすぎると最後は資金、人材確保にぶち当たる（株式会社）
- ・ 就労支援事業収入の安定化が課題である（社会福祉法人）
- ・ 初めて決算が赤字となり、利用者の出席日数がいかに施設にとって重要か身にしみた。が、職員の努力ではどうにもならない面があり、どうすればいいか悩みが大きい（NPO 法人）
- ・ 利用者の人数が少なくなってきた（NPO 法人）
- ・ 新規の利用者契約がない、就労して利用者さんは減るばかり（NPO 法人）
- ・ 報酬改定による大幅な減収（社会福祉法人）
- ・ 報酬があがらないが、人件費が毎年あがることで今後の経営が不安（社会福祉法人）
- ・ 報酬単価の改訂のたびに減額される、事業が成り立っていかどうか不安であると同時に人材確保も困難を極めている（社会福祉法人）
- ・ 施設規模が小さく資金面での不安が大きい。必要とする人材が集まらない（社会福祉法人）
- ・ 報酬単価の改正によりフォーマル事業の収益が悪化し、運営面で大きな不安があります。それに伴い、人材の定着、確保、育成も厳しさをまし設備の改修にまで手が回らない…といった感じ（社会福祉法人）

- ・ 就労継続支援 A 型を定員 41 名で運営するため、事業収入の確保と年々上る最低賃金増加のリスク。設備がおおがかりなためその修理や改修費用。人材確保難の状況（社会福祉法人）
- ・ 資金面もこれからの建物の老朽化での費用に不安があります（社会福祉法人）
- ・ 年数が経つにつれ、事業所設備等の改修に多額の金額がかかる（社会福祉法人）
- ・ 施設改修等に補助がなくなり老朽化した場合に大きな不安がある（社会福祉法人）
- ・ GH 建設につきなかなか土地がなく購入資金のやりくりが心配（強度障害者用の GH がどうしても必要）（社会福祉法人）

〈人材確保・育成、職員体制に関するリスク〉

- ・ 特に人材確保の面では苦慮しております（社会福祉法人）
- ・ 人材確保が難しい（求人の応募者がいない）（社会福祉法人）
- ・ 職員を採用することがとても難しく常に困っています（NPO 法人）
- ・ 人材確保は常時課題（NPO 法人）
- ・ 人材確保の難しさ（一般社団法人）
- ・ 働き手の確保が今後可能かどうか（社会福祉法人）
- ・ 質の高い職員をどのように確保し、育成するか、大きな課題です（社会福祉法人）
- ・ 応募を出していてもなかなか人が来られないし、継続して働いてもらうことに対して難しさを感じる（社会福祉法人）
- ・ 人材の確保については人件費比率が高くなっても取り組まざるを得ないです。リスクは高まっていくと考えています（社会福祉法人）
- ・ 人材の不足と育成が一番リスクに感じられる。募集をかけても応募者がとても少ない。現職員の経験年数に伴う過信へのリスク（社会福祉法人）
- ・ リスクが多すぎて、福祉の仕事を希望する人がいなくなるのでは（社会福祉法人）
- ・ 障がい状況（支援）の幅も広くなり、配慮すべき点、職員の育成不足からくるリスクを感じる（社会福祉法人）
- ・ 人材確保が難しく施設運営にも支障が出ている（社会福祉法人）
- ・ 人材確保の困難さが事業継続の困難さと直結する事業廃止、中止も視野に入れられないといけなくなると感じている（社会福祉法人）
- ・ 人材育成、人材確保が不安定な業界の為、働く人間にとっても精神的不安が起りやすい。虐待の引き金にもなるので、責任者として心配である（社会福祉法人）
- ・ 人材確保→どのような戦略戦術、見せ方、働き方にとりくむかによってかわる（NPO 法人）
- ・ 人材育成に当たっては、知識や技能の向上だけではなく、給与面の十分な手当てが一番重要なことと思われまます（一般社団法人）
- ・ 制度・報酬改定が進む中、また福祉分野への人材定着の前の「確保」すらままならない中、財務・労務・実践などそれぞれに高い専門性が求められるが、そこまで手が回っていない現状がある（社会福祉法人）
- ・ 利用者様を守る法は整っているが職員に対しては整っていないと感じる（株式会社）
- ・ 危険予知できるスタッフがどれだけいるかでリスクの意識が変わってくるように思います（社会福祉法人）
- ・ 世話人業務が「一人入り」が多く、多忙による焦りからの指示的な声かけや対応など（社会福祉法人）
- ・ 実施指導における事業所よっての指摘内容の温度差に最大のリスクを感じています（株式会社）

〈地域との関係についてのリスク〉

- ・ 可能な限り施設を開放するとともに、明るい情報や専門性を追求した情報を発信することで、リスクは軽減すると考える。小さな地域を貢献を積み上げていくことが重要である（社会福祉法人）
- ・ 地域で事業をする限り、様々なリスクがあることを感じます（社会福祉法人）

- ・ 施設前の通りがよく事故が起こる。自力通所のメンバーや送迎車輛の往来で事故に遭うのではないかと心配（社会福祉法人）

〈総合・その他のリスク〉

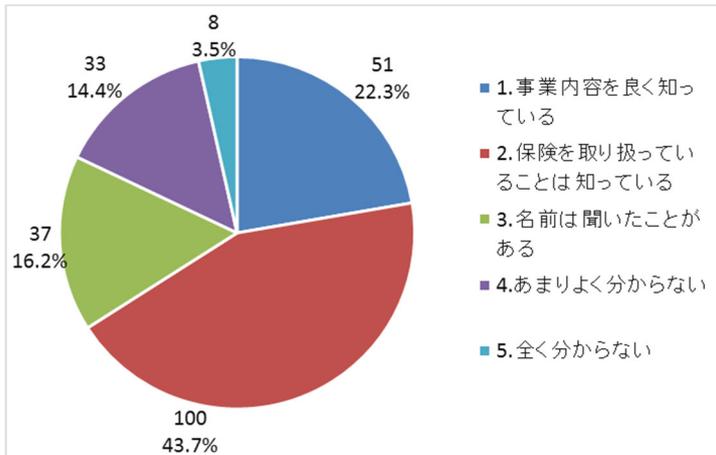
- ・ 1つ大きなことがあれば全て崩れていくように感じます（NPO 法人）
- ・ 資金繰りが難しいことや、人材の育成が難しい事による支援の質の低下のリスクがある（NPO 法人）
- ・ 昨今、いろいろな状況で想定外のことが起こっているので、リスクマネジメントをきっちりと行っていかなければいけないと感じている（一般社団法人）
- ・ リスクマネジメントの範囲が上記以外にも拡大しており、対策が必要になる（社会福祉法人）
- ・ リスクの種類によって法人単体、地域全体とカバーできる範囲が異なると感じる（社会福祉法人）
- ・ すべての面で課題を感じる災害や防犯にしても地域とのつながりとすべてのことが連鎖していると思う（社会福祉法人）
- ・ 管理者と現場職員の間で、リスクに関する重要度についてのギャップがある。それぞれのリスクに対して備える必要はあるが、リスク管理、対処等を実践していくにあたって、なぜそれを行うかについての根拠や経緯を伝えることの難しさを感じる。又、リスク管理、対処の意識を継続して一定レベルに維持していくことも苦勞している（社会福祉法人）
- ・ 対策しなければいけない、リスクがありすぎて手がまわらない（社会福祉法人）
- ・ 単一事業所のみでは対応が困難な事例（災害時や地域との関係など）が増加してきている気がします（社会福祉法人）
- ・ 自分の行っていることが正しいのか間違っているのか不安になる時、価値観の違いを感じた時（社会福祉法人）
- ・ ご利用者がうちの事業所に送迎サービスもないのに遠方よりたくさんこられている。ご自分の地域で障がい特性を理解し個別支援して下さる事業所がなく、在宅になってしまうことを避け頑張ってお越しになっている（社会福祉法人）
- ・ 事件、事故、災害等、気を付けていても起こることがあり、一つ間違えば命に関わることも考えられるのでできる限り気を付けたい（社会福祉法人）
- ・ リスク＝問題意識としてとらえた場合、具体的にどう対応し強みにしていくかが必要（社会福祉法人）
- ・ 今後入所利用者の重度化、高齢化によるリスクの増加及びサービス保持の為の人材確保（社会福祉法人）
- ・ どの項目にも沢山の課題がありますが、具体的な取組は出来ていません（社会福祉法人）
- ・ リスクはいつ起こるかわからない事が多いのでおきた時の対応も心配（社会福祉法人）
- ・ リスクというのはどのようなことなのか、質問の意味がよくわかりません。すみません（社会福祉法人）

(2) 当協会、ならびに提供している商品・サービスについて

① 当協会の認知度

当協会の認知度は、事業内容をよく知っている 51 件（22.3%）、保険を取り扱っていることは知っている 100 件（43.7%）となっている。

【表-54 あなたは「一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会」をご存知ですか？】



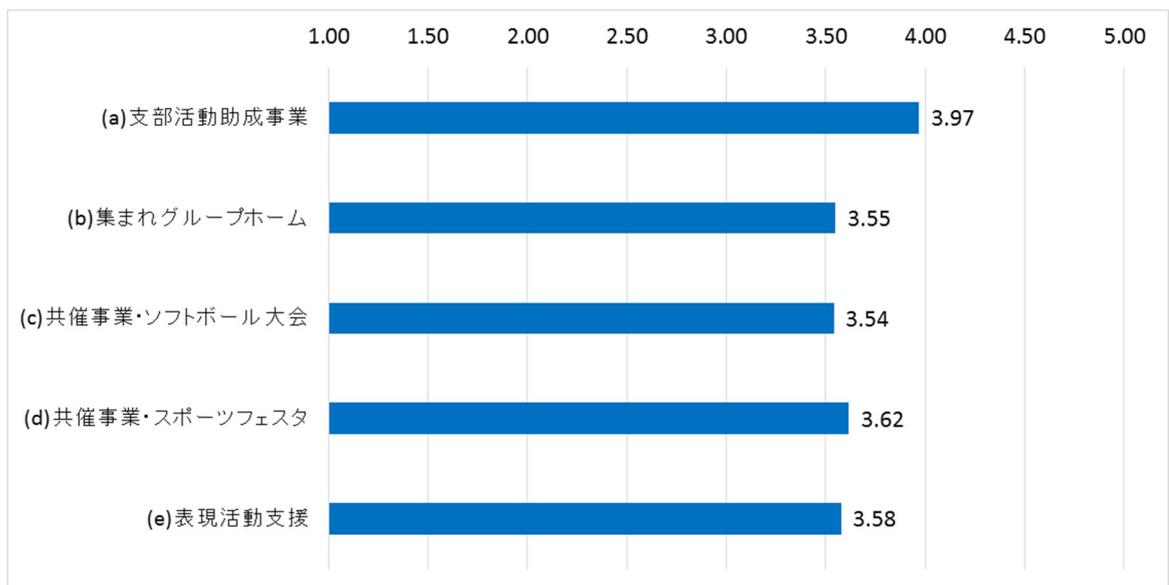
回答	件数	構成比
1. 事業内容を良く知っている	51	22.3%
2. 保険を取り扱っていることは知っている	100	43.7%
3. 名前は聞いたことがある	37	16.2%
4. あまりよく分からない	33	14.4%
5. 全く分からない	8	3.5%
計	229	100.0%

② 実施事業に対する評価

現在実施している事業の評価を5段階（最高：5点、最低：1点）で聞いたところ、
(a)支部活動助成事業 3.97pt と高い評価が得られている。

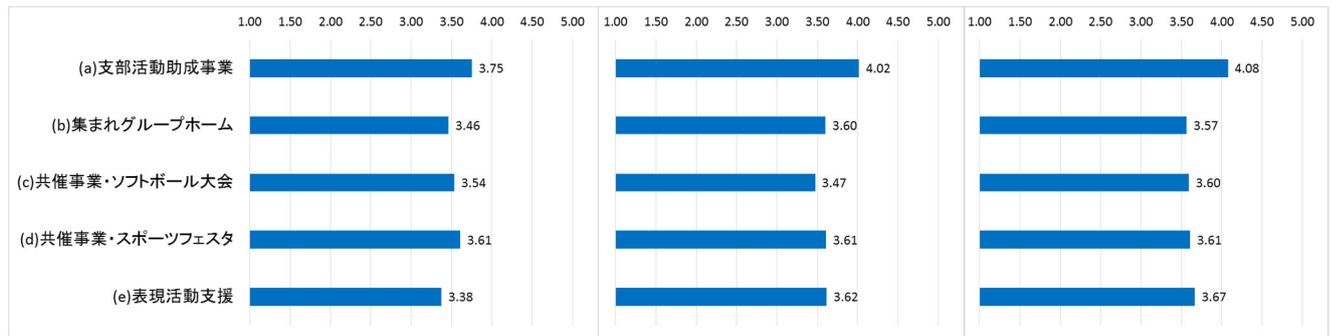
また、事業種別では、GH および日中系の事業所が、評価が高くなっている。

【表-55 現在、当協会が実施している事業の評価を教えてください】 ※リーフレット同封



項目	ポイント
(a)支部活動助成事業	3.97
(b)集まれグループホーム	3.55
(c)共催事業・ソフトボール大会	3.54
(d)共催事業・スポーツフェスタ	3.62
(e)表現活動支援	3.58

【表-56 実施事業の評価（事業種別）】



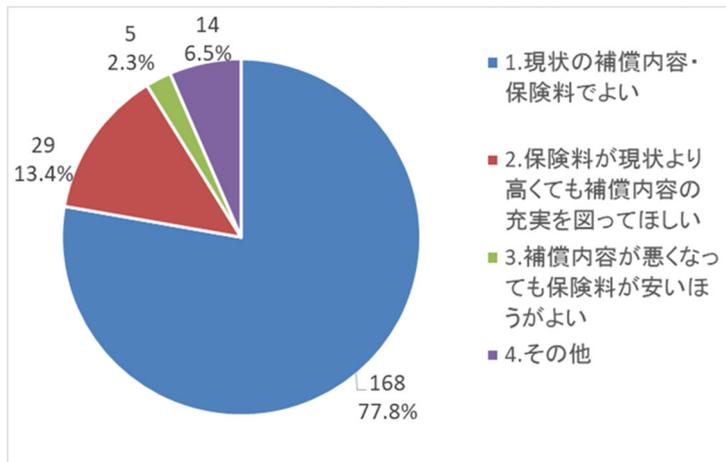
項目	入所	GH	日中
(a)支部活動助成事業	3.75	4.02	4.08
(b)集まれグループホーム	3.46	3.60	3.57
(c)共催事業・ソフトボール大会	3.54	3.47	3.60
(d)共催事業・スポーツフェスタ	3.61	3.61	3.61
(e)表現活動支援	3.38	3.62	3.67

③ 保険に対する要望

保険に対する要望は、現状の補償内容・保険料で良いのは 168 件（77.8%）と約 8 割の事業所は現状を評価している。

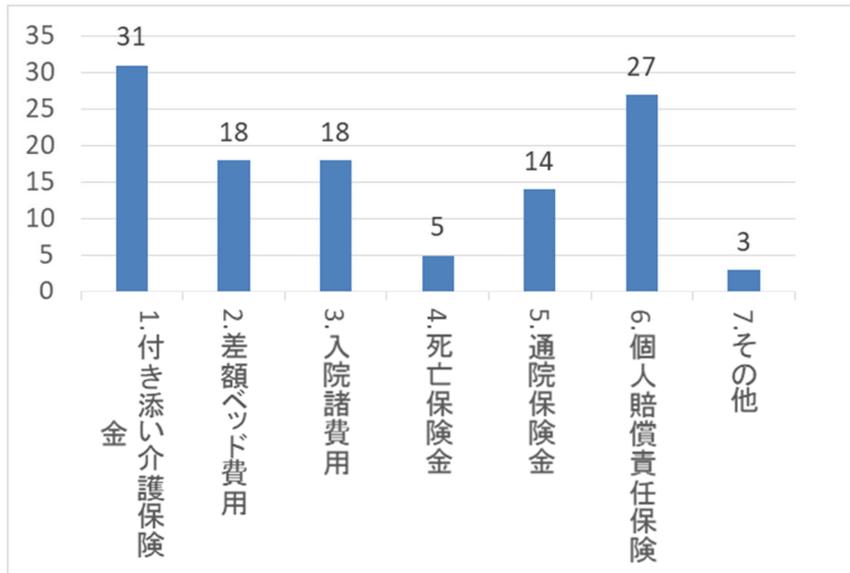
なお、高くても補償の充実を図ってほしい内容は、付き添い介護保険金 31 件、個人賠償責任保険 27 件であった。

【表-57 生活サポート総合補償制度（AIG 普通傷害保険）に対する要望をお聞かせください】



回答	件数	構成比
1.現状の補償内容・保険料でよい	168	77.8%
2.保険料が現状より高くても補償内容の充実を図ってほしい	29	13.4%
3.補償内容が悪くなっても保険料が安いほうがよい	5	2.3%
4.その他	14	6.5%
計	216	100.0%

【表-58 どんな補償を充実してほしいですか？】（複数回答）



回答	件数	構成比
1.付き添い介護保険金	31	15.0%
2.差額ベッド費用	18	8.7%
3.入院諸費用	18	8.7%
4.死亡保険金	5	2.4%
5.通院保険金	14	6.8%
6.個人賠償責任保険	27	13.1%
7.その他	3	1.5%
計	206	

④ 親亡き後の相談有無

親亡き後の相談については、かなり相談される 42 件（18.5%）、相談されたことはある 123 件（54.2%）と 7 割強は相談を受けたことがある。

なお、事業規模別では、21 人以上の事業所の方が相談される割合は約 1 割多くなっている。

また、事業種別に見ると、入所系が 84.8%、GH 系が 78.0%と多く相談を受けており、特に GH 系ではかなり相談されるのが 21 件（30.9%）と熱心に相談をされることが多い。

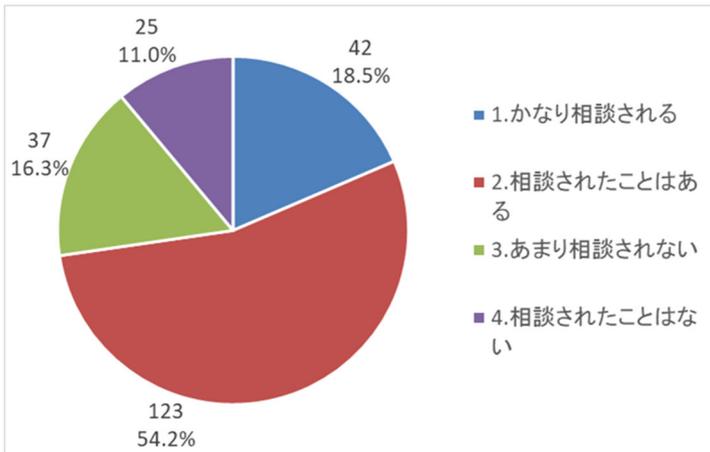
なお、相談を受けた方は、あまりできなかった事業所とややできた事業所が概ね 3

割弱と同程度となっている。

事業規模別では、小規模の方があまり回答できなかった割合が比して高くなっている。

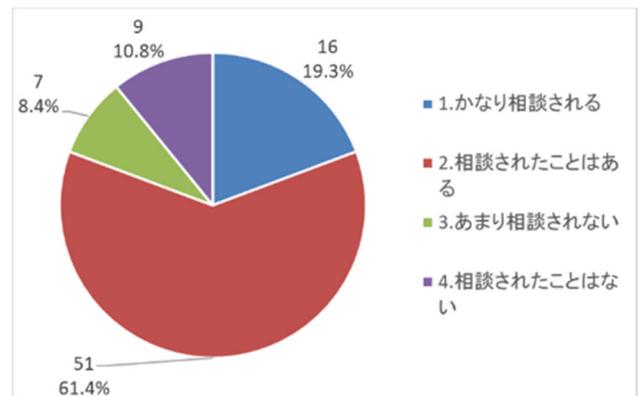
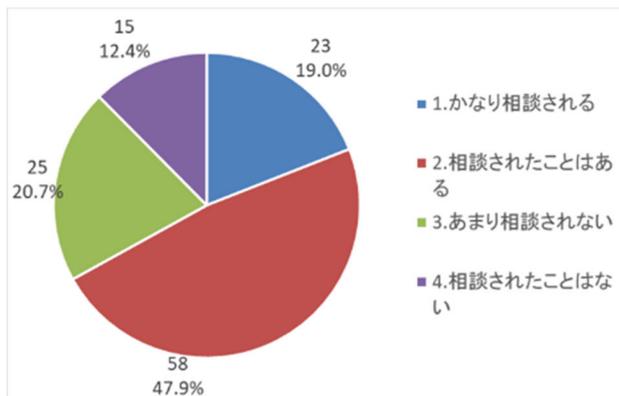
また、主な事業種別に聞くと、GH系の事業所があまりできなかった割合が33.8%と比較的高くなっている。

【表-59 あなたは、親亡き後について、相談を受けたことはありますか？】



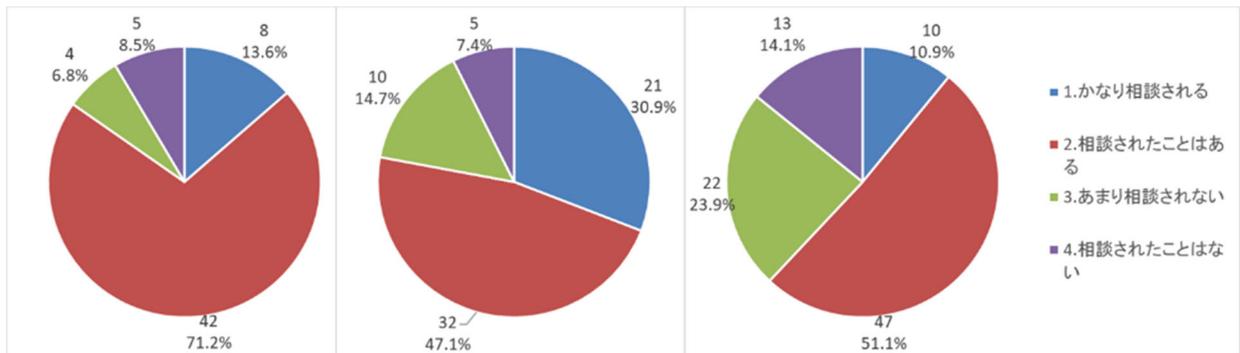
回答	件数	構成比
1. かなり相談される	42	18.5%
2. 相談されたことはある	123	54.2%
3. あまり相談されない	37	16.3%
4. 相談されたことはない	25	11.0%
計	227	100.0%

【表-60 親亡き後の相談（～20人・21人～）】



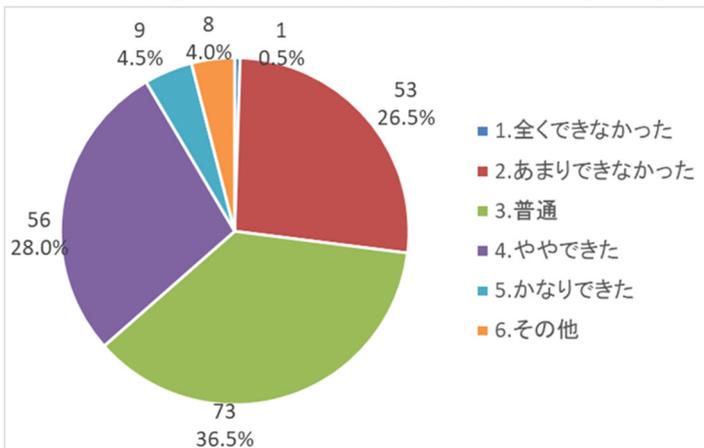
回答	～20人	21人～
1. かなり相談される	23 (19.0%)	16 (19.3%)
2. 相談されたことはある	58 (47.9%)	51 (61.4%)
3. あまり相談されない	25 (20.7%)	7 (8.4%)
4. 相談されたことはない	15 (12.4%)	9 (10.8%)
計	121 (100.0%)	83 (100.0%)

【表-61 親亡き後の相談（入所・GH・日中）】



回答	入所	GH	日中
1.かなり相談される	8 (13.6%)	21 (30.9%)	10 (10.9%)
2.相談されたことはある	42 (71.2%)	32 (47.1%)	47 (51.1%)
3.あまり相談されない	4 (6.8%)	10 (14.7%)	22 (23.9%)
4.相談されたことはない	5 (8.5%)	5 (7.4%)	13 (14.1%)
計	59 (100.0%)	68 (100.0%)	92 (100.0%)

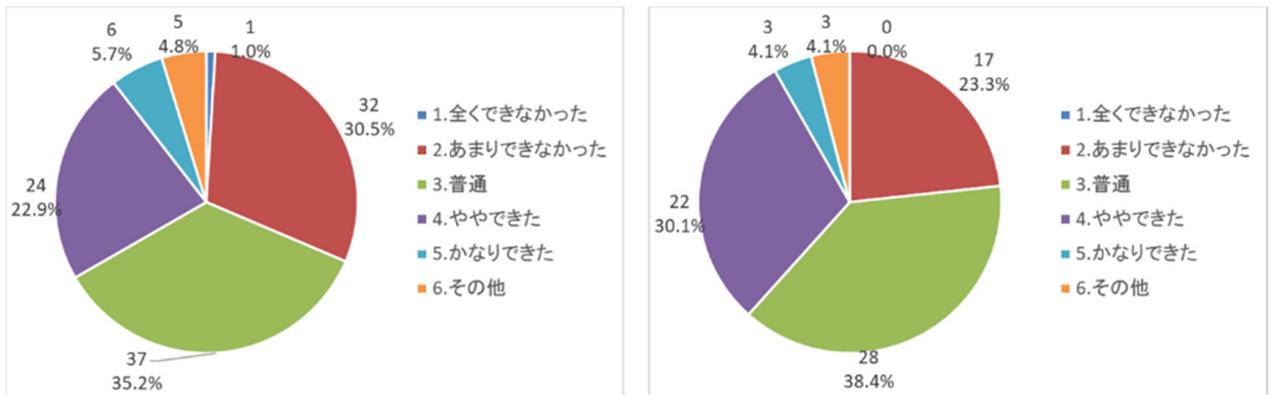
【表-62 相談を受けたことのある方、適切に回答できたと思われますか？】



回答	件数	構成比
1.全くできなかった	1	0.5%
2.あまりできなかった	53	26.5%
3.普通	73	36.5%
4.ややできた	56	28.0%
5.かなりできた	9	4.5%
6.その他	8	4.0%
計	200	100.0%

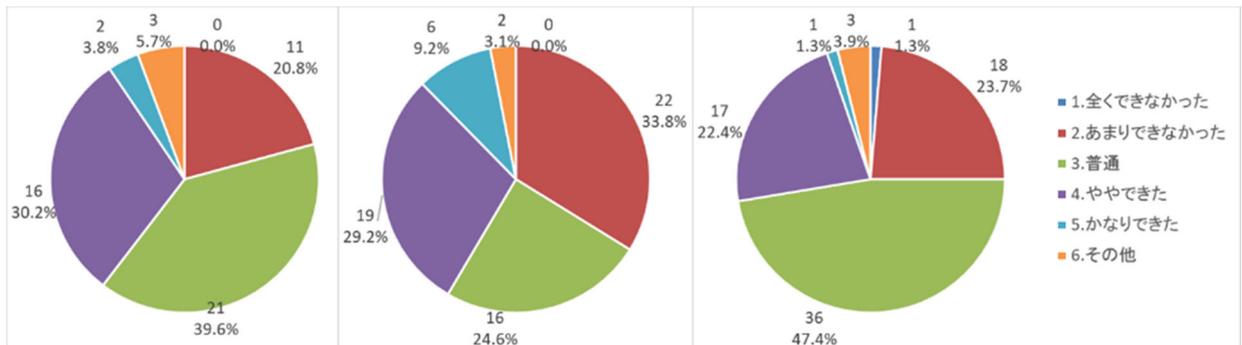
3 調査結果（事業所アンケートについて）

【表-63 適切に回答できたか？（～20人・21人～）】



回答	～20人	21人～
1. 全くできなかった	1 (1.0%)	0 (0.0%)
2. あまりできなかった	32 (30.5%)	17 (23.3%)
3. 普通	37 (35.2%)	28 (38.4%)
4. ややできた	24 (22.9%)	22 (30.1%)
5. かなりできた	6 (5.7%)	3 (4.1%)
6. その他	5 (4.8%)	3 (4.1%)
計	105 (100.0%)	73 (100.0%)

【表-64 適切に回答できたか？（入所・GH・日中）】



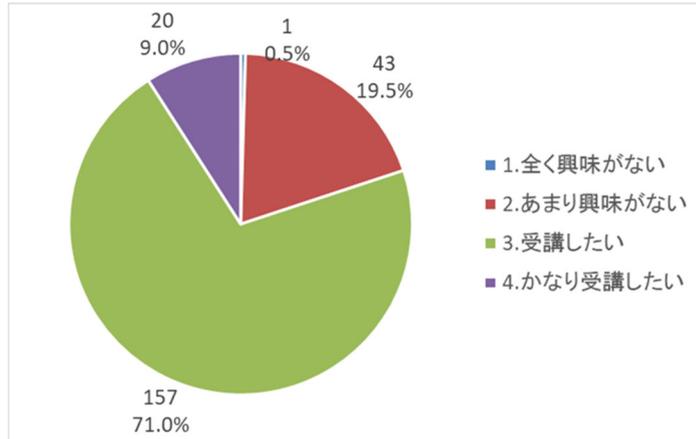
回答	入所	GH	日中
1. 全くできなかった	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)
2. あまりできなかった	11 (20.8%)	22 (33.8%)	18 (23.7%)
3. 普通	21 (39.6%)	16 (24.6%)	36 (47.4%)
4. ややできた	16 (30.2%)	19 (29.2%)	17 (22.4%)
5. かなりできた	2 (3.8%)	6 (9.2%)	1 (1.3%)
6. その他	3 (5.7%)	2 (3.1%)	3 (3.9%)
計	53 (100.0%)	65 (100.0%)	76 (100.0%)

⑤ 親亡き後に関するセミナー受講意欲

親亡き後に関するセミナー受講意欲は、かなり受講したい 20 件（9.0%）、受講したい 157 件（71.0%）と約 8 割の方が受講希望している。

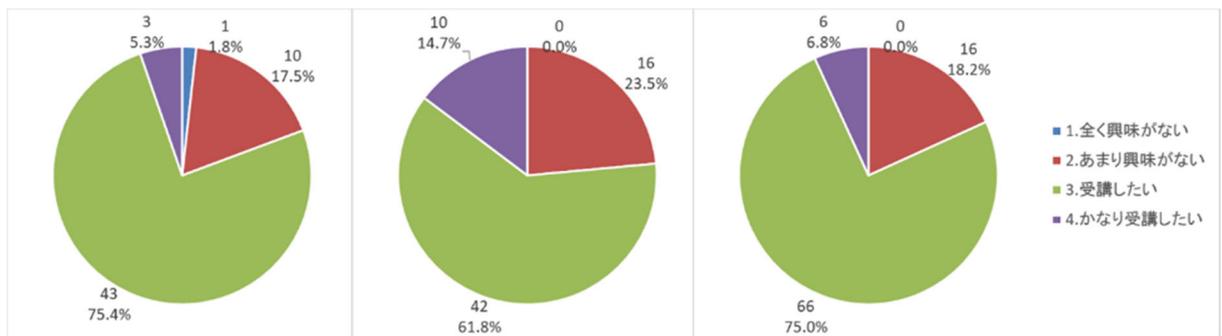
また、事業種別では、GH 系が受講したい 10 件（14.7%）と特に強いニーズを示している。

【表-65 親亡き後に関するセミナーがあれば受講したいですか？】



回答	件数	構成比
1.全く興味がない	1	0.5%
2.あまり興味がない	43	19.5%
3.受講したい	157	71.0%
4.かなり受講したい	20	9.0%
計	221	100.0%

【表-66 親亡き後のセミナー意欲（入所・GH・日中）】

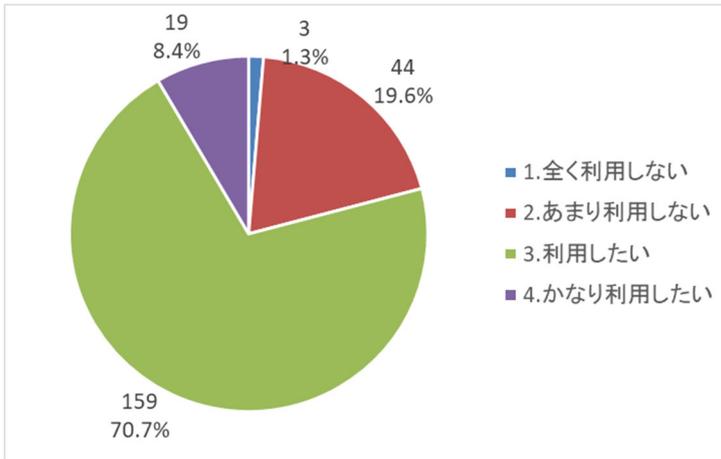


回答	入所	GH	日中
1.全く興味がない	1 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2.あまり興味がない	10 (17.5%)	16 (23.5%)	16 (18.2%)
3.受講したい	43 (75.4%)	42 (61.8%)	66 (75.0%)
4.かなり受講したい	3 (5.3%)	10 (14.7%)	6 (6.8%)
計	57 (100.0%)	68 (100.0%)	88 (100.0%)

⑥ 親亡き後に関する相談窓口利用意欲

親亡き後に関する相談窓口利用意欲は、かなり利用したい 19 件（8.4%）、利用したい 159 件（70.7%）と約 8 割が利用意向を示している。

【表－67 親亡き後に関する相談窓口があれば利用したいですか？】



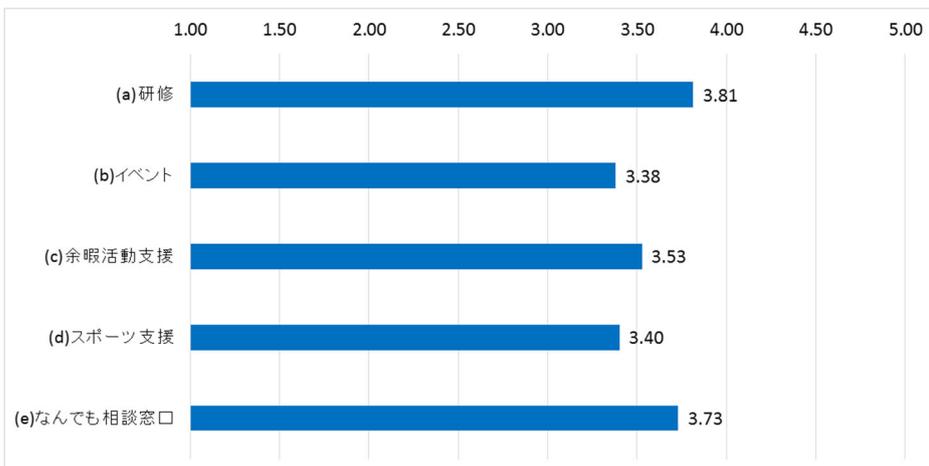
回答	件数	構成比
1.全く利用しない	3	1.3%
2.あまり利用しない	44	19.6%
3.利用したい	159	70.7%
4.かなり利用したい	19	8.4%
計	225	100.0%

⑦ 事業に対する期待度

今後の事業に対する期待度を 5 段階評価（最高：5 点、最低：1 点）で聞いたところ、(a)研修 3.81pt、(e)なんでも相談窓口 3.73pt となっている。

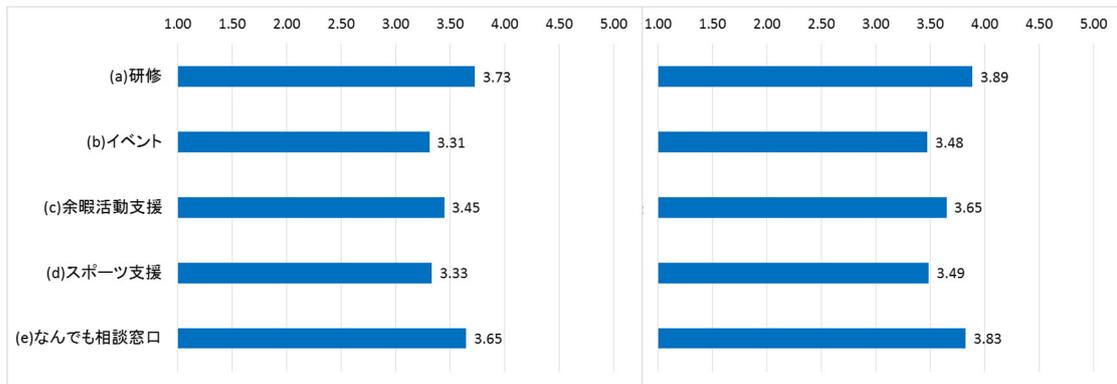
なお、事業規模別では、事業規模が大きい事業所の方が、今後の期待が総じて高くなっている。

【表－68 今後、当協会の事業に対する期待度を教えてください】



項目	ポイント
(a)研修	3.81
(b)イベント	3.38
(c)余暇活動支援	3.53
(d)スポーツ支援	3.40
(e)なんでも相談窓口	3.73

【表-69 事業に対する期待度（～20人・21人～）】



項目	～20人	21人～
(a)研修	3.73	3.89
(b)イベント	3.31	3.48
(c)余暇活動支援	3.45	3.65
(d)スポーツ支援	3.33	3.49
(e)なんでも相談窓口	3.65	3.83

当協会の事業に対して期待することの自由記述は 44 件あり、内容によって分類した。同一回答にカテゴリーの異なる内容が混在するものは、回答を分けて掲載した。

【当協会の事業に対して期待すること】（自由記述）

<p>〈研修について期待すること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修。職員のスキルアップにつながる。事業の発展につながる（NPO 法人） ・ 研修の充実（NPO 法人） ・ スポーツ支援を実施していただいておりますが、参加できる人が限られるので、支援員が学べる機会を実施してほしい（NPO 法人） ・ 現場で必要とされることのスキルアップができる研修を受けたいです（社会福祉法人） ・ 講師として優れた方を招いての研修は数少ないし、講師料として高額な場合もあるのでまたネットワークが十分でない法人の場合講師確保も難しいので質の高い研修を期待したい（社会福祉法人） ・ 今後、より重要となる「人材育成」に関する研修等の施設を期待する（社会福祉法人） ・ 社会情勢に合わせて、研修内容を企画してもらえたら利用したい（社会福祉法人） ・ 職員研修として参加していきたいが、会場を泉州地域にも設定してほしい（社会福祉法人） ・ 人材育成に有益な研修の開催を期待します（社会福祉法人） ・ 人材確保と人材育成は最大の課題と考えています。貴協会における研修に期待します（社会福祉法人） ・ 専門性向上への研修の充実（社会福祉法人）
--

- ・ 研修があれば参加したい（社会福祉法人）
 - ・ 研修（社会福祉法人）
 - ・ 職員対象の救命講習会や緊急時の対応など、意見交換の場などがあれば参加したい（社会福祉法人）
- 〈余暇活動支援、表現・スポーツ支援について期待すること〉**
- ・ 事業所の行事や余暇活動に対して助成して頂けることが、たいへんありがたい（社会福祉法人）
 - ・ 余暇に取り組んできておりますが、外出等本人の負担等、金銭的に厳しい利用者が参加できない等参加を促すには資金面の応援がほしい（社会福祉法人）
 - ・ 日中活動の場所なので、余暇支援はまだまだできていないので、そのような支援をしてもらえれば気分転換できるように思います（社会福祉法人）
 - ・ 余暇は重度障がい者ほど貧困な状態にあるのが現状。「余暇は権利」といった考えのもと、充実して欲しい（社会福祉法人）
 - ・ 日帰り旅行等の利用者の参加できるイベントがあればぜひ参加したい（社会福祉法人）
 - ・ 表現活動支援のさらなる充実（NPO 法人）
 - ・ 芸術創作活動、スポーツ選手活動などの支援（社会福祉法人）
 - ・ パラリンピック（株式会社）
 - ・ 少しでも障がいを持った方が、さまざまなスポーツを体験できればと思います（社会福祉法人）
 - ・ スポーツ大会など、取り入れてほしい（NPO 法人）
- 〈相談、情報提供について期待すること〉**
- ・ 職員の意識を高めたり意欲を維持できる研修、成功事例の発表など、どこに相談していいかわからないことを気軽に聞ける窓口（NPO 法人）
 - ・ なんでも相談窓口期待します（NPO 法人）
 - ・ ひきこもりの方、ニート支援などで、情報収集のあり方（NPO 法人）
 - ・ 軽度といわれる障がい者でなかなか余暇の過ごし方が難しい方が多いように感じるので、どのような提案ができるのかなど、参考にできたらと思う（社会福祉法人）
 - ・ 現場職員が総合的に判断して障がいを持つ方やその御家族を適切に支援できるようにさまざまな分野（法律、制度、社会資源等）の情報を得るパイプとなって頂きたいと思っております（社会福祉法人）
 - ・ 障がいを持たれた方が住みなれた地域で自分らしく生きていくためにどのようなサポートが必要なのか検討して欲しい（社会福祉法人）
 - ・ 人材、育成、確保、定着のためのとりくみ情報（社会福祉法人）
 - ・ 制度含めいろんな情報がほしい、特に後見人制度について（社会福祉法人）
 - ・ 保険の事など制度とは違うことで当事者の生活の支援に関わる事についてアドバイスをもらえるとありがたい（社会福祉法人）
 - ・ 毎月のニュースレターのような感じで相談内容等回答、又前向きな施設運営についての提供など（社会福祉法人）
 - ・ 相談事業で法律／財産（親なき後）、親族の虐待、等あれば、ありがたい（社会福祉法人）
- 〈補償制度について期待すること〉**
- ・ 支部に対してではなく、利用料（保険）を支払っている人にしっかり還元できるように取り組んでいただきたい（社会福祉法人）
 - ・ 保険を使用したいが、手続きが大変で実費支払いをしたというご家族が数名おられた。加入者には少し使いやすい（手続きの簡略化）が必要なかもしれないと思いました。（高齢のご家族）（社会福祉法人）
 - ・ 補償内容の充実。（社会福祉法人）
- 〈その他の期待や意見〉**
- ・ 親なき後の生活保障、余暇の充実（社会福祉法人）

- ・ 小さい作業所なので何でもあれば参加したい（一般社団法人）
- ・ 社会福祉法人、NPO、株式会社にとらわれず、福祉サービスが向上することを支援して欲しい（社会福祉法人）
- ・ 当事業所9割以上の利用者が「みんなで」という事に対してストレスを感じた事業所で不安定になられて、来られた方々なのでイベントやスポーツ等「みんなで」という活動を企画し実行することに又、参加をさせる事に疑問を持って欲しいです（株式会社）
- ・ IOT（モノのインターネット）、AI（人工知能）への対応（社会福祉法人）
- ・ 余暇活動等に重点を置いてるので「仕事」「就労」分野にも力を入れることを期待します（社会福祉法人）
- ・ 利用者本人をどう巻き込んでいくのか、また、家族についても同様の課題があると思います（社会福祉法人）
- ・ 特にありません（社会福祉法人）

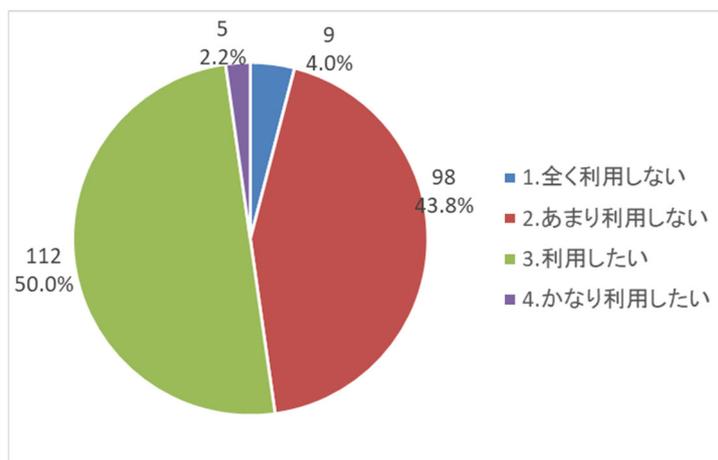
⑧ 他事業所のイベント参加意欲

他事業所が実施しているイベントへの参加については、かなり利用したい 5 件（2.2%）、利用したい 112 件（50.0%）と約半数の方が利用意向を示している。

また、この事業運営について、法人のスタッフがボランティア登録して実施することについては、かなり良い 16 件（7.4%）、良い 128 件（59.5%）と約 6 割強の事業所が前向きに検討している。

なお、事業種別に見ると、入所、および GH の方が、日中系よりもニーズが高い。

【表-70 余暇活動で、他事業所で実施しているイベント等に参加できる等、メニューが増えたら、利用しますか？】



回答	件数	構成比
1.全く利用しない	9	4.0%
2.あまり利用しない	98	43.8%
3.利用したい	112	50.0%
4.かなり利用したい	5	2.2%
計	224	100.0%

【希望する余暇活動】（自由記述）

〈具体的な行事や内容の希望〉

- ・ 外出（遠出）、一泊旅行（NPO 法人）
- ・ 音楽（NPO 法人）
- ・ 農業（NPO 法人）
- ・ 体を動かす運動、料理など（一般社団法人）
- ・ 簡単なスポーツ、ゲーム（一般社団法人）
- ・ マリンスポーツ（株式会社）
- ・ バザー、よさこい等の発表（社会福祉法人）
- ・ サッカー（社会福祉法人）
- ・ スポーツ活動余暇活動他の事業所との交流（社会福祉法人）
- ・ 共催事業、ソフトボール大会について詳しく知りたい（社会福祉法人）
- ・ ソフトボール大会、映画鑑賞、コンサート（社会福祉法人）
- ・ 運動会、おまつり（社会福祉法人）
- ・ 手先を使う手作り創作物（社会福祉法人）
- ・ 盆踊りやお祭りなど（社会福祉法人）
- ・ 音楽コンサート、観劇、旅行（社会福祉法人）
- ・ カラオケ大会（社会福祉法人）
- ・ ソフトボール、野球、サッカーなどの大会（社会福祉法人）
- ・ 甲子園球場での野球観戦（ボックス席があれば）（社会福祉法人）
- ・ スポーツ企画（社会福祉法人）
- ・ 日帰り旅行、クリスマス会、コンサート（社会福祉法人）
- ・ ソフトボールの試合（社会福祉法人）
- ・ スポーツ交流、芸術交流（社会福祉法人）
- ・ 旅行、観劇（社会福祉法人）

〈環境や条件の希望〉

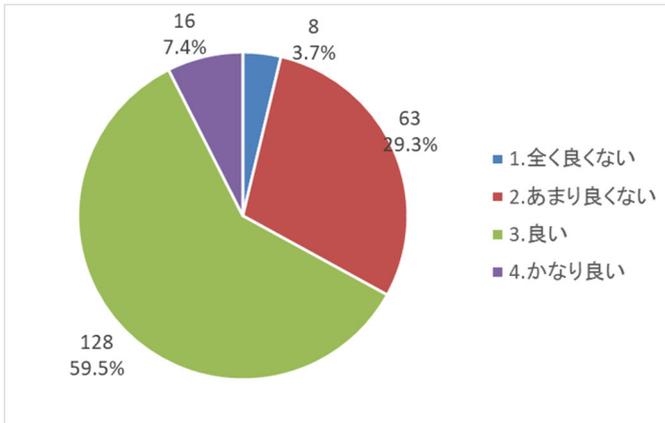
- ・ スポーツ大会やハイキングなど、個人的に活動しづらい内容を希望します（NPO 法人）
- ・ 最近、当事業所内で「トランプ」「オセロ」などが流行りました。そんなささいなことでも経験してきた回数やプレーする人（同じ利用者か）で楽しめるのだと感じました（NPO 法人）
- ・ 施設が休みの日に利用者が気軽に参加できるもの（社会福祉法人）
- ・ ソフトボールなど、対戦相手が必要な余暇活動（社会福祉法人）
- ・ 運動が苦手な人でも体を動かすことができるイベント（社会福祉法人）
- ・ スポーツ、利用者のみで参加できるもの（社会福祉法人）
- ・ 高齢化されている利用者様が、増えている為、ケガ等が、ないようにする余暇活動を希望（社会福祉法人）
- ・ 参加型より観覧型かなと思う年齢層が高いのでサーカス、ミュージカル（社会福祉法人）
- ・ 楽しそうな内容ならなんでも参加したい（社会福祉法人）
- ・ ひとつの団体で行なうのがむずかしいメニュー。サッカー教室。ダンス大会（社会福祉法人）
- ・ 重度の方でも参加できるような活動（社会福祉法人）
- ・ 内容というよりも地域による（行きやすいかどうか）（社会福祉法人）

〈その他の希望や意見〉

- ・ そういう事が苦手な方々なので（株式会社）
- ・ 貴協会のイベント等を案内していますが、参加の可否については個人毎になるので、一元的に回答することは難しい。多様な内容から選択できればと考えます（社会福祉法人）
- ・ GH 入所者の休日の過ごし方、ガイヘルへの対応が全く出来ない状況、人数が少ない（社会福祉法人）

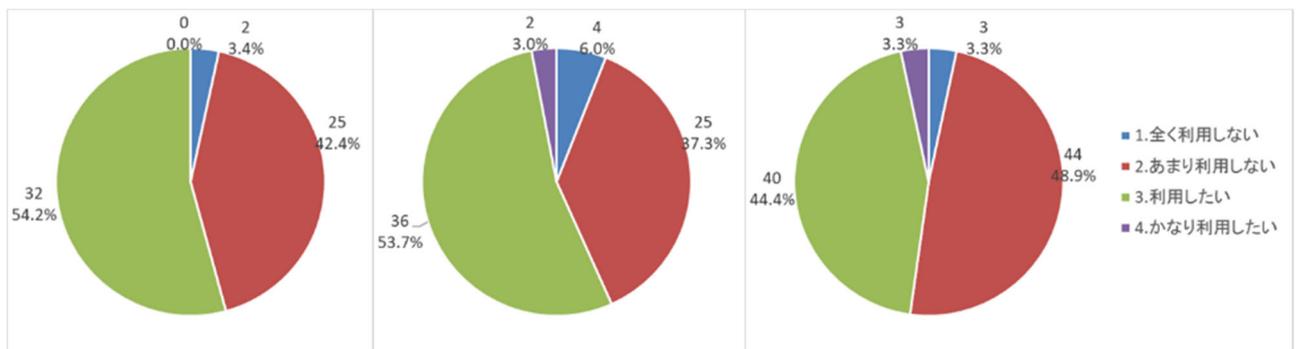
- ・ 個人で参加することは難しい。余暇の支援が全利用者に行き渡るわけではないので、それよりも金額に見合ったサービスを（社会福祉法人）
- ・ 特にありません（社会福祉法人）

【表-71 貴法人のスタッフが（有償）ボランティアとして登録し、他事業所のイベントに参加するよ
うなことについてどう思われますか？】



回答	件数	構成比
1.全く良くない	8	3.7%
2.あまり良くない	63	29.3%
3.良い	128	59.5%
4.かなり良い	16	7.4%
計	215	100.0%

【表-72 余暇活動メニューの充実（入所・GH・日中）】



回答	入所	GH	日中
1.全く利用しない	2 (3.4%)	4 (6.0%)	3 (3.3%)
2.あまり利用しない	25 (42.4%)	25 (37.3%)	44 (48.9%)
3.利用したい	32 (54.2%)	36 (53.7%)	40 (44.4%)
4.かなり利用したい	0 (0.0%)	2 (3.0%)	3 (3.3%)
計	59 (100.0%)	67 (100.0%)	90 (100.0%)

⑨ 人気のあるイベントや一芸を持つスタッフ

人気のあるイベントや一芸を持つスタッフなどの自由記述は78件あった。「一芸を持つスタッフ」について言及がある回答を分類し、まとめて掲載した。

【貴法人の中で実施している人気のあるイベントや、一芸を持つスタッフの方等がおられましたら、詳しく教えてください。】（自由記述）

〈一芸を持つスタッフについて言及がある回答〉

- ・ 運動会、旅行、ボウリング大会、カラオケ大会など、一芸を持ったスタッフ→演劇（NPO 法人）
- ・ 法人内のイベント等で「すばるファイブ」と称して、有志職員によって組織したメンバーによる“ヒーローショー”を実施し、利用者の方に喜ばれている（社会福祉法人）
- ・ 職員でトーンチャイムのグループに入っておられる方がいます（社会福祉法人）
- ・ 退職された方にパペットセラピーをされる方がいる、エアロビクス等（社会福祉法人）
- ・ 音楽活動（楽器やダンスなど）を得意としているスタッフがいる（社会福祉法人）
- ・ ギターやサクソ、コントラバスなど楽器を演奏できる職員が余暇時間に演奏してくれたり、行事でコンサートをしてくれるのありがたいです（社会福祉法人）
- ・ ダンスチーム（利用者、職員）が法人内外のステージに出演（社会福祉法人）
- ・ パルーンアート（風船で造形物をつくる）サッカー指導（もと JFA 選手）中国語を教える（中国人スタッフにより）（社会福祉法人）
- ・ 皿まわしが得意なスタッフがいる。職員だけでバンドが構成でき器材もある。人気イベントは利用者主催の模擬店です（社会福祉法人）
- ・ 調理師、ミュージシャン、元スポーツ選手などいろいろな人がいます。こちらの事業所には移動販売車があります（社会福祉法人）

〈人気のあるイベント〉

- ・ エアロビクス、ムーブメントなど外部講師にお願いしています、バスツアーボウリングは人気があります（NPO 法人）
- ・ バーベキュー、ボウリング大会、雪遊び、ピクニック、旅行等（NPO 法人）
- ・ 利用者の特性に応じた外出イベント（NPO 法人）
- ・ 年一度、一泊旅行を実施しています、利用者様の楽しみの一つになっています（NPO 法人）
- ・ 花見（NPO 法人）
- ・ 宿泊学習にて創作活動、野外炊事の実施（NPO 法人）
- ・ 夏祭り、日帰り旅行（NPO 法人）
- ・ 親子遠足、お楽しみ会、クリスマス会、新年会（NPO 法人）
- ・ バーベキュー（NPO 法人）
- ・ 料理教室（NPO 法人）
- ・ 音楽、イベント（NPO 法人）
- ・ ギター（NPO 法人）
- ・ クリスマス会での利用者によるダンスと楽器演奏は各保護者に好評で毎年いろんな曲を取り入れて行っています（NPO 法人）
- ・ BBQ（バーベキュー）、ボウリング大会（NPO 法人）
- ・ 焼肉大会やカラオケ大会、映画鑑賞会など（一般社団法人）
- ・ 海水浴（株式会社）
- ・ BBQ は楽しみにされています（株式会社）
- ・ 一芸のある者はおりませんが支援員全員でのコスプレを忘年会で行なっている（株式会社）
- ・ 人気のあるイベントは、バーベキュー大会（家族会主催）日帰り旅行等（社会福祉法人）
- ・ 外食（社会福祉法人）
- ・ 一番人気のあるイベントは断トツで一泊旅行（社会福祉法人）
- ・ 夏休み放デイ BBQ 大会（知的、発達、重症児含め、みんなで川に入ったり、BBQ をしたりします）（社会福祉法人）
- ・ 一泊旅行（社会福祉法人）

- ・ 旅行。軽食等の余暇活動（社会福祉法人）
- ・ 一泊旅行、遠足、ボウリング大会（社会福祉法人）
- ・ 皆様野外（外食）イベントはとても楽しみな様です。人気があるスタッフは元気、ポジティブな要素が共通しています（社会福祉法人）
- ・ デイキャンプ（法人全体）カラオケ大会（2～3事業所で）〇〇まつり（地域をまきこんでその事業所名を冠して）一芸を持つスタッフは特に思い当たりません（社会福祉法人）
- ・ 一泊旅行、文化祭、グループ外出（社会福祉法人）
- ・ 旅行、クリスマス会、忘年会、もちつき大会、地域との交流カラオケ大会、農園バザー（社会福祉法人）
- ・ バスツアー、グループ外出、夏祭り、音楽レク、一泊旅行、クリスマス会、コンサート鑑賞（社会福祉法人）
- ・ ソフトボール、野球、サッカー（社会福祉法人）
- ・ サッカーフェスティバル（社会福祉法人）
- ・ バイオリン、アコースティックギター、マリンバ、エアギター、手話（社会福祉法人）
- ・ カラオケ（社会福祉法人）
- ・ 音楽会（月2回）音楽の時間に指導して下さる先生のコンサート等に参加します（社会福祉法人）
- ・ カラオケ大会（社会福祉法人）
- ・ ヘルマンハーブの取り組み（施設入所のご利用者と地域住民と一緒に音楽活動を行う）（社会福祉法人）
- ・ ミュージックケア（音楽療法、講師来所）ドックセラピー（講師セラピー犬、来所）（社会福祉法人）
- ・ 外部から音楽をされている方を招いての演奏会（社会福祉法人）
- ・ ゆうとおんバンド（社会福祉法人）
- ・ 和太鼓、3B体操（年齢・性別に関係なく、無理なく楽しむことのできる体操）、フラダンスなど（社会福祉法人）
- ・ カラオケ大会、夏祭り、クリスマス会など（社会福祉法人）
- ・ 夏、冬休み前のお楽しみ会（社会福祉法人）
- ・ 盆踊り、クリスマス等（社会福祉法人）
- ・ 年一回秋に行う「心学塾フェスタ」（社会福祉法人）
- ・ ふれあい動物園をイベントで実施したときは好評でしたが、費用の面から今は実施していません（社会福祉法人）
- ・ にいたかフェスタという年1回のおまつり（社会福祉法人）
- ・ 地域の方に施設を開放して、施設の事を知って頂くイベントを行っている（社会福祉法人）
- ・ 盆おどり、バザー、地域交流をしながら模擬店を楽しんでいます（社会福祉法人）
- ・ 盆踊りやバザー（社会福祉法人）
- ・ 秋まつり（社会福祉法人）
- ・ 夏祭り、とうふまつり（社会福祉法人）
- ・ 寿司職人が寿司を握る（社会福祉法人）
- ・ 運動会、文化祭（社会福祉法人）
- ・ 夏祭り（盆踊り）（社会福祉法人）
- ・ 夏に納涼祭、秋にフェスティバル（まつり）をしています（社会福祉法人）
- ・ 地域貢献事業として1回/年事業所を開放体験教室やサロン、バザーを中心に楽しんで載っている（社会福祉法人）
- ・ 「つくっ展と輝けコンサート」（作品展・音楽鑑賞会）運動会（社会福祉法人）
- ・ 年始コンサートなど（社会福祉法人）

- ・ しらさぎまつり（社会福祉法人）
 - ・ 作業メニューで、パンを作っているのので、市民むけパン作り講座は、好評をいただいています（社会福祉法人）
 - ・ ハイキング、バーベキュー、ボウリング（社会福祉法人）
 - ・ いぶきまつり、陶芸教室（子ども）ボランティア交流会（社会福祉法人）
 - ・ 夏祭り、バンド演奏、音楽療法（社会福祉法人）
- 〈イベントに関するその他の状況や意見〉**
- ・ イベントを行う事より、日々の生活活動の中から優しさや、思いやり、喜び、我慢、苦しさ等を実感できる仲間同士の関りを大切にしたいと考えています。もちろん季節ごとの小さなイベントは行っています（一般社団法人）
 - ・ そういう事業所ではないので（株式会社）
 - ・ 特にありません（社会福祉法人）
 - ・ 特にいない（社会福祉法人）

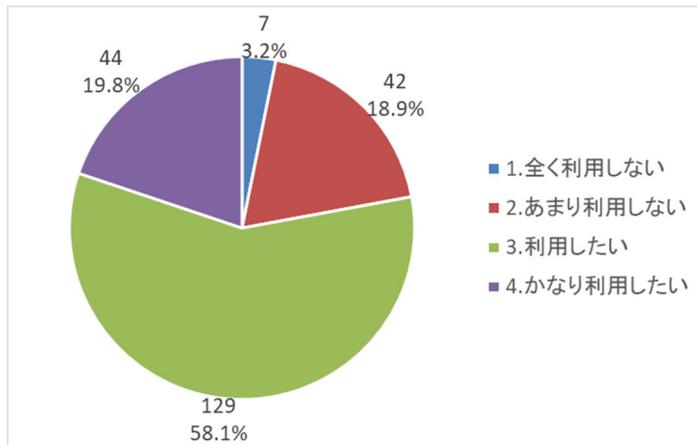
⑩ 緊急人材派遣サービスの利用意欲

緊急時の人材派遣サービスについては、かなり利用したい 44 件（19.8%）、利用したい 129 件（58.1%）と約 8 割の事業所が利用意向を示している。

なお、事業規模別では、事業規模が大きい事業所の方が利用意向が高く、特にかなり利用したい 29.1%と強い意向を示している。

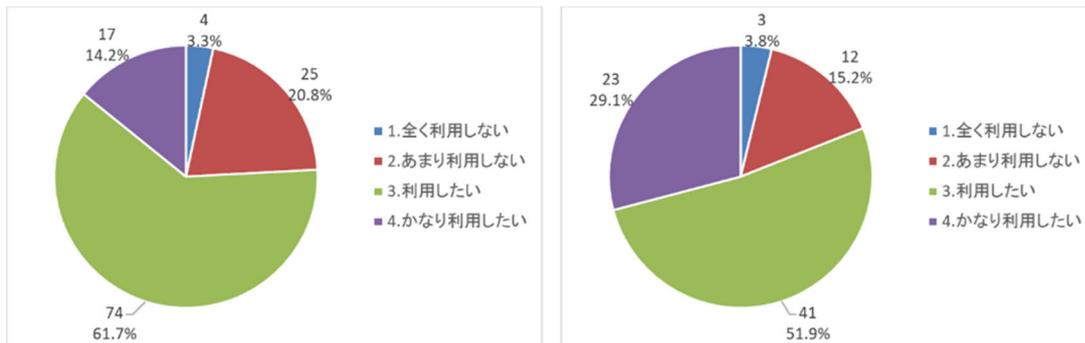
その際、スタッフが有償ボランティアとして活動することについては、かなり良い 12 件（5.6%）、良い 121 件（56.0%）と 6 割強の事業所が前向きに評価している。

【表－73 利用者の入院時等誰も付き添えない場合に、人材派遣ができるサービスがあれば利用しますか？】



回答	件数	構成比
1. 全く利用しない	7	3.2%
2. あまり利用しない	42	18.9%
3. 利用したい	129	58.1%
4. かなり利用したい	44	19.8%
計	222	100.0%

【表-74 人材派遣サービス（～20人・21人～）】



回答	～20人	21人～
1.全く利用しない	4 (3.3%)	3 (3.8%)
2.あまり利用しない	25 (20.8%)	12 (15.2%)
3.利用したい	74 (61.7%)	41 (51.9%)
4.かなり利用したい	17 (14.2%)	23 (29.1%)
計	120 (100.0%)	79 (100.0%)

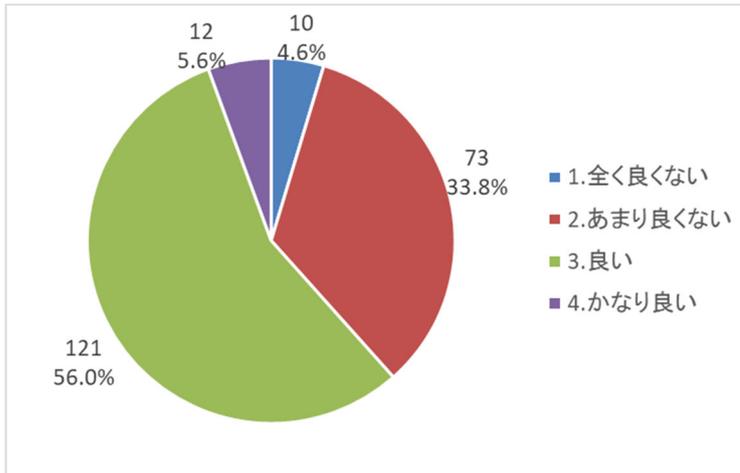
また、事業種別では、入所系が 17 件（29.3%）とかなり利用したい割合が高い。

【表-75 人材派遣サービス（入所・GH・日中）】



回答	入所	GH	日中
1.全く利用しない	1 (1.7%)	4 (5.8%)	2 (2.3%)
2.あまり利用しない	4 (6.9%)	14 (20.3%)	21 (24.1%)
3.利用したい	36 (62.1%)	36 (52.2%)	53 (60.9%)
4.かなり利用したい	17 (29.3%)	15 (21.7%)	11 (12.6%)
計	58 (100.0%)	69 (100.0%)	87 (100.0%)

【表-76 貴法人のスタッフが（有償）ボランティアとして登録し、他事業所の緊急時のフォローアップに参加するようなことについてどう思われますか？】



回答	件数	構成比
1. 全く良くない	10	4.6%
2. あまり良くない	73	33.8%
3. 良い	121	56.0%
4. かなり良い	12	5.6%
計	216	100.0%

(3) その他

【その他、相談を受けて困った事、あると良いと思われるサービスについて思う所をどうぞ。】

（自由記述）

<p>〈困ったこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後見人等をすすめても家族の受け入れが困難な事が多い（一般社団法人） ・ 計画相談と個別相談との連携が難しい（フットプロダクツは単体なので）（株式会社） ・ 将来グループホームで暮らすことを親子共に考えておられるケースに具体的なサービス提供でできない（ホームが足りない）ことをなんとかしたいと思っているが…（社会福祉法人） ・ 緊急時のショートステイの不足、余暇活動の充実（社会福祉法人） ・ 皆様保護者様の高齢化により、生活サポートをどうしていくかが悩みです（社会福祉法人） ・ 親亡き後の財産管理等法人にお願いしたいといった相談が時々見られて困る（思いとしては有難いとは思いますが）（社会福祉法人） ・ 独居の利用者の行動について地域住人からの苦情があり対応に困った（社会福祉法人） ・ 成年後見制度を両親ご健在の間に始めたいとのことだが、毎月の後見費用がかかり大変だとのことでした。結局、まだ時期尚早かということで解約されました。後見費用も結構かかるんだと思いました（社会福祉法人） ・ 親族による金銭搾取（亡父の生命保険等、全般）を、保護者が認識出来ない。保護者も支援の対象（社会福祉法人） ・ 入所施設も定員が一杯、グループホームも重度の人の受け入れがまだまだ難しく、重度の人の生活の場所の確保が困難（社会福祉法人）

〈あると良いサービス〉

- ・ 旅行や外出イベントでのボランティア（日頃から利用者さんの様子を知らない方をお願いするのは難しいと思いますが）（NPO 法人）
- ・ 緊急時（親の急用や入院など）受け入れ可能なショートステイのような宿泊施設や対応職員の配属ができると思いと考えています（NPO 法人）
- ・ 病気後、自宅療養中のサポートにサービスなど利用したい（NPO 法人）
- ・ 縦割りの様々な制度よりも、24 時間の包括制度（株式会社）
- ・ ワンストップ機能、どんな相談でも一次対応してもらえる。緊急でなくても避難できる所～短期入所やシッター等の緊急時ではないが、一時的に居場所を変える為の社会資源（社会福祉法人）
- ・ 料理教室（社会福祉法人）
- ・ 職員のメンタルヘルス等（社会福祉法人）
- ・ 利用者の親が高齢になり、連絡が取ることが難しくなった、その他に親の代わりに連絡を取ろうとした場合、抵抗感を感じることもある。家族親族のなかである程度事前に利用者の親亡き後の生活について話し合いを持つことの大切さを伝える役割をどこかが担った方が良いのではと思う（社会福祉法人）
- ・ GH 開設にあたって、世話人さんの確保に困っています。人材紹介システムのようなものがあればありがたいです（社会福祉法人）
- ・ 年に何回かスポーツや行事への招待（野球阪神オリックス）（サッカーセレッツガンバ）（社会福祉法人）
- ・ 知的障がいのある方にとっての医療相談について出来るところが欲しいです（社会福祉法人）
- ・ 重度障がい者が、親亡き後に安心して入所出来る施設の増設（社会福祉法人）
- ・ 長期入院後施設へ戻って来られない等があった時に次の行き先等を情報提供してもらえる所があればなと思いました（社会福祉法人）
- ・ 旅行の付添（社うる会福祉法人）
- ・ 資産運用を含むライフプラン（社会福祉法人）
- ・ 障がいをもつきょうだいのための支援（社会福祉法人）
- ・ 通院の送迎支援（社会福祉法人）
- ・ 利用者の通勤時の付添（社会福祉法人）
- ・ ターミナルケアの実施について（社会福祉法人）
- ・ 重度の身体障がいや行動障がいのある方の生活が充実するようなサービスがあればよいと思う（社会福祉法人）
- ・ Q2-9-1 や 2（入院時等に人材派遣、有償ボランティア登録）については、助け合いのシステムとして、例えば非常災害時などに有効と思われる。知的障がいなど、障がい特性上、誰でもとはいかない部分もあるので、難しい側面もあるが自立支援協議会などと協働で町をあげて進めてほしいと思います（社会福祉法人）
- ・ 緊急時に日々の暮らしを担保できるだけの暮らしを支える事業（グループホーム、ショートステイ、入所など）。またそれを支える人材確保に関する事業と育成事業（社会福祉法人）
- ・ 学校や保育園等の個別送迎サービス（親の状況や家庭の都合が登校、下校が軌道にのりにくい人が案外多い）（社会福祉法人）

〈その他〉

- ・ 当施設は、AIU（現・AIG）のサポート保険に全員が入っています、先日も足を骨折した利用者の保護者がとても喜んでいました（NPO 法人）
- ・ ショートステイを当法人でとりくんでほしいの声が多く現在ショートステイ事業を計画しているところである（社会福祉法人）
- ・ 今は特にない（社会福祉法人）

4 考察

親亡き後への対応

- 会員及び支部調査ともに、『親亡き後』の困り度や対応等が大きなテーマとしてあがっている。特に、困り度が高い年齢の若い会員（若い家族）向けに、シリーズで研修会を開催する等で対応すべきである。また、ブロックごとに開催されれば内容が深まる。

（内容例）

- ・相談支援事業所を含めた障がい福祉事業について
- ・成年後見制度について
- ・障がい者のファイナンシャルプラン（親亡きあとに備えて）

よろず相談対応

- よろず相談室はホームページを活用して立ち上げ、それぞれの専門家（アドバイザー）と契約して回答していく。

イベント系情報提供力の強化

- 各支部のイベント情報や一芸に秀でたスタッフ紹介をホームページに掲載していく。

ブロック内の連携強化

- 支部調査から、各支部が属するブロック内の連携強化を図る。そこから派生して、人材確保のためのエリア内就職フェアの開催や防災連携に助成していく。

緊急人材派遣サービスの検討

- 緊急人材派遣サービスはニーズが高いが、労働関係法との整理が必要であり時間をかけて検討していく。

補償内容のさらなる強化

- 補償内容の満足度は高いが、付き添い介護保険金と入院諸費用については再検討が望まれている。

5 おわりに

本調査を振り返ると、時代が変わり障がい福祉サービスの内容が充実してきて、会員（又はその家族）の困り事の一番は“親亡きあと”でした。永遠に不滅のテーマであると再認識できました。調査結果の内容は本編に委ねますが、20歳から30歳代の会員が利用しておられる相談支援事業所の質・量を充実させていくことと、介護保険サービスへつなぐまでの障がい福祉サービスの内容をさらに向上させることで、親亡きあとの困り度がぐっと下がると信じています。

当協会の認知度が、会員及び支部とも「生活サポート総合補償制度」取扱いのイメージが強く、支援に係る各種の事業や支部活動等への助成事業への認知度が低かったことは真摯に受け止め、早急に改善していきます。また、今以上に当協会のホームページを充実させ、情報発信に努めていきます。

限られた時間のなか、大阪生活サポート協会役員及び事業運営委員の皆様、ご協力いただいた株式会社インサイトの関原様、アンケート調査実施に際して貴重なご意見をいただくなど、多くのご支援ありがとうございました。

最後に、今回のアンケート調査にご協力いただきました会員及びご家族、支部の皆様方に深く感謝申し上げます。高覧いただき、ご意見等を賜れば幸いです。常に会員が“主役”となり輝いて生きていけるよう、各支部と力を合わせて新しい事業を展開してまいります。

大阪生活サポート協会事業運営委員長 大崎 年史

〈参考資料〉アンケート調査票

大阪知的障害児者生活サポート協会 会員(ご親族)アンケート調査

Q1. ご記入頂くあなた様と障がいのあるご本人について教えてください。

Q1-1. あなたの年齢を教えてください。

歳

Q1-2. あなたの性別を教えてください。(○印は1つ)

1.女性 2.男性

Q1-3. 障がいのある方ご本人の年齢を教えてください。

歳

Q1-4. 障がいのある方ご本人の性別を教えてください。(○印は1つ)

1.女性 2.男性

Q1-5. あなたと障がいのある方ご本人との関係を教えてください。

(○印は1つ)

1.親 2.兄弟姉妹 3.親戚 4.その他()

Q1-6. 障がいのある方ご本人の障がい種別を教えてください。

(○印はいくつでも)

1.身体障がい 2.知的障がい 3.精神障がい
4.発達障がい 5.その他()

Q1-7. 障がいのある方ご本人が、利用しているサービス内容を教えてください。

(○印はいくつでも)

1.施設入所支援	2.共同生活援助事業(GH)
3.就労移行支援	4.就労継続支援A型
5.就労継続支援B型	6.生活介護
7.相談支援事業	8.福祉型障がい児入所施設
9.児童発達支援	10.放課後等デイサービス
11.移動支援	12.その他()

Q1-8.障がいのある方ご本人が、主に日中過ごしている場所はどこですか？
(○印は1つ)

1.一般企業	2.就労移行支援
3.就労継続支援A型	4.就労継続支援B型
5.生活介護	6.入所施設
7.その他()	

Q1-9.障がいのある方ご本人の主なお住まいはどこですか？ (○印は1つ)

1.親族と同居	2.グループホーム	3.入所施設
4.独り暮らし	5.その他()	

Q1-10.障がいのある方ご本人が、余暇活動としてガイドヘルパーをどの程度利用していますか？ (○印は1つ)

1.週1回以上	2.2週に1回程度
3.月に1回程度	4.3か月に1回程度
5.使わない	6.使いたいけどサービスがない

Q1-11.障がいのある方ご本人が、今までに余暇活動として、通所している障がい福祉事業所のイベント企画をどの程度利用していますか？ (○印は1つ)

1.よく利用する	2.時々利用する
3.利用しない	

Q1-12.その他、障がいのある方ご本人が、余暇として活動されていることがあればご記入ください。(ガイドヘルパー利用、事業所イベント企画以外)

--

Q1-13.成年後見制度を利用していますか？(○印は1つ)

1.はい	→Q1-13(a)へ
2.いいえ	→Q2へ

→Q1-13(a).成年後見人等は誰ですか？ また後見人を選ばれた理由を教えてください。(○印はいくつでも)

1.親族後見(配偶者・親・子・兄弟姉妹等)
2.第三者後見(弁護士・司法書士・社会福祉士等)
3.法人後見(社会福祉協議会、その他法人等)

その理由

Q2.以下の項目について、あなたの困り度について5段階から1つ選んでください。またそれを選んだ理由について教えてください。

※今まで経験したことについては困り度(過去)を、また、まだ経験していないことについては困り度を予測(未来)してご回答ください。

	全く困らない	あまり困らない	普通	やや困る	かなり困る
2-1.障がい福祉サービス					
(a)乳幼児の障がい福祉サービス(児童発達、放課後等デイ等) ※(~18歳)	1	2	3	4	5
(b)成人期の障がい福祉サービス(日中活動、住まい、余暇等) ※(18~59歳)	1	2	3	4	5
(c)高齢期の障がい福祉サービス(日中活動、住まい、余暇等) ※(60歳以上)	1	2	3	4	5
上記(a)~(c)を総合的にみたときの、障がい福祉サービスに対する困り度	1	2	3	4	5

その理由

	全く困らない	あまり困らない	普通	やや困る	かなり困る
2-2. 普段と違うことが発生した時					
(a)ご本人の入院・通院時	1	2	3	4	5
(b)冠婚葬祭等の緊急時	1	2	3	4	5
(c)親の都合(レスパイト等)・親の入院通院	1	2	3	4	5
上記(a)～(c)を総合的にみたときの、普段と違うことが発生した時に対する困り度	1	2	3	4	5

その理由

	全く困らない	あまり困らない	普通	やや困る	かなり困る
2-3. 生活環境が変わる時					
(a)学齢期→成人期における進路・就労先	1	2	3	4	5
(b)親族との同居から独り暮らし・グループホーム・入所への移行	1	2	3	4	5
(c)親亡き後	1	2	3	4	5
上記(a)～(c)を総合的にみたときの、生活環境が変わる時の困り度	1	2	3	4	5

その理由

	全く困らない	あまり困らない	普通	やや困る	かなり困る
○総合 前頁2-1～2-3まですべてを総合的にみたときの、障がいのある方ご本人に対する困り度	1	2	3	4	5

その理由

Q3.当協会、ならびに提供している商品・サービスについて

Q3-1.今後余暇活動で、他事業所で実施しているイベント等に参加できる等、メニューが増えたら、利用しますか？（○印は1つ）

また、希望されるメニューがあれば教えてください。

1.全く利用しない	2.あまり利用しない
3.利用したい	4.かなり利用したい

希望するメニュー

Q3-2.万が一の入院時等誰も付き添えない場合に、人材派遣ができるサービスがあれば利用しますか？（○印は1つ）

また、希望される1日あたりの価格帯は？（4つ全て記入してください）

1.全く利用しない	2.あまり利用しない
3.利用したい	4.かなり利用したい

①この値段だと高すぎて利用しないと感じる価格

 円

②この値段だと高いが利用すると感じる価格

 円

③この値段以下だと安いと感じる価格

 円

④この値段だと質が不安になるので利用しないと感じる価格

 円

Q3-3.あなたは障がいのあるご本人の生活や進路等、一般生活について相談をしたことはありますか？(○印は1つ)

- | |
|-------------|
| 1.かなり相談している |
| 2.2～3回は相談した |
| 3.1回相談した |
| 4.相談したことはない |

Q3-4.あなたは親亡き後について、相談をしたことはありますか？(○印は1つ)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1.かなり相談している | →Q3-4(a)へ |
| 2.2～3回は相談した | →Q3-4(a)へ |
| 3.1回相談した | →Q3-4(a)へ |
| 4.相談したことはない | →Q3-5へ |

→Q3-4(a).相談をしたことのある方、誰に相談をしましたか？
(○印はいくつでも)

- | | |
|------------------|------------|
| 1.親族 | 2.障がい福祉事業所 |
| 3.相談支援事業所 | 4.権利擁護センター |
| 5.後見人(弁護士・司法書士等) | |
| 6.その他() | |

Q3-5.親亡き後に関するセミナーがあれば受講したいですか？(○印は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1.全く興味がない | 2.あまり興味がない |
| 3.受講したい | 4.かなり受講したい |

Q3-6.親亡き後に関する相談窓口があれば利用したいですか？(○印は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1.全く利用しない | 2.あまり利用しない |
| 3.利用したい | 4.かなり利用したい |

Q3-7.自分亡き後、誰に委ねたいですか？(○印は①②それぞれ1つずつ)

- | | |
|---------|------------|
| ①財産管理 | ②普段の生活支援 |
| 1.親族後見 | 1.兄弟姉妹 |
| 2.第三者後見 | 2.親戚 |
| 3.法人後見 | 3.障がい福祉事業所 |
| | 4.その他() |

Q3-8.ご本人のためにどの程度財産を残すことについて考えていますか？
(○印は1つ)

また、その金額は？

- | | |
|-------------|------------|
| 1.かなり考えている | 2.少し考えている |
| 3.あまり考えていない | 4.全く考えていない |

その金額

約 円

Q3-9.あなたは「一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会」をご存知ですか？(○印は1つ)

- | |
|----------------------|
| 1.事業内容を良く知っている |
| 2.保険を取り扱っていることは知っている |
| 3.名前は聞いたことがある |
| 4.あまりよく分からない |
| 5.全く分からない |

Q3-10.生活サポート総合補償制度(AIG普通傷害保険)に対する要望をお聞かせください。(○印は1つ)

- | |
|---|
| 1.現状の補償内容・保険料でよい |
| 2.保険料が現状より高くても補償内容の充実を →Q3-10(a)へ
図ってほしい |
| 3.補償内容が悪くなっても保険料が安いほうがよい |
| 4.その他() |

→Q3-10(a).どんな補償を充実してほしいですか？
(○印はいくつでも)

- | | |
|-------------|------------|
| 1.付き添い介護保険金 | 2.差額ベッド費用 |
| 3.入院諸費用 | 4.死亡保険金 |
| 5.通院保険金 | 6.個人賠償責任保険 |
| 7.その他() | |

以上で質問を終わらせていただきます。
ご協力ありがとうございました。

大阪知的障害児者生活サポート協会 支部(事業所)アンケート調査

Q1.ご記入頂く貴法人について教えてください。

Q1-1.貴法人名

Q1-2.法人形態(○印は1つ)

- | | |
|----------|---------|
| 1.社会福祉法人 | 2.NPO法人 |
| 3.一般社団法人 | 4.株式会社 |
| 5.その他() | |

Q1-3.実施事業(○印はいくつでも)

- | | |
|------------|----------------|
| 1.施設入所支援 | 2.共同生活援助事業(GH) |
| 3.就労移行支援 | 4.就労継続支援A型 |
| 5.就労継続支援B型 | 6.生活介護 |
| 7.相談支援事業 | 8.福祉型障害児入所施設 |
| 9.児童発達支援 | 10.放課後等デイサービス |
| 11.移動支援 | 12.その他() |

Q1-4.従業員数(常勤換算)

 人

Q1-5.事業所名

Q1-6.事業所所在地(市区町村)

 市・区・町・村

Q1-7.回答者の所属(○印はいくつでも)

- | | |
|------------|----------------|
| 1.施設入所支援 | 2.共同生活援助事業(GH) |
| 3.就労移行支援 | 4.就労継続支援A型 |
| 5.就労継続支援B型 | 6.生活介護 |
| 7.相談支援事業 | 8.福祉型障害児入所施設 |
| 9.児童発達支援 | 10.放課後等デイサービス |
| 11.移動支援 | 12.その他() |

Q1-8.障害福祉事業を実施するにあたって、以下のリスクをどの程度感じますか？
(○印は1つ)

	全くない	あまり感じない	普通	まあまあ感じる	かなり感じる
(a)虐待	1	2	3	4	5
(b)ヒヤリ・ハット	1	2	3	4	5
(c)設備・改修	1	2	3	4	5
(d)災害	1	2	3	4	5
(e)防犯	1	2	3	4	5
(f)資金	1	2	3	4	5
(g)人材確保・育成・定着	1	2	3	4	5
(g)地域との関係	1	2	3	4	5

リスクについてお感じのことあればご記入ください。

Q2.当協会、ならびに提供している商品・サービスについて

Q2-1.あなたは「一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会」をご存知ですか？
(○印は1つ)

1.事業内容を良く知っている

2.保険を取り扱っていることは知っている

3.名前は聞いたことがある

4.あまりよく分からない

5.全く分からない

Q2-2.現在、当協会が実施している事業の評価を教えてください。
(同封のリーフレットご参照下さい。)

	良くない	あまり良くない	普通	まあまあ良い	良い
(a)支部活動助成事業	1	2	3	4	5
(b)集まれグループホーム	1	2	3	4	5
(c)共催事業・ソフトボール大会	1	2	3	4	5
(d)共催事業・スポーツフェスタ	1	2	3	4	5
(e)表現活動支援	1	2	3	4	5

Q2-3.生活サポート総合補償制度(AIG普通傷害保険)に対する要望をお聞かせください。
(○印は1つ)

1.現状の補償内容・保険料でよい	→Q2-4へ
2.保険料が現状より高くても補償内容の充実を 図ってほしい	→Q2-3(a)へ
3.補償内容が悪くなっても保険料が安いほうがよい	→Q2-4へ
4.その他()	→Q2-4へ

→Q2-3(a).どんな補償を充実してほしいですか？
(○印はいくつでも)

1.付き添い介護保険金	2.差額ベッド費用	3.入院諸費用
4.死亡保険金	5.通院保険金	
6.個人賠償責任保険	7.その他()	

Q2-4.あなたは、親亡き後について、相談を受けたことはありますか？
(○印は1つ)

1.かなり相談される	→Q2-4(a)へ
2.相談されたことはある	→Q2-4(a)へ
3.あまり相談されない	→Q2-4(a)へ
4.相談されたことはない	→Q2-5へ

→Q2-4(a).相談を受けたことのある方、適切に回答できたと思われませんか？
(○印は1つ)

1.全くできなかった	2.あまりできなかった	3.普通
4.ややできた	5.かなりできた	
6.その他()		

Q2-5.親亡き後に関するセミナーがあれば受講したいですか？(○印は1つ)

1.全く興味がない	2.あまり興味がない
3.受講したい	4.かなり受講したい

Q2-6.親亡き後に関する相談窓口があれば利用したいですか？(○印は1つ)

1.全く利用しない	2.あまり利用しない
3.利用したい	4.かなり利用したい

Q2-7.今後、当協会の事業に対する期待度を教えてください。(○印は1つ)
また、期待することがあればご記入ください。

	全く期待しない	あまり期待しない	普通	まあまあ期待する	かなり期待する
(a)研修	1	2	3	4	5
(b)イベント	1	2	3	4	5
(c)余暇活動支援	1	2	3	4	5
(d)スポーツ支援	1	2	3	4	5
(e)なんでも相談窓口	1	2	3	4	5

期待すること

Q2-8-1.余暇活動で、他事業所で実施しているイベント等に参加できる等、メニューが増えたら、利用しますか？
また、希望される余暇活動があれば教えてください。(○印は1つ)

1.全く利用しない	2.あまり利用しない
3.利用したい	4.かなり利用したい

希望する余暇活動

Q2-8-2.貴法人の中で実施している人気のあるイベントや、一芸を持つスタッフの方等がおられましたら、詳しく教えてください。

Q2-8-3.貴法人のスタッフが(有償)ボランティアとして登録し、他事業所のイベントに参加するようなことについてどう思われますか？(○印は1つ)

1.全く良くない	2.あまり良くない
3.良い	4.かなり良い

Q2-9-1. 利用者の入院時等誰も付き添えない場合に、人材派遣ができるサービスがあれば利用しますか？（○印は1つ）

1. 全く利用しない	2. あまり利用しない
3. 利用したい	4. かなり利用したい

Q2-9-2. 貴法人のスタッフが（有償）ボランティアとして登録し、他事業所の緊急時のフォローアップに参加するようなことについてどう思われますか？（○印は1つ）

1. 全く良くない	2. あまり良くない
3. 良い	4. かなり良い

Q3. その他、相談を受けて困った事、あると良いと思われるサービスについて
思う所をどうぞ。

--

以上で質問を終わらせていただきます。
ご協力ありがとうございました。

アンケート調査検討委員会メンバー

- 安本伊佐子 一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 理事長
(社会福祉法人和泉つくし福祉会 理事長)
- 榊 皇雄 一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 理事
(ジェイアイシーウェスト株式会社 代表取締役)
- 大崎 年史 一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 事業運営委員長
(社会福祉法人四幸舎和会 統括施設長)
- 上原 文裕 一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 事業運営委員
(社会福祉法人四条曙福祉会 なわて更生園 施設長)
- 松山 茂美 一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 事務局長

協力：インサイト株式会社 代表取締役 関原 深
第2版自由記述回答整理・レイアウト：ハンドレッドラボ株式会社

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
アンケート調査報告書

第1版 平成30年12月発行

第2版 令和2年3月発行

発行人 安本 伊佐子

発行所 一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号
大阪府社会福祉会館内

TEL：06-6764-6889 FAX：06-6770-5988

E-mail：kyokai@osakasupport.or.jp